〔中原尚雄口供〕
〔園田長照等口供〕
〔前田素志等口供〕
〔野村　綱口供〕
（右の四口供は、本書所収の「鹿児島征討始末」に掲載されているものと同文であるので省略した）

是ヨリ先キ、十二三日ノ頃ヨリ熊本市内ノモノ、追〻家具家財等ヲ市外ヘ運搬ノ模様ナリシカ、愈〻狼狽奔走スルニヨリ、鹿児島人応接トシテ官員出張中ニ付、猥リニ立騒カサル様熊本市内ヘ達タリ、然ルニ最早事情切迫ニ付、万一如何立至リ候哉モ難計、就テハ老弱(若)男女等速カニ市外ヘ可立除旨、尚熊本市内ヘ相達シ、而シテ右立除候者、困窮ニテ糊口難渋ノ者ハ適宜ノ方法ヲ設ケ、精〻救助スヘキ旨区戸長ヘ達タリ、

午後第十時過、内務大書記官品川彌二郎熊本着ノ上出庁シタリ、

二月十九日

午前第八時十五分西京発ス電報ニテ三條太政大臣ヨリ左之通御達アリ、

　鹿児島県暴徒兵器ヲ携ヘ其県下ヘ乱入、叛迹顕然ニ付、本日征討仰セ出サレタリ、此旨相達ス、

　二月十九日

三條太政大臣ヨリ左ノ通電報ヲ以テ御達有之旨、谷陸軍少将ヨリ通知アリ、

鹿児島県暴徒熊本県下ヘ既ニ乱入ノ趣報知ニ付、本日征討被　仰出、有栖川宮ヘ征討総督被　仰付タリ、此旨為心得相達ス、

　二月十九日

午前十一時十分鎮台城自焼シ、天守始メ本営不残焼失、唯〻宇土櫓ト称スル処ノ一棟ノ櫓ヲ残スノミ、而シテ焔火延イテ第一大区六小区藪ノ内辺ヘ移リ、坪井・千反畑等戸数凡ソ千軒余焼失セリ、

午後第五時、第四大区三小区御船町(上益城郡、熊本市東南約一五キロ)ニ仮庁ヲ設ケ移転シ、一等属近藤幸止・東島寛澄等数名ヲ本庁ニ留メ置タリ、

熊本裁判所及ヒ区裁判所トモ本日同所ヘ移転セリ、

午後一時廿五分西京発ス電報ニテ左ノ通大久保参議ヨリ達アリ、

　本日長崎ヨリ綿貫(吉直)警視、巡査引纏メ其地ヘ向ケルニ付、諸事協議セヨ、

三條太政大臣ヨリ左ノ通電報ニテ御達アリ、

西京御駐輦被　仰出タリ、就テハ都ヘテ征討ニ関スルコトハ行在所ヨリ達ス、委クハ郵便ヨリ達スヘシ、

二月十九日

警視局ヨリ左之通電報アリ、

熊本郵便局為換ヤメルニ付テハ、過超金取締タシ、別シテ郵便注意アレ、

伊藤(博文)工部卿ヨリ左ノ通電報ニテ達アリ、

電信局鎮台ヘ引移リ、県庁ノヘダタ(本ノマヽ)ヲ電信配達指差(差支カ)ルニ付、常ニ電信受取ノモノ同局ヘ指出置クベシ、

午後第十二時五十五分西京発ス電報ニテ三條太政大臣ヨリ左ノ通御達アリ、

鹿児島県暴徒、兵器ヲ携ヘ熊本県下ヘ乱入、叛迹顕然ニ付征討被仰出タリ、就テ右逆徒自然遁逃又ハ潜匿可致哉モ難計ニ付、取締手配ヲナシ厳重捜索捕縛スヘシ、尚委細ハ郵便ニテ達スヘシ、

午後第十二時警視局巡査八十人着県シタリ、

昨十八日一等属近藤幸止等、鹿児島県人数宿配総轄河野四郎左衞門外二名ヘ応接ノ際、人数操(繰)出シノ模様ヲ聞タルニ、今夜二千人計別府所左衞門総轄ニテ日奈久(ひなぐ)泊リニテ、明十九日小川泊リノ筈ナリト、又宿割ハ熊本ヨリ何レヘ道スルヤト問ヒシニ、熊本以北ハ未タ相知レス、先ツ熊本迄ノ積リニテ操リ出シタル旨答ヘタリト、

十八日、九年十月暴動(神風連の乱)ノ懲役人四十三名、大分県ヘ送致セリ、而シテ其旨本日内務省ヘ届ケ出タリ、

今般征討被仰出ニ付、東京ヨリ出張ノ巡査小銃持参、及ヒ本県巡査帯刀ノ儀臨機差許シタル旨、品川大書記官連署ニテ鎮台ヘ通知セリ、

昨十八日桑原七等出仕ヘ、至急帰県スヘキ旨申達ノ電報通達方、槇村京都府知事ヘ依頼セシニ、未タ着セサルニヨリ、着次第通達スル旨本日電報ニテ回答アリ、

二月廿日

賊兵二月十五日鹿児島出立シ、同十七日県下水俣ニ泊シ、本日午後第三時、壱番隊ハ川尻ニ着、弐番隊ハ宇土ニ着セリ、

賊兵ハ六大隊ニテ壱万弐千人ト号ス、而シテ壱番大隊長ハ別府新助、二番大隊長ハ知レス、三番大隊長ハ村田ニテ、四番隊ニ西郷アリ、篠原・桐野ハ六七番隊長ナリト、

午前第三時、警視局巡査百十五名綿貫小警視引卒シテ着シ、同十一時尚又弐百五十名着シタリ、先キニ着県シタルモノヲ合セ、出張ノ巡査総計四百四十五名、皆ナ銃器

弾薬ヲ携持シ来レリ、
昨十九日鎮台出火ヨリ、引続熊本市中処々出火シ、鎮台ヨリ要衝ニ当ルノ架橋等ヲ焼キ払、炎焰天ニ漲リ、火勢愈盛ンニシテ未タ底止消滅ノ程ヲ知ラス、斯クノ次第ニ付、熊本市在ノ人民ハ尽ク避ケテ市外ニ出テ、市中ノ形況実ニ目ニ視ルニ忍ヒサルナリ、
即今当県非常ノ際ニテ、巡査其外ヘノ食糧多分入用ニ付、兼テ御達ニヨリ買上タル米相用ヒ、且ツ金ノ義モ、何レ臨時費申立ツヘシト雖トモ、指向キ租税金ヨリ遣ヒ払フベク、コノ義夫々聞置レ度旨電報ヲ以テ大蔵卿ヘ申出タリ、即日電報ニテ左ノ通指令アリ、
米金トモ遣ヒ払ヒノコト聞届ケリ、追テハ受ケ納メノ手続セヨ、
当県士族ノ挙動タルヤ、未タ其形チニ顕ハレスト雖トモ、各種ノ党派呶々囂々トシテ議論互ヒニ相容レス、或ハ云フ、薩人頻リニ刺客ノ事ヲ以テ名トスト雖トモ、果シテ然ルカ如キハ、大久保内務卿・川路大警視ト西郷・篠原等ト相互ヒノ私事ナル耳、然ルニ何ソ国法ヲ犯シ兵器ヲ弄シ、多数ノ人員ヲ率ヒ、他ノ人民ヲ動揺セシムルコトヲ為スト、或ハ云フ、西郷等豈ニ小憤ヲ以テ事ヲ挙ル者ナランヤ、必スヤ大ニ見ル所アリテ然ルモノナラント、或ハ云フ、コノ事ノ起ルヤ、其原由ハ大政当ヲ得サルニ因レリ、故ニ愚存ヲ建言セント上京願出ツル等、其他各党数種ノ論議紛々タリ、而シテ他ノ人民ノ蚩々タルハ、顚蹶狼狽、東西奔馳、実ニ傷心ニ堪ヘサルナリ、

二月廿一日

午前第四時頃、我鎮台ノ斥候兵川尻ニテ賊兵ニ行逢ヒ、始メテ一小戦ヲナシタリ、
午後第二時頃、台兵洗馬橋畔ニテ賊徒二名ヲ射殺シタリ、
鹿児島県ヨリ各府県ヘノ通知書ヲ持チ、モギ浦ヘ(茂木、長崎県)来リシモノ拾名、昨廿日夜捕縛シタル旨、長崎県ヨリ電報ヲ以テ通知アリ、而シテ先キニ当県ヘ来リシ専使ハ、何レモ福岡ニテ捕縛セリ、
鹿児島人ノ帯剣或ハ銃器ヲ携ヘルモノ弐拾名程、モギ浦ヘ上陸セシユヘ、拾名余捕縛シタル旨、尚又長崎県ヨリ電報ニテ通知アリ、
神戸ヨリ歩兵四千人本日午前ニ福岡着ノ筈ナル旨、該県ヨリ電報ニテ通知アリ、
大久保内務卿ヨリ左ノ通電報ヲ以テ達アリ、
兵隊屯集ノ節粮米無指閊様充分手当致シ置クヘシ、支

庁へモ都合シヲケヨ、

午後第五時、権令(富岡敬明)、品川大書記官等ト総督宮御出、且ツ諸般ノ都合ニヨリ本県庁へ復帰セラレタリ、

当夜ヨリ電信線切断シテ通セス、依テ八等属井坂幹ヲ久留米電信局へ遣シ、尚引続等外一等出仕脇山武和ヲ同局へ遣シ、目下ノ事情ヲ東西京へ急報セシメタリ、

熊本市中ノ火勢益〻盛ンニシテ、本日ニ至リ東西南北ニ延焼シ、市中七分迄モ焼失ノ模様ナリ、而シテ火尚ホ消滅セス、

鹿児島県暴徒御征討ニ付、野津(鎮雄)陸軍少将一旅団ヲ率ヒ、三好(重臣)陸軍少将一旅団ヲ率ヒ、本日出発ノ電報有之旨熊本鎮台ヨリ通知アリ、

是ヨリ先キ、熊本鎮台へ小倉分営ノ兵一大隊ヲ徴シタリ、内弐中隊去ル十九日到着シ、而シテ残ル中隊本日迄尚到着セス、

二月廿二日

賊兵遂ニ熊本へ迫リ進ミタリ、是ヨリ先キ鎮台ニハ籠城防戦ノ積リニテ、二月十四日ヨリ士官等モ本台へ詰切リシカ、同十九日ヨリ全ク籠城セリ、是ニ於テカ、賊兵本日午前第八時ヲ以テ城ノ八方ヨリ小銃ヲ発ツテ攻メ来リ、藤崎口尤甚シ、台兵能ク防キ戦ヒ、大小銃発ツコト雨ノ如ク、又霰ノ如シ、第九時頃ヨリ相方最モ苦戦シ、午後四時ニ至リ始メテ休戦シタリ、コノ戦ヒヤ台兵気勢殊ニ盛ンニシテ、且ツ善ク戦ヘリ、賊兵亦タ頗ル鋭ナルカ如シト雖、一野砲ノアルナク、我カ激砲ニ固ヨリ敵スル能ハス、台兵全ク勝利ニテ、賊ノ七番小隊長宇都宮龍(良)左衛門ヲ射殺シ、其他ノ賊兵ヲ殺傷スル殆ント五六十人ヲ超ユルナルヘシ、而シテ台兵ノ死傷僅カニ十二三名ノミ、其中チ與倉(知実、第十三連隊長)・樺山(資紀、鎮台参謀長)ノ両中佐モ疵傷ヲ受ケタリキ、

藤崎ノ戦ニ於テ我カ軍曹小川三政、跡込スタール銃壬申四八一五白川県(後の熊本県)ノ検査印アルモノヲ分取シタリ、而シテ台兵某ハ肥後人ニ類似スルモノ、馬上兵卒ヲ指揮スルヲ狙撃シテ斃セリ、或ハ云フ、池部吉十郎ニアラサレハ松浦新吉郎ナリト、然レトモ其死屍ヲ獲サルニ付其事ヲ詳カニセス、

賊兵既ニ熊本ニ充満シ、道路梗塞シテ通セス、依テ警護兵ヲ借リ、八等属青山輝正ヲシテ久留米電信局ニ就キ、戦状ヲ東西京ニ報セシメタリ、然ルニ賊ノ支ヘラレトナリ、終ニ往クヲ不得シテ帰来セリ、コノ時ニ当リ右警護兵即チ東京巡査某、京町通ニ於テ賊ノ斥候ニ逢ヒ之レヲ

逐射ス、中ラス、其刀銃二品ヲ分取ス、銃ニ竹下順助ト記載シタル木札ヲ付ケアリタリ、

午前第八時頃、賊兵ノ小隊安政橋ヲ経過ス、台兵着発弾ヲ以テ狙撃シタリ、其着発意ノ如シ、我兵快ト称ス、

熊本市中ノ炎焔尚ホ未タ消滅セス、各処火烟ノ上ルヲ見ル、偶焼ケ残ルノ土蔵等之レアルモ、合戦不便ニ当ル分ハ鎮台ヨリ焼キ、玉ヲ発ツテ焼キ払ヘリ、

是ヨリ先キ二月十二日・十三日ノ両日ニ於テ、熊本鎮台烟火ヲ揚ケ競馬ヲ行ヒ、或ハ角力ヲ取ラシメ、盛ンニ戦死者ノ招魂祭ヲ執行セリ、コノ執行ヤ兵士ノ気勢ヲ張リ勇気ヲ益シ、今回ノ合戦ニ於テ其勢力ヲ助クルノ一効トナレリ、

二月廿三日

午前第三時、賊兵西南ヨリ藤崎及ヒ古城ニ向ヒ攻撃シ来レリ、台兵之レニ応シ大小銃ヲ激発セリ、午前第九時、賊兵花岡山ヘ大砲三門ヲ上ホシタリ、是レヨリ賊兵始メテ大砲ヲ用ヒ、尓後互ヒニ砲戦トナレリ、而シテ午後第五時ニ至リ合戦僅カニ止ム、

賊ノ飛丸雨ノ注クカ如ク、県庁居ルヘカラス、依テ権令・品川大書記官等ト避ケテ鎮台ニ移レリ、

午後第四時小萩山ニ於テ火ヲ揚クルアリ、幕寮(僚)云フ、小倉兵ノ鎮台ニ来ルモノ、或ハ合図ヲナシ我ニ示スモノナラント、而シテ終ニ不来、

午後第九時賊兵上林ニ集リ頻リニ発砲シ、第十時前ヨリ内坪井及ヒ京町辺ヨリ小銃ヲ激発シ、第十二時頃ニ至リ、藤崎並ニ古城ノ方ヘ転シ盛ンニ発砲セリ、

昨日ノ戦争ニ於テ、賊兵ノ士官ラシキモノヲ射殺セリ、或ハ云フ、遠眼模糊ナリト雖、其風姿別府所左衛門ニ類似セリト、

コノ日午後第五時ヨリ細雨霏〻タリ、

二月廿四日　天晴

午前一時廿分ヨリ賊兵段山ヨリ砲発ヲナシ、同八時宮内向ヨリ又発砲セリ、台兵之レニ応シ発砲ス、賊元大砲都合六門計リ所有ノ模様ナリ、内一門本日花岡山ニ於テ我カ大砲ノ撃破スル所トナレリ、

午後第五時頃、賊兵狼狽ノ体ニテ往〻退散ノ模様アリ、

当県(熊本県)士族ノ内或ハ賊徒ニ与ミスル模様アリ、既ニ米田監物元家来久保田某外二名ヲ捕縛シタリ、然レトモ当県士族ハ戦争ノ際ニ於テモ、自ラ薩賊ト別異ノ体ヲナシ、後ロ鉢巻ニテ羽織袴ヲ着スルモノ多シト、

與倉中佐疵傷治シ難ク、昨夜終ニ死シタリ、

開戦以来本日迄疵傷ニヨリ病院ニ入リタルモノ六十余名アリ、

午後第五時過ニ及ンテ賊兵ヤ、退キ、京町通其他ノ道路通スル趣ニヨリ、鎮台看囚宍戸某(正輝)ト共ニ雇古藤秀雄・布田直記ヲシテ、百貫(坪井川口)碇泊ノ軍艦ニ消息ヲ通シ、且ツ東西京ヘ電報差出シノ為メ出城セシメタリ、

午後第八時、八等属青山輝正ヲシテ御船町仮庁(仮県庁)ノ模様見分、且ツ東西京ヘ電報差出シノ為メ出城セシメタリ、

二月廿五日

昨日合戦ノ後賊兵退散ノ模様ニテ、為指戦争ナシ、唯各処焼ケ残リノ土蔵又ハ土塀等ニ、五人或ハ十人潜伏スルノ賊ヲ狙撃スルノミ、而シテ潜伏ノ賊ハ、県下神風連ノ如キ徒ナルカ、時トシテ弓矢ヲ放ナテリ、

城中酒罄キタリ、依テ午後第二時頃ヨリ六等属森下武重、焼ケ残リタル市中ノ酒蔵ニ就キ取ラント、夫卒ヲ率ヒテ出城セリ、然ルニ処々潜伏ノ賊兵等狙撃シテ支フルニ付、其事ヲ不果シテ帰レリ、

御船町仮庁ノ消息未タ詳カニスルヲ得ス、午後一時頃、等外一等出仕積惟治ヲ該処ヘ指向ケタリ、

開戦ヨリ本日マデ、台兵ノ死タルモノ総計三十六名ナリ、而シテ賊ノ死傷ハ、想フニ数百ニモ及ヒタルヘシ、

二月廿六日

賊兵花岡山ヨリ時々大砲ヲ放チ、各所潜伏ノ賊兵モ時々小銃ヲ放テリ、而シテ台兵之レニ応シ大小銃ヲ放ツノミ、

正午第十二時頃ヨリ、植木地方ニ当リ本城ヲ距ル二里内外ノ処ニテ、頻リニ砲声ノ響キアリ、小倉兵或ハ賊兵ト戦フモノナラントシ、既ニ台兵半大隊右地方ヘ向ケ進撃ノ議ニ及ヒタリト、

午後第六時頃ヨリ、金峯山裏面ノ海上ニ当リ数声大砲ノ響アリ、

同時頃賊兵花岡山ヨリ頻リニ発砲シ、同七時廿分千葉城ノ麓ヨリ亦タ発砲シタリ、台兵之レニ応シテ発砲セリ、

鎮台ヨリ市街ニ向ヒ時々焼キ玉ヲ発ツニヨリ、今夜ニ至ルマテ尚各所ニ炎烟ノ起ルヲ見ル、

午後第十時頃城中ニ於テ烟火数発ヲ揚ケタリ、

二月廿七日

午前第四時、鎮台ノ喇叭手拾数名喇叭ヲ吹キ、数回城中ヲ巡リタリ、

午前第九時三十分、六等属森下武重台兵五十名ト共ニ出

城シ、京町ニテ大豆三俵・生酒廿四樽ヲ取リ帰レリ、コノ時賊兵各所ニ二三人或ハ四五人散居シタリト雖モ、台兵ノ至ルヲ見テ皆ナ遁匿セリ、

午後第三時、台兵三小隊・警視局巡査一小隊ヲ以テ、賊兵ノ坪井辺ニ拠ルヲ衝キ、其台場ヲ奪ヒ巣窟ヲ焼キ、互ヒニ死傷アリ、我カ大迫(尚敏)大尉ハ頬部ヲ射徹サレ、池端(蛙)警部ハ死シ、而シテ其戸ヲ獲ス、第六時ニ至リ引揚ケタリ、

右戦争ノ後ハ、終夜台兵各自ノ持場ヨリ各処潜伏ノ賊兵ヲ探撃スル耳、

二月廿八日

昨日ノ進撃ニ於テ、台兵ノ即死スル者五人ニテ、手負九人ナリ、巡査ノ即死スル者六人ニテ、手負四人ナリ、内三人ハ我カ破裂丸ニテ傷セリ、而シテ警部補詫摩道保モコノ戦争ノ際即死セリ、

午前第十時、六等属森下武重夫卒ヲ率ヒ、聚糧ノ為メ洗馬辺ヘ出タリ、然ルニ賊兵ノ為ニ狙撃セラレ、僅カニ玄米弐拾俵ヲ得テ帰レリ、

鎮台ノ乗馬壱疋花岡山賊砲ノ為ニ傷ケラル、台中肉既ニ尽キタリ、依テ屠テ兵士ニ頒ツ、皆ナ旨(うま)シト称ス、

本日合戦ナシ、唯台兵各所潜伏ノ賊兵ヲ探撃スルノミ、

三月一日

本日賊兵花岡山ヘ出没シ、人数増加ノ模様ナリ、台兵片岡邸藪ノ内ヘ台場ヲ新築シタリ、コノ時賊兵山上ヨリ頻リニ空砲ヲ発シ、山下ヨリ破裂丸ヲ放ツテ支ヘタリ、台兵之レニ応シテ発砲セリ、以後唯各処潜伏ノ賊兵ヲ探撃スル耳、

去月廿二日開戦之時ニ方タリ、藤崎ヨリ賊兵ヲ進撃セリ、其際台兵斎藤彌七ヲ失フタリ、皆ナ以為ク、彌七賊丸ニ中リテ死シ、其屍ヲ獲ラルト、台兵或ハ処々探索スト雖トモ獲ス、然ルニ本日ニ至リ藤崎ノ麓ヨリ仰ヒテ麾クモノアリ、台兵賊ナリトシ一丸ヲ発ツ、中ラス、尚麾クコト人ヲ召フ状ノ如シ、依テ台兵其傍ニ至リ之レヲ見レハ、則チ先キノ斉藤某ナリ、某頬部及ヒ足脛ヲ射徹サレ死セス、白昼動ク寸(時)ハ賊ニ認メラルノ恐レアリ、故ニ菰ヲ冒リテ静カニ伏シ、夜ハ間ヲ伺ヒ僅ニ匍伏シ、八日ヲ経テ終ニ本日帰営セリ、其間固ヨリ一飲食ヲナサス、疲労甚シ、然レトモ医員云フ、尚ホ生クベシト、

本日兵粮ヲ実査スルニ現石六百石余アリ、以後尚廿三日ヲ支フベシト、

　但壱日分現今廿九石ヲ費用スト、

三月二日
賊兵各処ヨリ時〻発丸、台兵之レヲ狙撃シ、別条ノ合戦ナシ、
午前第九時、聚糧立会トシテ六等属森下武重出張シ、坪井・京町辺等ニテ米五拾俵ヲ得テ帰レリ、
三月三日
先キニ外情探索等ノ為メ、鎮台ヨリ出城セシメタル看囚宍戸某本日帰営セリ、其復命書左ノ如シ、
一高橋街道全ク梗塞セリ、
一百貫沿海ニ賊兵番船ヲ置ク、
一廿五日賊兵横島ヨリ高瀬ニ操出ス、凡ソ七百計リ、
一廿六日高瀬・植木ノ間処〻ニテ戦争アリ、
一高瀬ニ着シテ乃木少佐（希典、第十四聯隊長心得）ニ面謁ス、
　但シ十四聯隊ナリ、
一高瀬以北ハ悉ク官兵ノ占領スル処トナル、
一山鹿ハ占テ又賊ノ有トナル、
一乃木少佐ノ命ヲ受ケ南関（玉名郡）ニ至ル、
一高瀬ヨリ南関迄山ト無ク川ト無ク悉ク官兵充満セリ、
一両旅団ノ本営ハ南関ニアリ、
一南関ニ来ル電信ニ曰ク、廿二日百貫沖ニ碇泊スル軍艦ノ士官壱名、水夫八名上陸シテ行衛不相分、
一高瀬ノ賊兵熊本士族ヲ混合セリ、此賊兵大砲ハ所持セス、
一不日第三旅団モ着ノ筈、
一征討将軍ハ本日頃南関ヘ着ノ筈、
一電信ハ南関ヨリ相通ス、
一熊本県庁（二月二十四日出張所、二十八日仮庁）ハ南関寺院ニ置ク、
一山鹿ノ賊ハ大凡ソ三千人トノ風評、
一賊大津街道ニ出張之レアル由、
一鶴崎口ヨリ官兵七百人計リ来ル由、
一西郷・桐野・篠原等ノ位階ヲ奪ハレシトノ風評、
　以上
宍戸某尚ホ曰ク、薩ノ蒸気船壱艘ヲ官兵奪ヒ取リタリ、船中少〻弾薬ヲ積ミ置キタルト、
又曰ク、当県士族ノ内ヨキ分ハ決シテ動カスト雖、力士様ノモノ専ラ周旋シ愚民ヲ煽動シ、為メニ党与ヲ募ルト、
又曰ク、農民ノ内賄ノ焚キ出シ等無銭ニテ之レヲ為シ、或ハ献金スルモノアリト、
又曰ク、西郷ハ夜〻寝処ヲ替ヘ坪井辺ニ潜伏スト、
又曰ク、賊等農商ヲ欺クニ、諸事旧政ノ如クナシ遣ス云

ミノ言ヲ以テシ、専ラ人望ヲ取リ欣慕セシムルノ術ヲナスト、
又曰ク、熊本旧知事（細川護久）愈出県ノ由ナリト、
又曰ク、廿二日植木町・木葉宿ノ間ナル向坂ニテ戦争アリ、官軍大ニ利アリ、廿三日官軍高瀬ニテ賊兵ト戦ヒ、廿四日処々ニテ戦争シ、彼我相引セリ、廿五日・廿六日官軍木葉迄進撃、勝利、
又曰ク、山鹿ニテ賊ノ死骸ヲ葬ル、四百人ニ及ヘリ、
又曰ク、野津少将ハ南関本営ニアリ、三好少将ハ賊丸ノ為メ手ニ疵ヲ受ケ、乃木少佐ハ足ヲ傷セリト、
又曰ク、山鹿ヨリ一里余北ニ方リタル南関往還、腹切坂ノ嶮ニ拠リテ官軍賊兵ヲ拒ケリ、廿六日賊高瀬町ニ放火シ過半焼失セリト、
又曰ク、賊兵ノ内白鉢巻ニテ甲冑ヲ着シタル者ヲ見受ケタリト、
午後第九時三十四分ヨリ、高瀬地方ニ当リ大小銃ノ声遙カニ聞ヘリ、
午後一時頃賊兵花岡山ヨリ天守ヲ狙ヒ頻リニ発砲セリ、其他別条ノ戦ナシ、唯々時々賊兵発丸シ台兵之レヲ応撃スルノミ、

三月四日
午前第九時頃、花岡山麓ヨリ賊兵本営へ向ヒ数度発砲セリ、
午前第十時頃ヨリ降雨霏々、賊兵時々発砲、台兵応撃、又探撃ス、
賊ノ死体本日迄川尻ニ葬ル者数十名アリト、

三月五日
開戦以来本月二日迄、我カ台兵ノ戦死スル者五十二人、軽重傷ヲ受クル者都合百八拾弐人ナリ、其内本日迄猶又五六人死セリト、
午前第十時頃ヨリ植木地方ニ当リ頻リニ砲声ノ響アリ、午後第四時ヨリ烈シク小銃ノ声アリ、而シテ朝来ノ砲声ニ比スルニ、其響キ近ク聞ヘリ、
花岡山ヨリ賊兵時々発砲シ、台兵応撃又ハ探撃スルコト例ノ如シ、
昨朝来依然雨天、夜ニ至リテ晴レタリ、

三月六日
午前第九時頃、賊花岡山ヨリ数度大砲ヲ発テリ、同十時ヨリハ鎮台錬兵場ヨリ頻リニ小銃ヲ射発セリ、台兵之レト応戦セリ、

植木左方ニ当リ終日大小銃ノ声響烈シク聞ヘリ、
本日午後第四時、長官及ヒ品川大書記官等本県庁ニ復帰セラレタリ、鎮台ニ在ルコト十有二日ナリ、
三月七日
午前第八時過ヨリ、賊兵城ノ東南西ヨリ大小銃ヲ以テ烈シク攻撃シ来レリ、台兵之レヲ邀戦シ、同第十時過ニ至テ止ム、コノ戦ニ於テ台兵ノ即死スル者二人、手負十一人アリ、
正午第十二時、賊兵一大隊程白川向フ筋ヨリ北方ヘ操リ出シタリ、
右激戦ノ後賊兵各所ヨリ時々小銃ヲ発チタリ、台兵亦タ之レヲ応撃ス、
三月八日
午前十時三十分ヨリ賊兵花岡山及ヒ安政橋畔ノ台場ヨリ発砲シ、同十一時過ニシテ止ム、
午後一時四十分ヨリ花岡山ノ賊兵ト大小銃ノ戦アリ、飛丸恰モ織ルカ如ク、県庁ノ屋上ヲモ一ノ破烈丸ノ為メ穿タレタリ、同三時三十分ニシテ止ム、
晩来ヨリ雨降リ夜半ニ至リ甚シ、然レトモコノ夜合戦ナク、唯々台兵ノ各所ヲ探撃スルアル耳、

三月九日　半晴　半雨
午前第十一時頃ヨリ植木地方ニ当リ大小銃ノ声響アリ、
午後第四時前ヨリ賊兵花岡山及ヒ安政橋辺ヨリ頻リニ発砲シ、台兵応撃、同五時三十分ニシテ止ム、尓後台兵例ノ如ク時々各処ヲ探撃スル耳、
三月十日
午前第九時二十分、台兵安政橋辺屯集ノ賊兵ニ向ケ発砲セリ、賊兵亦タ発砲シテ応シタリ、
午後第二時頃ヨリ、賊兵細工町辺ヨリ古城ヘ向ヒ頻リニ発砲セリ、
晩来小雨霏々、暫時ニシテ晴ル、
台兵ノ探撃例ノ如シ、
三月十一日
本日午前賊兵ヨリ左ノ矢文ヲ片山邸ヘ投射セリ、
矢文写
今般政府妄リニ暗殺ヲ謀リ、自ラ国憲ヲ犯スノ罪有之、尋問之為西郷陸軍大将外二名、衆ヲ師ヒ此ニ至ルニ、当県鎮台名義ヲ弁セス、城ヲ閉チテ逆ヘ拒キ人民ヲ妨害ス、其罪甚シ、我衆憤怒シ将ニ日ヲ刻シ、城中ヲ鏖ロシニセントス、然レトモ曚昧脅従ノ輩其情憫ム可キ

ニ在リ、諸口〻前非ヲ悔ヒ兵器ヲ捐テ、来服スル者ハ、必シモ其罪ヲ問ハス、且山鹿・高瀬諸道ノ東軍、我悉ク之レヲ撃破ス、各県義兵起ル蜂窠ヲ破ルカ如シ、然ルニ公等猶孤城ヲ守リ、粮竭キ援絶ヘ危キコト瞬息ニ在リ、公等其レ速カニ向背ヲ決セヨ、

三月　　薩摩陣中

おふゑんハ皆うちやぶれり、籠城のともから兵き(器)ヲすてゝくだるものハ、いち命(一命)ヲたすくるものなり、

午前第三時頃ヨリ植木ノ左方ニ当リ、頻リニ砲声聞ヘリ、

午後一時三十分ヨリ賊兵烈ケシク本台ニ向ヒ発砲シ、台兵亦タ痛ク応砲シ、第五時ニ至テ止ム、

午後第七時頃台兵数度発砲シ、余ハ例ノ探撃スル耳、

晩来植木ノ左方ニ当リ烈シク小銃ノ声アリ、夜半過キニ至テ止ム、

三月十二日

午前第十時頃ヨリ双方互ヒニ少〻発砲セリ、

第六大区三小区菊池郡水次村平民内藤彌富ナル者ヲ、本日午前ニ於テ下馬橋口ニテ捕縛セリ、コノ者タル、熊本段山村ニアル親属ノ安否ヲ尋問セン為メ来リシ途中、昨十一日午前第二大区十小区春日村ニテ賊ノ為メ捕縛サレ、今朝マテ拘引ノ上官軍ノ間者タル疑ヒヲ受ケ、種〻糾問ニ会ヘリ、該賊ハ当県士族大矢野八郎ナル者長トナリ、其他五拾名程附随セリ、而シテ今朝ニ至リ、大矢野八郎外二名ニ引連レラレ、長六橋屯集ノ賊軍本陣ト覚シキ処ニ参リ、城外マテ我カ使トシテ往キ、其功ヲ立ルニ於テハ放免スヘキ旨申入レラレ、使ト大書シ下ニ昨日投射シタル矢文ノ文意ヲ記載シタル旗ト、籠城諸君鹿児島陣中トシタヽメタル書面ヲ持チ、下馬橋際ニ来リ、右ノ旗ヲ建テ遁レ帰ラントスル際、下馬橋口ノ台兵之レヲ認メ、捕縛ノ上城中ニ拘留セリ、

午後第六時京町仏厳寺兵燹ニ罹リ焼失セリ、

三月十三日　午前第七時コロヨリ小雨暫時ニシテ晴

昨十二日午後第五時過ヨリ、川路(利行)・池端(清秀)ノ両警部所部ノ巡査廿名計ツヽヲ引率シ、段山屯集ノ賊兵ヲ襲ヒ、引続台兵及ヒ渡邊(佳介)警部所部ノ巡査始メ進撃シ、小銃ヲ以テ迫リ徹宵絶間ナク発射セリ、我第一大隊第一中隊ノ兵八人終ニ賊営ニ斫リ入タリ(コノ時七人、マテ戦死ス)、コノ際賊兵等ハ井芹川ノ土居ニ拠リ応撃セシ処、我カ小倉分営ノ兵及ヒ東京巡査等、側面ヨリ之レヲ撃チ烈シク迫リ進メリ、於是ヤ賊兵等最早敵スル不能、吃驚狼狽或ハ兵器ヲ拋棄シ、死尸ヲ

荷担シ大ニ敗走セリ、官軍勝ニ乗シテ北クルヲ逐ヒ、大小銃ヲ発スル、実ニ迅雨ノ注クカ如シ、午後第一時ヨリ三時迄ノ間最モ甚シク、終ニ賊営ヲ焼キ台場ヲ奪ヒ、午後第四時ニ至リ尽ク逐ヒ払ヒ、段山全ク我カ防禦線内トセリ、

コノ戦ヒヤ、開戦以来今日迄ノ一大激戦ニシテ、実ニ愉快ノ大勝利ヲ得、賊兵四名ヲ生獲シ、小銃二百有余、弾薬千有余個・其他刀剣等ヲ分捕シタリ、其死傷ハ詳カニシ難シト雖、現ニ死尸ノ戦跡ニ斃レタルモノ概計百廿余名アリ、而シテ我カ官兵ノ死傷ハ九拾余名ナリ、内警視局出張ノ分即死十九人（神足・池端両警部、エコノ中ニアリ）、傷六十九人（川路警部モコノ中ニ在リ）ニテ、鎮台兵ハ士官四名即死セリ、其他ノ死傷ハ未タ詳カナラス、

斃死シタル賊兵、木札ニ薩州村尾直二郎、裏ニ五ノ八番小隊ト書スルヲ付ケタルモノ、左ノ書翰ヲ懐中セリ、

去ル二月十七日庁下発程、伊集院町ニ昼休、市來港（湊）町ニ一泊、同十八日川向町（向田町カ）ニ昼休、阿久根ニ一泊、同十九日野田麓ニ昼休、出水麓町ニ一泊、同廿日米ノ津ヨリ乗船ニテ、同廿一日熊本県下松橋ニ着船、此夜直ニ未明迄ニ熊本城ニ達、同廿二日終日戦争、同廿三日ヨリ同廿六日迄城中之敵兵不出、之カ為メニ柵外ヲ守ル、同廿七日高瀬ト申邑ニテ戦争、味方之兵少シテ甚タ苦戦セリ、同廿八日復植木町ト申野町ニ退陣ス、木ノ葉ト申所ニ進軍致シ候処、味方之兵少シテ苦戦仕ニ付、退テ田原村ニ宿陣ス、同四日ヨリ同六日迄不止戦、同七日切込ニテ全ク勝利ヲ得タリ、首ヲ得ルコト八十九ナリ、同八日熊本二本木町ト申処ニ帰陣ス、同九日モ止休、前件ノ通拙報仕候事、拝、

再陳、自分ニモ大元気ニテ勤軍仕候間、御家内様ニモ御壮健候哉、自分ニハ御気仕申間敷候事、

丑三月九日

右生捕ヲ糾弾シ、西郷・桐野・篠原等出張シタルヤ否ヲ尋ルニ、川尻ニテ言ヲ交ヘスト雖トモ、見受ケタル旨白状シ、且ツ篠原ハ高瀬ニテ戦争ノ節死シ、其他城外四方屯集ノ人数ハ、八小隊計ナル旨ヲモ白状シタリト、

金峯山ノ裏面ニ方リ、小銃ノ響終夜絶間ナク烈シク聞ヘリ、

時々探撃常ノ如シ、

三月十四日

午前弟十時廿分ヨリ賊兵発砲ヲ始メリ、而シテ台兵之レ

ニ不応、砲数撃セリ、
夕刻ヨリ北方ニ当リ小銃ノ響烈シク聞ヘ、終夜聊カ絶間ナシ、
時々探撃常ノ如シ、
三月十五日
夜来北方ノ銃声依然絶間ナク、其間時々大砲ノ声アリ、
正午十二時過ニ至リテ止ム、
午前第五時過ヨリ本妙寺出火セリ、コレ鎮台ヨリノ焼キ払ニ罹ルモノナリト、
六等属森下武重鎮台ヨリノ聚糧立合トシテ出張シタリ、
コノ日各所ニテ米・麦・豆・蕎麦等、都合百五十俵ヲ取リ帰レリ、
台兵及ヒ賊兵互ヒニ時々警備砲ヲ発セリ、
三月十六日
暁天ヨリ午前第七時過ニ至ルマテ、北方ニ当リ亦タ銃声アリ、
午前第七時前ヨリ賊兵発砲ヲ始メ、終日時々発射シ、台兵之ヲ応撃セリ、
午後第二時ヨリ六等属森下武重聚糧立会トシテ例ノ如ク出張シ、米・粟ヲ合セ百三十俵余ヲ取リ帰レリ、
互ヒニ警備砲ヲ発スル常ノ如シ、
三月十七日
昨夜半頃ヨリ北方ニ当リ銃声不絶相聞ヘ、夕刻ニ至リ一層烈シク、終ニ徹宵止マス、而シテ其声響前日ヨリ稍近キヲ覚ヘリ、
花岡山・長六橋傍等ハ、賊兵時々二三発宛大小銃ヲ発シ、台兵亦之ヲ応撃セリ、
夜半互ヒニ警備砲ヲ発スル常ノ如シ、
三月十八日
城北ノ銃声猶不絶聞ヘ、夜ニ至リ亦ヤヽ近ク、或ハ云フ、小萩野辺ナラント、其間砲声ヲ雑ヘ終宵マテ絶間ナシ、
賊兵時々大小銃ヲ発射シ、台兵之レヲ応撃セリ、其他時々警備砲ヲ発スル等常ノ如シ、
三月十九日
午前第十時過マテ城北ノ銃声猶等聞ヘ、午後第三時頃ヨリ砲声最モ近ク聞ヘリ、暫時ニシテ止ム、
午後第三時三十分ヨリ花岡山・長六橋屯集ノ賊兵ト砲戦アリ、暫時ニシテ止ム、其他互ヒニ警備砲ヲ発スル常ノ如シ、
二月廿二日ヨリ本日迄、我鎮台兵及ヒ警視局出張警部・

巡査ノ死傷左ノ如シ、

一死　百弐拾人

内

上士官以上　拾人

警部　六人

下士以下　七拾二人

巡査　三拾二人

一傷　三百四拾九人（ママ）

内

士官以上　九人

警部　七人

下士以下　弐百四拾七人

巡査　八拾五人

死傷総計

四百六拾九名（ママ）

三月廿日

午前第七時三十分、城北ノ砲声亦聞ヘ暫時ニシテ止ム、

別条ノ戦ナシ、賊時々一二発宛銃撃シ、我兵亦時々探撃スル耳、

夕刻ヨリ城北ノ銃声折節相聞、夜半過ヨリ翌日午前第四時迄、植木地方ニ当リ二ケ所盛ンニ火ノ手上レリト、

三月廿一日　終日霾風、二三丁先ヲ弁セス

暁来城北ノ銃声尚又聞ヘ、暫クシテ止ミ、亦夕刻ニ至テ聞ヘ、午後第十一時ヨリ同第十二時過迄最モ烈シク聞ヘリ、

別条ノ戦ナシ、時々互ニ警備砲ヲ発射スル耳、

午後第六時ヨリ雇古城貞ヲシテ南関仮庁ヘ消息ヲ通シ、且ツ東西京ヘ形情報知方等ノ為出城セシム、

三月廿二日

午前第十一時三十分ヨリ賊兵頻リニ発砲、我兵応セス、正午第十二時ニ至テ止ム、其後我兵時々発砲、賊亦同様発砲セリ、

黄昏ニ至リ賊各処ヨリ銃撃、我兵亦応シテ銃撃セリ、其他時々警備砲ヲ発射スル常ノ如シ、

午後第一時過城北ノ銃声復聞ヘリ、

三月廿三日　夜来雨天、午前八時ヨリ晴

未明ヨリ賊兵本営ヘ向ケ発砲シ、午前第十一時ニシテ止ム、我兵応セス、

同上未明ヨリ城北ノ銃声聞ヘリ、午前第九時頃向坂地方ニテ二ケ処炎烟高ク上レリ、同第十一時頃ニ至リ銃声止

ム、

去ル廿日出城シタル巡査中村匡行、今朝六時帰営ス、其探偵左ノ如シ、

一植木口ノ官軍ハ、植木ヲ放火シテ向坂ニ押シ来リ居ルヨシ、

一本月十九日之夜高瀬口ノ官軍勝利ヲ得テ出羽迄来ル、敗賊ハ野出村ニ屯ス熊本士族モコノ村ニ屯ス、

一熊本士族大田黒岩太ハ当県士族二百名ヲ募リ、(大分県)鶴崎口ノ官軍ニ応シ順々二重峠ヲ来ルヨシ、

一海軍艦隊八艘長崎河内ノ海岸ニ繋船、時々砲撃シ、或ハ端船ヲ漕キ陸ニ近クト雖、賊ヨリ海岸ヲ拒キ上陸難キヨシ、

午後第二時頃飯田山辺ニ当リ銃声アリ、

午後第三時頃賊兵頻リニ銃撃シ折節発砲ヲモナセリ、我カ兵之レニ応ス、

午後第六時頃城北ニ当リ亦銃声アリ、

午後第七時過雁回山ノ後口ニ当リ、二ケ処盛ンニ火ノ手ノ上ルヲ見ル、

警備ノ発銃常ノ如シ、

三月廿四日　夜半ヨリ雨天、未明ヨリ晴

午前第九時ヨリ賊兵頻リニ発砲、我兵応セス、

午後第一時三十分我兵発砲、賊兵亦発砲セリ、

午前第十時頃ヨリ城北ニ銃声アリ、終日終夜絶ヘス、其響愈烈シク愈近シ、

午後第一時頃ヨリ鹿子木地方ニ当リ炎烟上ホレリ、

警備銃常ノ如シ、

三月廿五日

午前第七時頃花岡山ヨリ洋学校砲台ニ向ヒ、大砲一発ヲ放テリ、

城北ノ銃声夜来猶絶間ナシ、午後第三時頃ニ至テ止ム、

午前第八時過我兵発砲、賊亦応撃ス、

午後第一時過ヨリ賊亦発砲、我兵之レニ応ス、同第六時ニ至テ止ム、

午後第七時三十分ヨリ城北亦銃声アリ、

警備銃常ノ如シ、

三月廿六日　午後第五時ヨリ雨

午前第八時過ヨリ賊発砲、我兵之レニ応ス、

午前第十時頃宇土・松橋ノ地方ニ当リ砲声アリ、而シテ賊兵一小隊程右地方ヘ向ケ出立ノ模様ヲ見ル、

午後第一時我兵発砲、賊応セス、同第二時過我兵亦発砲、

賊之レニ応ス、
午後第七時頃我兵発砲、賊之レニ応ス、
右同時頃ヨリ城北ノ銃声烈シク聞ヘ、終宵止マス、
午後第六時仕丁雇坂田吉郎ヲシテ、東来ノ官軍且ツ仮庁等ヘ消息ヲ通スル為メ出城セシメタリ、
開戦以来本日迄賊ノ銃器ヲ分捕スルコト弐百九拾八挺ナリト、
警備銃常ノ如シ、

三月廿七日

午前第五時台兵巡査一大隊程三手ニ分レ、寺原・京町・牧崎ノ賊ヲ進撃ス、賊胸壁ニ拠リテ拒撃ス、我カ三道ノ兵大小銃ヲ以テ吶喊並ヒ進ミ、城上ヨリハ四方ノ賊ニ向フテ発砲シ、山川為メニ震ヘリ（花岡山・長六橋等ノ賊午前十一時過キマテ之ニ応シテ発砲セリ）、賊等頗ル強拒スト雖、我カ兵鋭意勇進スルニ依リ、其胸壁ヲ守ル能ハス、之ヲ棄テ次第ニ却退シ、各処叢藪ノ中等ニ拠リテ狙撃ス、我兵之ヲ逐ヒ其胸壁ヲ毀チ、京町・寺原・千反畑等ノ人家ニ火ス、炎烟亦夕天ヲ焦セリ、終ニ進テ出京町マテ至リ、午後第七時戦始メテ休メ、戍兵二中隊ヲ京町ニ布置シテ帰営セリ、此戦ヒヤ討チ取者数名、夫卒三名ヲ生獲シ、弾薬二千余ヲ分捕セリ、而シテ我カ兵ノ死傷九拾余人ナリト、
生獲ノ夫卒糾問セシ処、其口供左ノ如シ、

熊本県下第九大区十小区
山崎村農八藏長男
小西十太郎
当十八年

一自分儀、昨廿六日熊本出町ヘ台場築造之人夫トシテ罷出候様、村用聞村井仁兵衛ヨリ被申付、同村ヨリ五十人夜四ツ時頃発足、夜通シテ当地ヘ着シ、未タ築造不致内、京町ニテ合戦相始リ、同行之者ハ何レヘ欤散乱シ、自分ハ藪中ヘ潜匿罷在候処、御捕相成候、
一官軍勢ハ廿日計前ニ、黒船ヨリ八代ヘ上リ、時々合戦アリト云フ風聞、計前ハ頃ノ誤ナラント、
一日失念、宮ノハル（宮原）ト云フ村ニテ合戦アリト云、勝敗ノ事ハ不承候、
一七日程前ニ鹿児島勢日奈久之鳩山ト云フ処ニテ、百弐拾人位台場ヲ築キ候処、官軍勢船ヨリ大砲ヲ打懸ケ、鹿児島勢敗走シ山崎村ニ来リ、夫ヨリ川尻ヘ行ト云話ニ有之候処、俄ニ小川ト云フ村ヘ屯集ニ相成、
一昨廿六日ハ砂川ト云大川ヲ隔テ大合戦アリ、鹿児島勢

大敗シ、或ハ山或ハ田ノ中ヲ逃走候テ、昨夜サバカミヘ台場ヲ築キ候処、今日官軍カイトウ(海東カ)村ヨリ進ミ来リテ、台場之裏ニ出テ鹿児島勢大敗ニナリタリト、ヲハタケ村人夫今日昼過キ当地ヘ来リシ者ヨリ承ル、

一鹿児島勢ノ大将ハ西郷ト云フ人ニテ、川尻ノ本営ニ在ラレ候由、

一人夫之賃銭ハ村用聞ヨリ、壱人ニ付弐百目ツヽ出ルト云、自分ハ主人ヨリ五拾目貰受ケス(ヌカ)、

一植木之方鹿児島勢ハ死傷多シ、最早半分ニナリタリト云風聞、

右之通相違不申上候、以上、

十年三月廿七日

晩来ヨリ城北ノ銃声烈シク聞ヘ、終宵止マス、

警備銃常ノ如シ、

三月廿八日

午前第六時過ヨリ賊発砲、我兵応セス、

城北ノ銃声夜来間断ナク聞ヘ、午前第九時過ニ至リテ止ム、

午前第一時頃賊花岡山ヨリ発砲、我兵之ニ応ス、

午後第三時過、花岡山及ヒ長六橋畔ノ賊兵ト暫時砲戦セリ、

晩来城北ノ銃声亦タ起リ、徹宵絶ヘス、

警備銃常ノ如シ、

三月廿九日

午前第八時頃ヨリ賊時々発砲、我カ兵応セス、

城北夜来ノ銃声、午前第八時過ニ至テ止ム、

午後第二時我カ兵発砲、賊之レニ応ス、

日暮少々城北ノ銃声聞ヘリ、

賊坪井・井芹等ノ川下ヲ堰キ留メタ模様ニテ、両三日前ヨリ水滞リテ流レス、満川漲溢ス、

賊兵ノ為メ当県士族田尻傳九郎・六所宮旧神官平坪志摩守ハ、熊本近傍ノ嚮導ヲナシ、臼木某ハ(植木辺ノ士族)植木近傍ノ嚮導ヲナシ居ル由、

午後第六時頃ヨリ花岡山及ヒ長六橋畔ノ賊兵発砲、我カ兵之レニ応ス、同第八時過花岡山ヨリ発ツ処ノ破烈丸、県庁四階ノ土蔵ニ中リ、第四階ノ上ニテ着発シ、火既ニ家根裏ニ燃ヘ付カントスル際、県官ハ勿論其他福原大尉所部ノ歩兵、及ヒ高山(中)尉所部ノ砲兵等馳セ集リ、消防尽力スルニ依リ、書類少々焼毀スルノミニテ消滅セリ、

当県第一大区八小区柳川町借宅福島丈平ナル者、官軍ノ

命ヲ受ケ植木谷水ヨリ昨廿八日朝出立、同日午後第四時
当鎮台へ着シタリ、其申出左ノ如シ、
一本月廿五日田原坂ニテ賊大敗ス、
一官軍ハ向坂并木留ニ戦フ、
一山鹿・隈府(わいふ)ノ賊ハ大津ニ退キ、官軍之レヲ追撃ス、
一賊ハ弐千人位ト云フ、
一官軍、賊大砲七門ヲ奪ヒ取レリト、
一七里ノ間官軍戦線ヲ張レリト、
一五日ノ内ニハ官軍熊本ニ入ルト云フ、
警備銃常ノ如シ、
三月三十日　夜来雨天
午前第九時前ヨリ第十一時頃迄、松橋地方ニ当リ大小銃
ノ声アリ、
午後第一時及ヒ第五時頃賊少ミ発砲、我カ兵応セス、
晩来城北ノ銃声聞へ、徹宵止マス、
警備銃如常、而シテ賊亦時ミ銃撃セリ、
三月三十一日　猶雨天　午後ヨリ晴
午前第五時及ヒ同第十時頃賊少ミ発砲、我カ兵総テ応セ
ス、
城北ノ銃声未明ニ至テ止ム、
午後第三時花岡山ノ賊発砲、我カ兵之レニ応ス、
日暮ヨリ城北ノ銃声聞ヘ通宵止マス、
警備銃常ノ如シ、
四月一日
午前第九時前及ヒ第十時頃賊少ミ発砲、我兵応セス、
城北ノ銃声正午十二時過ニ至テ止ム、
午後第一時頃木留地方ニ火ノ手ノ上ルヲ見ル、
午後第四時頃及ヒ同第六時ヨリ七時過マテ賊発砲セリ、
我カ兵総ヘテ応セス、唯時ミ各処ヲ探撃スル常ノ如シ、
四月二日　暁来雨天
午前第五時前宇土地方ニテ砲声アリ、
午前第十時前及ヒ同時半長六橋ノ賊少ミ発砲、我カ兵応
セス、
晩来城北ノ銃声聞へ、夜半後ニ至テ止ム、
警備銃常ノ如シ、
四月三日　天晴
午前第九時及ヒ同第十時頃長六橋ノ賊少ミ発砲、我カ兵
応セス、
午前第十一時過ヨリ城北ニ砲声アリ、
同時賊寺原・京町ノ二ケ処へ火ヲ掛ケ、亦数十戸焼失ノ

模様ナリ、
午後第一時前賊発砲、我カ兵之レニ応ス、
午後第三時過ヨリ四時過マテ、花岡山・長六橋ノ賊発砲、
我カ兵之ニ応ス、
午後第六時頃甲佐地方ニ当リ盛ンニ火ノ手ノ上ル見ル、
午後第六時過及ヒ同第八時過賊亦発砲、我カ兵応セス、
午後第八時頃ヨリ城北ノ銃声聞ヘリ、
我カ兵胸壁ヨリ時ミ各処ノ賊ヲ銃撃シ、賊亦各処ヨリ時ミ銃撃セリ、

四月四日
午前第六時頃ヨリ午後第七時頃迄ノ間、花岡山及ヒ長六橋ノ賊連ミ発砲スルコト凡ソ三四十発、内県庁ニ着発スル者七八発焼玉一発県庁ニ打込マルト雖、県官速ニ之ヲ撲滅セリ、我カ兵午前第十時頃発砲、之ニ応セリ、
午後第七時頃ヨリ城北ノ銃声頗ル盛ンニ聞ヘリ、
我カ兵胸壁ヨリ時ミ銃撃、賊亦各処ヨリ時ミ銃撃セリ、
鎮台ノ夫卒庄左衛門云フ建部村ノモノニテ、台兵捕ヘテ夫卒トスルモノ、米田氏ノ旧臣中林駒八・眞鍋新十郎・井上前彦・石山平三郎外壱名ハ、賊ニ与シ、同旧臣二三百人程ハ中立シ、八ノ久保ニ集合セル由ナリト、

午後第六時雇熊野五藏ヲシテ、高瀬ニ在ル官軍及ヒ仮庁ヘ消息ヲ通スル為メ出城セシメタリ、

四月五日
午後第十二時過マテ城北ノ銃声猶聞ヘリ、
花岡山・長六橋ノ賊等、午前第八時頃ヨリ午後第八時過マテ、時ミニ発砲スルコト凡ソ三十発、内四五発県庁内ニテ着発シ、午後第八時過県庁屋根裏ヘ火移リ、已ニ燃ヘ付カントスル際、県官并ニ台兵尽力シ、遂ニ消シ留メタリ、我カ兵亦数門発砲シテ応シタリ、
午後第七時頃ヨリ城北ノ銃声聞ヘ、夜半過ニ至テ止ム、
我カ兵胸壁ヨリ時ミ各処ノ賊ヲ銃撃シ、賊亦各処ヨリ銃撃セリ、

四月六日
暁来又城北ニ銃声アリ、
花岡山・長六橋ノ賊、午前第六時頃ヨリ午後第七時過マテ時ミニ発砲スルコト凡ソ三十発余、内大半県庁内ニテ着発シ、県庁為メニ焼ケ出サントスルコト二度ニ及ヘリ、然レトモ県官及ヒ台兵速カニ消防尽力シ、皆ナ之レヲ消シ留タリ、我カ兵応セス、
我カ兵胸壁ヨリ時ミ各処ノ賊ヲ銃撃シ、賊亦タ時ミ銃撃

セリ、
四月七日　暁来雨天
午前第五時頃ヨリ城南ニ当リ盛ンニ大小銃ノ声アリ、終日止マス、
午前第七時頃城北亦タ銃声アリ、
午前第八時我カ兵発砲、賊之レニ応ス、同九時三十分我カ兵亦発砲、賊之レニ応シ、午後第七時頃迄ノ間凡ソ二拾発余時々ニ発砲セリ、
警備銃常ノ如シ、
四月八日
籠城殆ント五十日ニ及ヒ、糧食尚十余日分ヲ剰スト雖、南北ノ官軍進入ノ期終ニ難計ヲ以テ、我カ第一大隊（隊長奥少佐）ヲシテ賊ノ防禦線ヲ突貫シ、南方ノ官軍ニ合セシメ迅速進入ヲ促カサントシ、午前第四時安政橋口ニ向ヒ、台兵半大隊余・巡査二小隊ヲシテ進撃ス（林少佐・小川大尉・染川大警部等率之）、第一大隊ハ敵ノ間ヲ窺ヒ超過セントシ之レニ尾従ス、コノ時天未タ明ケス、衆軍枚ヲ銜ミ橋際ニ迫ル、巡査五名斥候トシテ先ツ進ム、賊橋頭ニ松明ヲ焚キ哨兵ヲ置キ、巡査ニ向ヒ来タカト云フ、依テ気遣ヒナシト答ヘ、急ニ退テ之ヲ我カ軍ニ報ス、我カ軍吶喊シテ橋頭ヲ突キ、賊数名ヲ斬リ、且ツ橋上橋下ノ台場ヲ一斉ニ突貫ス、賊狼狽、銃器・弾薬ヲ抛棄シテ走ルアリ、或ハ刀ヲ揮テ抗スル者アリ、此間一大隊ハ駈ケ足ヲ以テ橋ヲ過キ、一二ノ抗スル者アルモ皆ナ蹴テ之ヲ過キ、士官等モ手カラ斬テ過クルアリト云フ、遂ニ一大隊総テ一人ノ死傷ナク通過スルヲ得、砂取ニ至リ相図ノ放火セリ、
始メ諸台場ニ突進スルノ兵、賊ノ北ルヲ逐ヒ烈シク銃撃シ、数名ノ巡査進ンテ川ヲ渡リ九品寺村ニ至リ、土民ノ家ニ入リ蓄粮ノ有無ヲ問フニ、九品寺村元郷蔵ニ粮米数百俵アリト云フ、之ヲ発クニ果シテ其言ノ如シ、且ツ九品寺村賊ノ炊事場ニモ亦白米数百俵アリ、之ヲ本営ニ報ス、本営速カニ聚糧ヲ命シ、会計部ヲ出シ、工砲兵ノ馬数疋ヲ以テ聚糧スルコト千俵余、台兵及ヒ巡査ハ聚糧中安政橋口ヲ中真トシ左右ニ翼ヲ張リ、右翼ハ高田原・通丁・山崎ニ進ミ、左翼ハ井川渕・廣丁・明午橋・建町ニ進ム、川向ハ正面九品寺村及ヒ新屋敷ニ進ンテ、安政橋近傍及ヒ新屋敷ニ火ス、聚糧尽ク終リ徐ニ兵ヲ退ケ、午後第四時過引上ケタリ、コノ日我カ軍城上ヨリモ烈シク発砲シ、賊亦花岡山・長六橋等ヨリ発砲シ、天地為メニ震動セリ、賊ノ死傷数多ナリト雖モ、数ヲ詳ニセス、其他得ル処小

銃凡ソ百挺計、弾薬三千発計、生擒四名ナリ、我カ兵死傷凡ソ八十名計、内死スル者三十名計ナリ、抑籠城以来進撃スルコト四度、坪井・段山・京町及ヒ本日トス、而シテ我カ軍得ル処多クシテ損スル処少ナク、大ニ賊胆ヲ落破シ大快戦ト称スヘキハ、本日ヲ以テ第一トス、

井川渕辺ニ潜伏スル人民数名アリ、砲撃ニ驚キ皆散乱逃避スト雖、事火急ニ起ルニヨリ、左ノ者共等避ケ得スシテ狼狽奔走セシニ付、我カ兵城中ヘ連レ帰リ、一応取糾、嫌疑無之ニヨリ、壱人ニ付金壱円ヲ給シ（四年以下ノ小児、ハ五十銭ツヽ）、護兵ヲ附ケ城外ヘ送リ出セリ、然ルニコノ時戦ヒ未タ止マス、弾丸織ルカ如ク、終ニ出ルヲ得ス引返シ鎮台ニ留メ置ケリ、

当県四等巡査
当県士族
松尾泰々　同人父　安太
同人　母　同人　妹
同人甥松尾藤一
中間小路平民
小山卯平治　同人　母
同人　妻
高瀬町吉平娘
とす　同人女　はつ
同人長男末彦
阿波国藍屋
松永卯次郎
当県士族
八郎父隠居
西村定吉
当県士族
樹下一平元家来
永田善助　同　卯太郎
白川町平民
山田耕節
新屋敷
白石吉平

以上

右松尾泰々云フ、三澤七等属・生源寺十等警部ハ賊ノ為メ斬殺セラレ、先キニ出城セシメタル仕丁坂田吉郎ハ、賊ノ捕トナリ賊営ヘ引カレ、雇熊野五蔵モ亦タ賊ノ縛トナリ、親類預ニナリタル由ヲ聞ケリト（坂田ハ多分殺サレタルナラント）、且ツ泰々伝写シ所持スル処ノ書面左ノ如シ、

嚢キニ鹿児島ノ暴徒数百人嘯集シ、去ル一月三十一日夜ヨリ二月二日ニ至ル迄、連夜其県下ニ有之海陸軍之弾薬ヲ掠奪、同県下人心穏カナラス、於是河村海軍大輔及ヒ林内務少輔ヲ差遣シ、其情状ヲ訊問セシメントスルニ、暴徒等兵器ヲ以テシ、剰ヘ其乗ル処ノ官船ヲモ奪ハントシタリ、依テ空ク鹿児島湾戸ヨリ船ヲ廻セリ、

天皇尚或ハ其覚悟センコトヲ欲ス、従二位島津久光父子、西郷隆盛等ハ、深ク国家ノ為力ヲ尽ス者ナルヲ以テ、此時ニ際シ、身ヲ投チ以テ人心ヲ鎮撫センコトヲ思フ、勅使ヲ差遣セラレントスルニ、豈ニ図ランヤ、是ヨリ先キ、彼等自ラ負スルニ無根之偽名ヲ以テシ、強テ名義ヲ設ケ檄ヲ全国ニ伝ヘ、恣ニ兵器ヲ携帯シ国境ヲ鎖シ、已ニシテ同県下ニ乱入シ、官兵ニ抗敵シ其兇威ヲ逞セントス、

天皇慈仁固ヨリ無罪ノ生霊ニシテ、鋒鏑ノ禍ニ罹ランムルヲ欲セスト雖モ、如斯形勢止ムヲ得サルニ付、遂ニ本月十九日ヲ以テ征討ノ令ヲ発シ、予ヲ以テ海陸軍之兵ヲ進退スルヲ許サレ、尋テ隆盛以下ノ官位ヲ剝脱セラレタリ、乃チ天兵ヲ挙テ急ニ大旗ヲ西シ、速ニ其巨魁ヲ殲シ、脅従ハ治スルコトナク、以テ

天皇ノ慈仁蒼生ヲ愛育スル○欠覆載スヘキヲ知ラシメント、茲ニ今本営ヲ筑前州ニ置キ、兵ヲ勒シ馬ニ秣フ、初メニ当リ王師ヲ動ス所以ノ理詳説スルコト如斯、夫海内臣民タル者、大義名分之有ル処ヲ弁知シ、確然自守、決シテ其方向ヲ誤ル可カラス、苟モ友人ノ為メ蠱惑セラルアラハ、ナンソ悔ルトモ及フ無キノミ、

　明治十年二月二十八日　征討総督二品親王有栖川熾仁

左之通安巳橋及ヒ明午橋辺三ケ処ヘ掲示セリ、

今般鹿児島県賊徒御征討ニ付、兼テ熊本市街近傍人民ハ立退候様相達置候処、今日迄モ白川筋其他近村ニ罷在候者不少趣、右ハ万一不慮之患害ニ罹リ候テハ憫然之次第ニ付、早々何方ヘ歟立退可申、尤目下飢餓ニ迫リ候者ハ、区戸長ヘ可申出候、且当県士民ノ内賊徒ニ与シ候者モ有之趣相聞、以之外之事ニ候、右御征討ニ付テハ、有栖川宮様総督トシテ、御出発、不日平定可致候条、士民一般大義ヲ弁ヘ、決シテ方向ヲ誤ラサル様可致事、

賊兵所持シタル書面ノ写左ニ、

今般陸軍大将西郷隆盛外弐名上京之次第ハ、兼テ御届

申上置候通ニテ、既ニ去ル十五日当地発程いたし候、尤通行ニ付テハ嚮ニ各県各鎮台江通知致置候故、熊本県ニ於テ未前庁家ヲ焼払、剰ヘ通行筋川尻迄押出、砲声ニ及候旨追〻報知在之、然ル処彼ノ地ヘ去ル廿日当県征討之命被仰出候哉ニ相聞ヘ、何とも恐入、乍恐西郷大将儀ハ、先般辞表指上以来於県下厳粛ニ謹慎致シ居、且数万之士族自費ヲ以テ学校ヲ開キ、忠孝ヲ重シ諸生ヲ教導シ、第一方向ヲ誤ラサル様勤メテ説諭シ、已ニ佐賀暴動、引続熊本・山口同断之節、県内安静、終ニ一毛ヲ損セサルハ全国ニ明瞭成事ニ候処、何等ノ嫌疑アツテ大久保利通・川路利良私怨ヲ以テスルヤ、容易ナラサル国憲ヲ犯シ、暗殺ノ内諭ヲ下シ候義、実ニ海外ニ対シ、乍恐政府ノ御失体ト奉存候、尤随行之者共銃器帯刀ヲ以テ、途中保護致シ候義ハ、暗殺ヲ命セラル、程ノ者無異議上京不相遂ハ勿論之事ニテ、不得止下官モ聞届置候、就テハ弥当県征討被　仰出候上ハ、県官且士民ニ至ル迄御征討之御趣意ニ被為在候哉、夫〻無名恥ヲ蒙ラセナハ、鹿児島人民ト雖皆王民ニシテ、政府之命令ヲ不奉者一夫モ無之候得共、何分士民挙テ動揺ニ至候間、至急御勅諭被成被下度、尤西郷大将随行モ貫徹候様御処分被成下度、此段忠誠ヲ以奉願候也、

明治十年三月三日　　鹿児島県令大山綱良

征討総督有栖川殿

別紙達書ノ儀ハ至急ヲ要スル義ニ付、速カニ掲示且区内人民ヘモ無洩至急可掲示候、此段相達候也、

十年三月十七日　　宮川(崎)支庁

日向国

今般勅使(柳原前光)当県ヘ臨降(三月八日鹿児島着)、逆徒征討被仰出候ニ付テハ、右党類之者共潜カニ各区往来致候モ難計候ニ付、一層取締厳重申付候条、万一類似之者有之候ハヽ、取糾ノ上拘引致シ、姓名住所等細詳取調、至急可届出、此旨相達候事、

十年三月十日　　大山綱良代理

田畑常秋

同盟簿ト表書シタル帖簿ノ写

軍令

一総軍長之命令ヲ守リ誠忠ヲ抜出可申事、
一同勢互ニ和順ヲ本トシ恣ニ私論ヲ立候儀不相成事、
一陣中並行軍中大酒一切不相成事、
一陣軍並行軍中、人民ノ耕作並商業ヲ妨候儀不相成事、
一同勢沈勇ヲ本トシ、浮薄軽騒之振舞不相成事、
一陣中並行中、人民ノ畜類ヲ殺害ノ儀不相成事、
一淫慾ヲ禁シ、放蕩ノ振舞有之間敷事、
一人民ノ財宝ヲ奪取候ノ処業不相成事、
一進退其度ヲ得、無謀ノ勇有之間敷事、
一火急ノ出勢ニテ金穀無数ニ付、省略ヲ本トスヘキ事、
右之条々相背ニ於テハ、厳ニ軍律ニ行フヘキ者也、

明治十年二月

総軍長
坂田諸潔

小隊長兼参謀
山下謙蔵　日高義正

半隊長兼参謀
田中束穂

分隊長兼参謀
古屋於菟七

押伍
松田章　財津猛
田中長久　木島頼面
日高六郎　水元令造
日高義勇

旗隊
河野良太郎　権藤荘三郎

喇叭手
山内亀三郎　野邊貞太郎

隊外士官

軍監兼書記
田中登　鈴木重弘
山内武彦　野邊勘懸由

軍長附
隈田原良四郎

会計方
加藤禎一　清水浩平
神戸政次　水元重誠

器械方

吉松卓藏　城　重利
田中鷲雄　河野三艸

医師

松田準一

会計方附属

岩本金造　山崎今朝之十

兵士

壱番分隊

津田　凉　井手謙平
鍋倉民三　河野勝太郎
安田省三　山下敬一郎
岩村卓一　野邊蒐毛
土持信夫　鈴木重治
清水　淡　河野麗水
坂田民次郎　城　荘三郎
深江専一郎　井手唯吉
内田和太郎　河野平七
松田盛吉　坂田　貞

二番分隊

河野　通　木島忠太郎
桑山米吉　坂田總次郎
谷口鎭巳　内野關太郎
日高眞島　前田健吉
土持志津江　大山彌藤次
小城早治　松本民五郎
財津力尾　福田重衞門
井手彦三郎　木島荘作
深江虎藏　大坪　毅
隈田原寛一　木島健一

三番分隊

島田豐吉　松田貞幹
大坪孝行　清水大四郎
山下一郎　永友貞平
荒川　渉　山崎平衞門
内川芳太郎　川崎十次郎
八源寺貞一　松本豐太郎
税田廣吉　内田周太郎
清水武四郎　木島猪太郎
轟　周之助　吉松竹二
安田　守　財津行藏

四番分隊

山内虎太郎　　諫山　寛
堀口貞二　　堀江直太郎
日高荒太　　日高　厚
鈴木重義　　松田　潜
岩下宮門　　岡留總太郎
岡本外六　　川崎英夫
佐藤祐之助　　財津治次郎
村田又六　　加藤潜平
水元五郎太　　平島彌藤次
津江　嚴　　山下次吉郎

人足

軍長附
彌　助　　次郎助

器械方附
手塚二吉　　藤　作

会計方附
河野今朝平　　疋田磯次

軍監附
島左衛門

隊附
泰　造　　傳次郎
今朝次郎　　彌　助

河野麗水日記ノ内　写

三月八日

本日黒木直右衛門至急当地出発為致、就テハ熊本攻城ニ付テハ兵隊モ四方へ手配リ、昨日ヨリ本日迄モ当岩村ノ内ニ、永野原ト申処ニテ戦争最中、殊ニ諸道口〻モ同断、夫レ故兵員不足ニ付、願クハ本地強力ノ兵ヲ御組、且貴島宇太郎連中ヨリ一千位モ御指遣相成候テモ指支候間、其義ニ於テハ山鹿滞陣私へ指向、至急御出兵御賢慮有之間敷哉、一日ナリトモ至急御操出被下候方幸ヒノ事ニ候間、宜敷御依頼申上候、且弾薬ノ義ハ黒木巨細指含致置候間、弾薬乏ク候テハ兵力ニ相拘リ申候間、昼夜御製造ノ内輸送方御依頼申上候、不取敢前件両様至急御取計可被下候也、

山鹿滞陣
桐野信作(利秋)

大山格之助(綱良)様

四月九日
午前第十時十分、長六（橋脱）ノ賊少〻発砲、我カ兵応セス、
昨日城中ヘ連帰リタル人民ノ内、西村定吉以下五名ハ希望ニヨリ出城セシメ、其他婦女老幼等ハ城中ニ居ルヲ欲スルニ付、之ヲ引受県庁内ニ差置ケリ、
互ヒニ警備銃ヲ発スル常ノ如シ、
四月十日　大雨
休戦、午後第七時頃賊県庁ヘ向ケ一門発砲スル耳、
城南ノ砲声終日時〻聞ヘリ、
午後第七時頃ヨリ城北銃声アリ、同第十一時過ヨリ最モ烈シク聞ヘリ、
警備銃常ノ如シ、
四月十一日　天晴
城北夜来ノ銃声、午前第九時ニ至テ止ム、
午前第五時過及ヒ第六時過、長六橋ノ賊発砲、我カ兵応セス、
正午第十二時過ヨリ午後第二時三十分迄賊発砲、我兵之ニ応ス、
午後三時過ヨリ同六時過マテ賊亦発砲、我カ兵応セス、
午後第六時過ヨリ城北銃声アリ、同第十時頃ニ至テ止ム、
谷少将藤崎ニ於テ領脇ニ軽傷ヲ蒙レリ、
警備銃ヲ発スル、互ヒニ常ノ如シ、
四月十二日
午前第四時過ヨリ同第八時過迄賊時〻発砲、我カ兵応セス、
未明ヨリ南北トモ大小銃ノ声烈シク聞ヘリ、午後一時頃皆止ム、
午前第八時過我カ兵発砲、賊之ニ応ス、是ヨリ午後第九時頃迄賊時〻発砲セリ、
去ル八日進撃ノ際、我カ兵捕縛セシ処ノ有馬清口供左ノ如シ、

新屋敷明午橋上四番町
百九拾番地住士族
源内父隠居
有馬　清（サヤカ）
五十六歳

一自分儀、鹿児島賊徒当地ニ乱入後、一時大江村関素通方ニ立退キ、其後新屋敷辺ハ居住難相成義モ無之故、立帰居候、去ル八日早朝俄カニ戦争有之、娘并ニ妾ヲ携ヘ再ヒ素通方ニ立退候、然ルニ自宅ニ金円ヲ忘置候

ニ付、立戻リ相捜候得共遂ニ見当リ不申、其内近隣砲声盛ニ相成、倉卒ノ際無何心残リ在ル猟銃並ニ道具ヲ所持、門外ニ駈ケ出候処、捕縛被致候、尤モ其節帯刀モ致居候、

一養子源内（二十六年）ハ竹部ニ住居シ、養父ノ実子ニテ順養子トシ、十余年前家督ヲ譲リ、自分ハ別居致シ、数年前ヨリ事故アリ常ニ往来致サス、彼ハ素千反畑連ニテ民権論ヲ主張シ、自分ト持論モ異ナリ、或ハ賊徒ニ党与スルヤモ難測ト痛慮致シ居候、

一自分実兄魚住勤（イソシ）ナル者、嘗テ住江等ト共ニ勤王家ト称セラレ、然レトモ住江トハ議論稍同シカラス、住江ハ親ク王事ニ尽サントシ、勤ハ旧主ヲ奨（勧）観シ之レヲシテ勤王セシメントス、其子弘河ハ自分等ト勤ノ議論ニ異ナラス、勤同志ノ者ハ目今甚タ僅少ニシテ、末松勘右衛門・永井金吾・今村乙五郎等数人ニ過ギス、勤並ニ弘河等ハ決シテ賊ニ与スル者ニ非ラス、

一姪弘河懇意ノ武藤亥之助（通町連）ハ、今般ノ変動ノ件ニ付見込有之、政府ニ献白ノ筋有之トテ上京セント、去二月中当地出発、久住ニ到リ、旅行ナリ難シトシテ立戻レリ、弘河モ共ニ上京セント企望セシカ、金策立タスシテ果サス、亥之助モ賊ニ与スル者ニ非ラス、

一目今当県士族ノ内賊ニ党与スル者ハ、敬神党（昨九年十月中暴徒ノ残余ナリ、本庄辺ニ屯在スル由）、赤穂口連（池部吉十郎其巨魁ナリ）、通町連ノ内四分ノ一許（高田原ノ中島某、巨魁タル由）、山崎連（人数多シ）及ヒ民権党（巨魁ハ宮崎某・坪井ノ平川某等ノ由、コノ党派ハ植木・菊地ノ方ニ多シ）等承ル、其総人員大約千人余ノ由ナリ、

一当県士族ニテ其党派ハ何タルヲ知ラサレトモ、古賀作十郎（既ニ戦死セル由）・安岡某（竹部居住ノ者）・田中政太郎（坪井辺ニ居住スル者、以上両名ハ過日途中ニ於テ逢遇セリ）等ハ賊ニ与セリ、

中津大四郎モ賊ニ党セルヤ、立田口九品寺門前ニ中津大四郎陣所ト標札ヲ掲ケ置ケリ、

一生駒新太郎（学校党ナリ）ハ、政府へ献白ノ筋アルトテ上京セリ、

一賊城外東南ニ大砲ヲ配置スルハ、慶徳堀・長六橋ノ上堤上壱ツ、、及ヒ呉服町辺ニ壱門、下河原ニ壱門ナリ、

一目今白川堤ニ配賦スル賊兵ハ至テ手薄ク、明午橋ヨリ西岸寺川原迄三百名許、同処ヨリ長六橋迄百名許ナリ、其他右同様少人数ノ由、尤モ以前ハ明午橋ヨリ長六橋ノ間ニ七八百名計ナレトモ、過日八代辺ニ官軍上陸ニ相成、賊援兵ヲ出スヲ以テ如斯減少スル由ナリ、

一賊兵城外周囲並ニ立田口・二本木村ニ有之モノトモ、

総員大凡二千人位ノ由ナリ、
一賊兵洗馬川ヲ壅塞スル処ハ、細工五町目ノ町外レニテ、土俵並花岡山辺ノ石碑ヲ以テ塞ケリ、
一長峯村ト申処ニ（南郷街道）各処ヨリ賦シ取ル人夫ヲ、集メ置クトノ由ナリ、
一三月廿九日頃、賊軍（延岡兵ナル由）敗北、御馬下村辺迄退ク由承ル、
一去ル七日朝所用有之、中ノ瀬村（川尻ヨリ一里半東ナリ熊本ヨリ二里ナリ）辺ニ参リタル節、緑川ヲ南ニ渡リ官軍ト榎津村（川尻ヨリ南十五六丁ナリ）ニテ激戦アリ、緑川ノ堤上ニテ之ヲ見ル、稍アリテ官軍木原山ノ方ニ退キ、賊ト谷ヲ隔テ互ニ攻撃ノ様子ナリ、然ルニ何ノ方ニテ火ヲ縦ツヤ、木原山ニ火起レリ、夫レヨリ間モナク途ニ就キ途中ニ至レハ、砲声転シテ川尻川下方角ニ聞ユ、蓋シ大渡ノ上ナラン、
一当県士族大田黒某等ハ官軍ニ属スル由、
一前同断七日官軍大砲ヲ廻江川六彌太ノ渡場南ニ据置ク由、
一木部ノ渡ハ（加勢川ノ渡）目今賊船橋ニセリ、
一去ル七日中ノ瀬ヨリ帰途田向村ヲ通過スルニ、村内掲示ノ文アリ、其文ノ略ニ云ク、

今般鹿児島県ヨリ朝廷へ伺之筋有之、当地通行之処、鎮台ヨリ是非ヲ論セス砲発ニ及ヒ、剰へ府中市在ヲ焼亡致シ候ニ付、人民困窮云々慨然之至ニ付、鎮撫隊ヲ設ケ置候ニ付人民安堵致シ、各其職業ニ就キ候様、若シ右様狼藉致スモノ有之ニ於テハ、当所ニ訴出ヘキモノ也、

鎮撫隊分営

明治十年四月十一日

晩来城北少〻銃声アリ、午後第十時頃止ム、
警備銃常ノ如シ、

四月十三日

午前第五時頃賊発砲、我カ兵応セス、
午前第十時頃賊亦発砲、我カ兵之ニ応ス、
午後第二時頃ヨリ第七時頃迄賊時〻発砲、我カ兵応セス、
警備銃ヲ発スル常ノ如シ、

四月十四日　午後一時ヨリ小雨止ミ亦降ル

午前第五時前ヨリ同第十一時頃迄、賊兵凡四十発余連〻砲撃セリ、我カ兵少〻発砲シテ応セリ、
午前第六時前ヨリ城南大小銃声アリ、而シテ同第九時頃ヨリ川尻辺火ノ手上リ、夫レヨリ銃声追〻左ヘ廻リ最モ

烈シク、次第ニ近寄模様ナリ、
我カ兵午前第十一時頃ヨリ頻リニ発砲、賊絶ヘテ応セス、
川尻往還筋陸続人行ヲ見ル、
午後第四時、東京鎮台宇都宮分営兵一大隊半計ノ内少々着城セリ、コノ兵タル今朝隈生(庄)ヲ発シ、賊軍ヲ衝キ来タル者ニシテ、長六橋畔及ヒ花岡山等ノ賊等敢テ敵スル不能、戦ハスシテ走ル、官兵長六橋畔ニ据置タル大砲ヲ奪ヒ徐々入城セリ、是ニ於テカ熊本近傍東南ノ方面ハ賊兵全ク退去シ、二月十八日鎮台非常ノ号砲ヲ発セシヨリ本日迄、籠城スルコト五十六日ニシテ本城東南ノ囲ミヲ解ケリ、而シテ城北ノ賊ハ未タ退散セス、
午後第四時過、台兵五百人計坪井・京町辺ヲ進撃シ、午後第九時頃引揚ケタリ、コノ時寺原辺亦タ数戸焼失セリ、
大山県令ハ長崎ニテ就縛、東京市ケ谷ニテ入牢セル由、
大山少将・山田少将・川路大警視（新タニ少将拝命巡査兵ヲ率ユト）等モ来リ居ラルト、
城北ノ銃声夜半頃ヨリ暁キ迄烈シク聞ヘリ、

四月十五日　天晴

午前第十時過ヨリ東南ノ賊ヲ撃破シ来ル処ノ団兵、陸続入城セリ、
午前第十一時頃、我カ兵京町ノ賊ヲ砲撃ス、
是ヨリ先キ、賊兵(白)川及ヒ井芹川ヲ堰キ留メシヨリ川水日ニ留滞シ、井芹川辺ノ人家ハ殆ント軒ヲ浸スニ至リシ処、鎮台工兵ヲ出シ急ニ之ヲ切落セリ、
午後第一時頃、内務大書官品川彌二郎川尻ニ赴ク、八等属吉田較一随行セリ、
午後第一時過ヨリ植木地方ニ当リ処々盛ンニ火ノ手ノ起ルヲ見ル、
午後第四時過、植木口ヨリ進来ノ団兵、城北口々ノ賊兵ヲ撃破シ、陸続入城セリ、是ニ於テ四方ノ囲ミ悉ク解ケ、熊本城下全ク鎮定セリ、
是ヨリ先キ、城内ノ消息ヲ通スル為出城セシ者七名ノ内、八等属青山輝正・仕丁坂田吉郎・雇熊野五藏ノ三名ハ、悉ク賊ノ為メ斬殺セラレ、等外一等出仕積惟治ハ未タ其生死ヲ知ラス、其他ノ三名ハ死ヲ免カレタリ、而シテ僅カニ達スルコトヲ得ル者ハ雇古城貞壱名ナリト、
始メ籠城スル者十七名、内七名ハ追々出城シ、終ニ今日マテ籠城セシハ、内務省出張大書記官品川彌二郎・権令富岡敬明・一等属近藤幸止・六等属森下武重・七等属持永義方・八等属吉田較一・九等属室伏聿・仕丁森吉哲外

ニ従者二名ナリ、

四月十六日

本日県庁ヲ元ノ場処ニ開ケリ、

開戦以来本日マテ城兵ノ死傷七百七拾人、内死二百六拾人ナリ、

鎮台大小銃・諸種弾丸元高並消耗現在員数、

一スナイトル	実包	元高	百三十八万千百発
		消耗	八十八万五千六百発
		現在	四十九万五千五百発
一エンヒール	実包	元高	八十七万発
		消耗	十六万六千発
		現在	七十万〇四千発
一山野四斤	榴弾	元高	九千〇二十箇
		消耗	六千二百〇七箇
		現品	二千九百十三箇
一同	霰弾	仝	千三百五十七箇
		仝	八百五十七箇
		仝	五百箇
一三十拇	榴弾	仝	七百五十箇
		仝	六百二十八箇
		仝	百二十二箇
一十二拇	榴弾	仝	七百二十箇
		仝	五百六十九箇
		仝	百五十一箇

以上

熊本籠城日記

（品川彌二郎）

熊本籠城日記

明治十年二月十八日、熊本県小島（白川川口）ヨリ上陸、同夜十時過熊本県庁ニ着ス、賊兵ハ已ニ当県下佐敷宿ニ着スルヲ聞キ、大久保・伊藤両参議へ電信ヲ送リ、追討ノ命早ク御発シアリ度旨ヲ報ス、

二月十九日午前十一字（時）、鎮台本営誤テ火ヲ失シ、天守初メ不残焼失シ、唯宇土櫓ノ棟ヲ残スノミ、而シテ焔火延ヒテ藪ノ内・坪井・千反畑イツレモ城ノ東外等千戸余焼失ス、城中貯ユル所ノ粮米八百石其外悉ク烏有ニ属スルヲ以テ、県官各所ニ派出シテ糧米ノ買入レニ着手ス、○此日鎮台ノ給仕人夫六七名遁逃ス、本営へ放火セシハ恐ラクハ彼等ナランカ、○昨日鎮台ニテ非常ノ号砲ヲ発スルヤ、直ニ城ノ四方ニ警備隊ヲ定メ、台兵守備ヲ厳ニス、県庁ハ城南ノ尖線内ニ在ルヲ以テ、移庁ノ議紛々起リシカ、人心ニ関係スルヲ以テ今日迄遅々ス、鎮台営ノ失火スルヤ庁中混雑大方ナラサレハ、本庁ヘハ一等属近藤行（幸）止十余名ヲ留

メ、終ヒニ御船（みふね、上益城郡）ニ仮庁ヲ設ケテ転移ス、〇今日午前鹿児島県暴徒征討被　仰出、有栖川宮へ総督被　仰付シトノ電報来ル、

二月廿日午後賊軍川尻駅（熊本ヨリ二里）ニ着ス、昨日鎮台ノ出火ヨリ引続キ熊本市中ハ炎焔天ニ漲リ、要衝ニ在ル架橋ハ鎮台ヨリ破壊シ、人民ハ難ヲ避ントテ東奔西走、実ニ目視スルニ忍ビサル景況ナリ、

二月廿一日、暁天鎮台兵壱中隊城ヲ出シテ賊ヲ川尻ニ襲フ、利アラスシテ帰ル、〇午時富岡権令（敬明）ト共ニ御船ノ仮庁ヲ出テ熊本鎮台ニ入ル、時ニ城外四面ノ市街ニハ台兵ヨリ火ヲ放チ、鎮台ハ炎焔ノ内ニ在リ、午后五時電信線切断シテ通セス、依テ井坂八等属ヲ久留米電信局ニ遣ハシ、目下ノ事情ヲ東西京ニ報セシム、〇西京ヨリ第壱旅団・第二旅団本日出発ノ電報、熊本鎮台ニ来ル、

二月廿二日、賊兵熊本ニ進ミ、城ノ四方ニ迫リ攻撃（コノ日小銃ノ）ミ、我兵大小砲ヲ以テ之ニ応ス、藤崎口（城ノ西方）戦尤烈シ、賊ノ七番小隊長宇都宮良左衛門ヲ討取、此日樺山中佐（資紀、鎮台参謀長）・与倉中佐（知実、第十三連隊長）銃創ヲ被ル、与倉ハ病院ニテ死ス、〇昨日来ノ戦状ヲ東西京ニ報センタメ、青山八等属ヲシテ城ヲ出テ南（玉名郡）関ニ往シム、達セスシテ帰ル、

二月二十三日、午前第三時賊兵城ノ西南ニ進撃、藤崎及古城ニ向テ発砲ス、午後五時ニ至リ戦止ム、此日賊兵大砲ヲ花岡山ニ居エ、此処ハ城中ヲ望下スル一小山ニテ、本丸ヲ去ル纔ニ十丁余、加藤氏ノ熊本城ヲ築クヤ此山ヲ掘下ルコトヲ欲シ、人民随意ニ土石ヲ取ルヲ許スト云、此日県庁ヲ立退テ本丸ノ焼跡ニ天幕ヲ張リテ雨露ヲ凌ク、（二十四日）此夜賊兵段山（ダニヤマ）（城ノ西方）ヨリ砲撃ス、同八字藤崎ヨリ同断、台兵（午前一時三十分）之ニ応ス、〇開戦ヨリ本日迄、病傷ニテ入院スル者六十余兵、〇此夜（二十四日夜）鎮台看囚宍戸某（正輝）ト共ニ、県庁雇古藤某・布田某ヲシテ小島碇泊ノ軍艦ニ消息ヲ通シ、且ツ東西京へ電報ヲ仕出スタメ、城中ヨリ潜出セシム、同夜青山八等属ヲ出シテ、団兵并南関ニ在ル仮県庁（二十四日県庁出所、二十八日仮庁）へ城中ノ消息ヲ通セシム、

二月廿五日、賊兵焼残ノ土塀抔ニヨリテ狙撃ス、間々弓矢ヲ携ユル者アリ、当県神風連ノ残党カ、〇城中酒尽ルヲ以テ、焼残ノ土蔵ニ就キテ酒ヲ求ム、敵兵ノ為ニ遮ラレ果サスシテ帰ル、〇開戦ヨリ今日ニ至ル迄、台兵ノ死スル者三十七名、

二月廿六日、午、植木地方（熊本城ヲ距ル弐里）ニ当リ、頻リニ砲声ノ響キセリ、小倉兵或ハ団兵ノ賊軍ト戦フナラント、城中

ノ将士快ヲ称セサルナシ、午後六時頃ヨリ小島沖ニテ発ツ砲声、金峰山（城ノ西ニ在リ）ニ轟ク、○十九日ヨリ今日ニ至ル迄、城ノ四面烟炎絶ヘス、○夜城中ニテ煙花数発ヲ揚ケテ春眠ヲ覚マス、

二月廿七日、聚粮ニ出テシ兵、城南京町ニ於テ、大豆三俵・生酒廿四樽ヲ得テ帰ル、○午後第三時台兵三小隊・巡査一小隊ヲ以テ、坪井村（城ノ東）ニ突出シ、賊ノ砲台ヲ攻落シ、巣窟ヲ焼テ第六時帰城ス、此日大迫大尉（尚敏）軽傷ヲ蒙リ、（蛙）池端警部即死ス、

二月廿八日、城南洗馬ニ聚粮ニ出テシ兵、玄米弐拾俵ヲ得テ帰ル、○城中牛肉尽テ馬ヲ屠ル、馬肉ノ美ナルヲ称セサル無シ、

三月一日、二月廿二日ノ戦ニ台兵藤崎ヨリ賊兵ヲ進撃スルノ際、兵卒斉藤彌七ナル者ノ行衛ヲ知ラス、皆以為ラク、必賊丸ニ中リテ死セリト、其屍ヲ探セトモ得ス、然ルニ本日ニ至リ、藤崎ノ麓ヨリ仰イデ麾ク者アリ、台兵以テ賊トシ一丸ヲ発ツ、中ラス、尚麾ヒテ止ス、依テ台兵其傍ニ至リ之ヲ見レハ、則チ先キノ斉藤某ニテ、頬部及ヒ足脛ヲ射徹サレ、白昼動クトキハ賊ニ認メラレンコトヲ恐レ、菰ヲ冒リテ静ニ伏シ、夜ハ間ヲ伺ヒ僅ニ匍伏シ、八日ヲ経テ終ニ帰営セリ、其間固ヨリ飲食ヲ為サス、疲労甚シト雖、八日間ノ艱苦ヲ物語セリ、○本日城中ノ兵粮ヲ実査スルニ、現石六百石余アリ、尚二十三日ヲ支ユヘシト云、頃日一日分廿九石ヲ費用ス、

三月二日、坪井・京町辺ニテ米五拾俵ヲ取ル、

三月三日、鎮台ヨリ外情探索ニ出セシ宍戸某、帰営シテ高瀬・南関辺ノ事情ヲ告ク、○午前第九時頃ヨリ高瀬地方ニ当リ、大小銃ノ声遙ニ聞ヘリ、

三月四日、昨日来、賊ノ砲台花岡山ヨリ本営ニ向テ不絶砲発ス、

三月五日、開戦以来本月二日迄、我兵戦死スル者五十二名、軽重傷ヲ受ル者都合百八拾弐人ナリ、

三月六日、鎮台ノテントヲ出テ又県庁ニ移住ス、

三月七日、午前八時過ヨリ、賊兵城ノ東南西ヨリ大小銃ニテ烈シク攻撃ス、暫時ニシテ去ル、

三月八日、九日、十日、例ノ如ク花岡山処々ノ砲台ヨリ発砲シ、小銃ノ小迫合アルノミ、

三月十一日、午前賊兵ヨリ左ノ矢文ヲ片山邸（城ノ西）ヘ投射セリ、

今般政府妄ニ暗殺ヲ謀リ、自ラ国憲ヲ犯スノ罪有之、

尋問ノタメ西郷陸軍大将外弐名、衆ヲ帥ヒ爰ニ至ルニ、当県鎮台名義ヲ弁セス、城ヲ閉チテ逆ヘ拒キ、人民ヲ妨害ス、其罪甚タシ、我衆憤怒シ、将ニ日ヲ剋シ城中ヲ鏖ニセントス、然レトモ盲昧脅従ノ輩、其情憫ムヘキニ在リ、諸口前非ヲ悔ヒ兵器ヲ捐テ、来服スルモノハ、必シモ其罪ヲ問ハス、且山鹿・高瀬諸道ノ東軍、我悉ク之ヲ撃破ス、各県義兵ノ起ル蜂巣ヲ破ルカ如シ、然ルニ公等猶孤城ヲ守リ、粮尽キ援絶へ、危キコト瞬息ニアリ、公等夫レ速ニ向背ヲ決セヨ、

三月　　　薩摩陣中

手筈(矢筈歟)ニ左之文ヲ直書ス、

をふゑんは皆うちやぶれり、籠城のともから兵器を捨てくだるものハいのちをたすくるものなり

三月十三日、午后五時ヨリ段山ヲ攻撃ス、本日午後三時ニ至リ、賊兵敗走ス、此戦ヤ開戦以来ノ劇戦ニテ、現ニ賊屍ノ戦跡ニ在ル者百余(官兵ノ死傷九拾余名)、生擒スル者四名、小銃二百有余、弾薬千有余個、其他刀剣等ヲ分捕ス、○斃死シタル賊兵、木札ニ薩州村尾惣二郎、裏ニ五ノ八番小隊ト書スルヲ付ケタル者、左之書翰ヲ懐中セリ、

去ル二月十七日、庁下発程、伊集院町ニ昼休、市來港(湊)町ニ一泊、同十八日川内向田町ニ昼休、阿久根ニ一泊、同十九日野田麓ニ昼休、出水麓町ニ一泊、同廿日米ノ津ヨリ乗船ニテ、同廿一日熊本県下松橋ニ着船、此夜直ニ未明迄ニ熊本城ニ達、同廿二日終日戦争、同廿三日ヨリ同廿六日迄城中ノ敵兵不出、之カ為メニ柵外ヲ守ル、同廿七日高瀬ト申邑ニテ戦争、味方之兵少シテ甚タ苦戦セリ、同廿八日復植木町ト申野町ニ退陣ス、木ノ葉ト申所ニ進軍致候処、味方ノ兵少シテ苦戦候ニ付、退テ田原村ニ宿陣ス、同四日ヨリ同六日迄不止戦、同七日切込ニテ全ク勝利ヲ得タリ、首ヲ得ルコト八十九ナリ、同八日熊本二本木町ト申処ニ帰陣ス、同九日モ止戦、前件之通拙報仕候事、拝、

丑三月九日

三月十四日、賊兵処〻ノ砲台ヨリ城中ヲ射撃スル例ノ如シ、

三月十五日、台兵ノ放火ニ罹リ本妙寺焼失ス、○聚糧ニ出シ者各処ニテ麦・豆・蕎麦等、都合百五拾俵ヲ取リ帰レリ、

三月十六日、聚糧ニ出シ兵、米・粟合シテ百三十俵ヲ取

リ帰ル、
三月十七日
三月十八日
三月十九日、二月廿二日ヨリ本日迄、我鎮台兵及ヒ東京警部・巡査ノ死傷左ノ如シ、

一死　百弐拾人
　内
　上士官以上　拾人
　警部　六人
　下士以下　七十二人
　巡査　三十二人(ママ)

一傷　三百四十九人(ママ)
　内
　士官以上　九人
　警部　七人
　下士以下　弐百四十七人
　巡査　八十五人

死傷総計
　四百六拾九名(ママ)

三月廿一日霾風、午後六時県庁雇古城貞ヲシテ、南関仮庁且団兵ノ在処ニ城中ノ形情ヲ報告セシム、
三月廿二日
三月廿三日、去ル廿日出城シタル巡査中村匡行帰営シテ、植木口ノ官軍ハ植木町ヲ放火シテ、向坂ニ押シ来リ居ルコトヲ報ス、
三月廿四日
三月廿五日
三月廿六日、午後第六時県庁仕丁雇坂田吉郎ヲ出城セシメ、仮庁並ニ団兵ヘ城中ノ形情ヲ告ケシム、
三月廿七日、午前第五時台兵巡査壱大隊ヲ三道ニ分チ、京町ヲ進撃ス、我兵奮戦、処々ノ砲台ヲ落シ進テ、二中隊ノ我兵ヲ京町ニ布置ス、此ニ至リ京町全ク我有トナル、
三月廿八日、福島大吾ナル者、団兵ノ命ヲ受ケ囲ミヲ冒シテ城中ニ来リ、植木口戦闘ノ情ヲ告ク、且ツ五日内ニ熊本ヘ進入スルコトヲモ報告ス、
三月廿九日、両三日前ヨリ賊坪井・井芹川ノ下流ヲ堰キ留メ、満川漲流ル、〇午後八時過、花岡山ヨリ発ツ処ノ砲丸、県庁四階ノ土蔵ニ中リ、着発ノ火既ニ家根裏ニ燃ヘ付カントス、県官ハ勿論、歩砲ノ兵卒馳セ集リテ漸クニシテ消留ム（古キ書類少、ミ焼失ス）

三月三十日
三月三十一日
四月一日
四月二日
四月三日
四月四日、花岡山・長六橋ノ賊連ニ発砲スルコト三四十発、県庁内ニテ着発スル者七八発、幸ニシテ傷ヲ蒙ル者ナシ、○雇熊野五蔵ヲシテ、高瀬ニ在ル官軍及ヒ仮庁ヘ城中ノ消息ヲ通スル為メ、暗号ノ書付ヲ持セ出城セシム、
四月五日、昨日ノ如ク県庁内ヘ四五発ノ破烈丸来リ、夜屋根裏ニ火移リ、漸クニシテ消シ留ム、
四月六日、又前日ノ如ク賊丸砲撃、県庁内ニテ着発シ、県庁為メニ焼ケ出サントスルコト二度ニ及ヘリ、皆之ヲ消留タリ、
四月七日、城中糧食ノ乏キ論ヲ待タス、然レトモ万余ノ団兵ハ二三里外ニ進ミ来リ、日々夜々山岳ヲ崩スノ戦声耳ニ在ルヲ以テ、不日城ノ囲ミモ解ント、砲声ヲ力ニシテ孤城ヲ守リ、三度ノ食モ白飯ヲ喰ヒ居シガ、賊兵ハ城ノ東西ニ流ル（坪井・井芹ノ）両河ヲ堰キテ（常水ヨリ高キ事丈余ニ及ブ）、東西南ノ三道ヲ絶チ、北ニハ（植木ニ出ル本街道）数重ノ塁ヲ築キ、城兵ノ突出ヲ防ク、此ニ至リ一粒ノ米粟モ集収スルニ術ナク、依テ今日モ城中一統ヘ（病院四百余名ヲ除）、朝夕ハ白粥、昼ハ粟飯ヲ分与シ、漸クニシテ今ハ十一日ノ命ヲ繋グニ足レリ、
四月八日、壱大隊突出シテ川尻口ノ団兵ニ応ス、
四月十四日、川尻口ノ団兵熊本ニ入ル、城中歓喜ノ声山岳ヲ崩ス、
四月十五日、植木口ノ団兵熊本ニ入ル、
四月十六日、山縣陸軍卿・大山大輔着、総督宮ハ明日着ノ筈、○県官何レモ無事勉励ス、御安心々々、

四月十六日　　熊本城中ニテ
品川彌二郎
内務卿殿閣下

或人ノ狂歌ニ
大山ヲカケ損フテ最後（西郷）ニハ思ヒキリ（桐野）ノト共ニ篠原（ノノハラ）

林友幸西南之役出張日記

西南事件ニ付出張中

日　記

林内務少輔

明治十年二月四日
一林内務少輔以下九時御用相済、西京へ着ス、
同二月六日
一林少輔、午前八時為
天機伺、御所ニ到ル、
一鹿児島県下ニ備アル海陸軍用弾薬運搬ノ為メ、汽船赤龍丸該地へ差廻相成処、県下動揺シ暴徒等弾薬ヲ奪掠スト、東京ヨリ電報アルニ因リ、事情推問トシテ、川村(純義)海軍大輔彼地へ出張ノ処、林少輔建議スル所アリ、同断該地出張ヲ被　命、
一午後六時西京ヲ発シ、同十時神戸ニ到ル、
一内務卿(大久保利通)へ、鹿児島へ河村(川)海軍大輔出張ニ付、小官(林)見込建言スル所アリ、即同様出張ヲ命セラレタ(ン脱カ)ト電報ス、
一又書管(簡カ)ヲ以、内務卿へ兼テ電報ヲ以申進候通、九州御用相済西京着ノ処、鹿児島県下暴挙ノ報アリ、実ニ驚愕ノ至ナリ、就テハ河村海軍大輔、彼地へ被差遣候事ニ御決議有之、抑モ此暴挙ノ原由ハ、是マテ該県種々ノ疑惑有之、既ニ彼地ニテハ討薩之流言行ハレ、満心不平ノ処、突然弾薬運移ニ際会シ、事此ニ至リ候儀ト被察、尤彼地滞在中モ大山県令へ説諭シ、無根ノ流言ニ惑ハズ、県下鎮撫尽力可致申含置候次第モ有之処、前顕ノ次第ニテハ、県令ノ職掌於テ素ヨリ其責難免、今般ノ義ハ極メテ大事件ニ及ブヘクハ必然トハ存候得共、下官於テハ今一応順序ヲ相立、鎮撫ノ責ヲ県令ニ担負セシメ、然ル後御処分相成度段上申候処、御聞届相成、河村海軍大輔一同彼地へ出張被命候ニ付、高尾丸船仕度出来次第出発彼地ニ至リ、誠心ヲ以テ県令へ充分差図致候心得ニ候云々、右御用状奥津(興カ)地理大属へ相渡シ、帰京ヲ命ズ、但東京丸便船明日出立候事、
一午前十時高尾丸へ乗船、二等属淺井新一・十等属小川守一随行ス、
一河村海軍大輔乗船ス、
一高尾丸艦長ハ伊東(祐亨)海軍大佐、副長杉海軍少佐ナリ、
一午十二時三十分出帆ス、紀淡ノ間ヲ過キ土州洋ヲ航ス、
同二月八日　晴
一土州洋ヨリ伊豫海ヲ航ス、
同二月九日　晴又雨
一午前六時佐田(多)岬ヲ経テ、同十時三十分鹿児島港へ投錨

ス、港内小端舟ヲ見ス、唯異装ノ者小船ニ乗、本船近傍ヲ徘徊ス、

鹿児島県四等警部野村忍介来ル、河村海軍大輔面会ノ処、何等ノ御用ニテ被相越候哉ノ旨相尋候ニ付、内務省ヨリ県令ヘ御用有之罷越候旨申達ス、

一港内ノ景況常ニ異ナル所アリ、大山県令ヘ一書ヲ送付ス、其略ニ云フ、其県下ノ形勢不穏趣相聞候ニ付、事情取糺ノ為メ河村海軍大輔一同高尾丸ヘ乗組、本日当港ヘ到着セリ、即上陸可致候条此段申入候、但差向上陸候テハ不都合ノ県情モ有之候ハヽ、速ニ本船ヘ出張委細可申立事、

一右之書状送達トシテ、午十二時廿分十等属小川守一ヲ上陸セシム、海軍主計副益田尚明同行ス、此レハ伊東大佐ヨリ新納軍八・星山眞吉(貞吉ノ誤)ヘ一書ヲ送付スル為ナリ、

一午後一時大山県令来、林内務少輔・河村海軍大輔一同応接ス、四等警部野村忍介随行シ来、

一午後三時暴徒数十人七八艘ノ小船ニ乗シ、兵器ヲ携本船ニ迫ル、伊東大佐応接臨機蒸気ヲ立テ、船ヲ運転シ暴徒ヲ追散ス、

一午後四時県令又来、林内務少輔・海軍大輔一同応接ス、

一午後五時五十分出帆セントスル処、驟雨洒来、港口暗黒、港内給黎(きいれ)地方(湾ノ西岸也)碇泊ス(港内当時ノ景情、上奏書ニ詳ナリ)

同二月十日　雨

一午前七時二十分出港、同十時佐田(多)岬ヲ左ニ転シ、日向灘航海ノ処風波激猛、日向国外ノ浦ヘ碇泊ス、

同二月十一日　陰

一紀元節、

一午前七時出帆、日向灘ヲ航ス、

同二月十二日　晴

一午前七時御洗海峡ヲ経テ、同九時備後国三原ニ投錨、浅井二等属ヲシテ上陸、尾ノ道ニ到リ各所ヘ電報ヲ達セシム、小田海軍中尉・原田中秘書同行ス、

一東京ヘ電報ス、薩摩ノ挙動容易ナラス、去ル九日着セシニ、悉ク兵器ヲ携ヘ我船ニ乗入ラントス、反状顕然御用意アレト河村大輔連名ヲ以テ達ス、

一福岡・山口・大分ヘ電報ス、薩摩ノ挙動容易ナラズ、去ル九日着セシニ、悉ク兵器ヲ携ヘ我船ニ乗入ラントス、肥後ニ出テ陸地ヲ登ルトノ由、手落ナク手配リセヨ、

一長崎ヘ電報、薩摩ノ挙動容易ナラス、去ル九日着セシニ、悉ク兵器ヲ携ヘ我船ニ乗入ラントス、肥後ニ出テ陸

地ヲ上ルトノ由、手落ナク手配リセヨ、其旨出張出納局ヘモ通ジテ、金ハ其地廻リノ龍驤艦ヘ積込置ベシ、

一熊本・廣島ヘ海軍大輔連名ニテ電報ス、薩摩鎮定成リ難ク、悉ク兵器ヲ携ヘ玉込シテ我船ニ乗入ラントス、此レニテ承知アレ、肥後ニ出テ陸地ヲ登ルトノ事、右ノ挙動ニテハ、其名義トスル所立チ難ク、我レ去ル九日薩摩港ヲ出帆ス、東京大山・大阪山縣エモ報知セリ、

一午後一時三十分淺井二等属尾ノ道ヨリ帰船ス、

一午後二時抜錨、午後六時屋島ヲ経ル、

同二月十三日　晴風又雪

一午前一時神戸着岸、林内務少輔・河村海軍大輔一同、山縣陸軍卿旅宿長門屋弥兵衛ニ到ル、

一専崎彌五平方ヲ旅宿トス、東京ヘ電報ス、尾ノ道ヨリ河村海軍大輔連名申進セシ通リ、今日此地ニ戻ル、伊藤・山縣申談シ、暫時滞留指揮ヲ待ツト、

一本日ヨリ電報私信ヲ止ムルコトヲ、伊藤工部卿ヘ議ス、

一午前十一時十分三ノ宮ヨリ発車、大坂ヲ経テ堺県行在所ニ到ル、会々県庁ヘ　臨幸アリ、即チ県庁ニ到ル、

一林内務少輔鹿児島ノ形勢ヲ上奏ス、其文ニ云フ、

兼テ上申仕候通、河村海軍大輔一同高尾丸ヘ乗組、去ル九日鹿児島港ヘ到着、港内ノ形勢視察仕候処左ノ通、

一本月九日午前十時三十分、高尾丸鹿児島港内大波戸台場前ヘ投錨候事、

一右台場前ニ蒸気船三艘ヲ浮ベ、其内二艘ニハ銃器ヲ携ヘ帯刀致候者多人数相見ヘ候処、無程一艘ノ端舟ヘ六七人乗組携銃帯刀、本船高尾丸ヲ距ルコト凡百間余マテ漕寄セ、直チニ引返候事、

　但斥候船ニ可有之相見ヘ候事、

一午前十一時三十分当県四等警部野村忍介ト名乗リ、帯刀ニテ本船ヘ罷越候ニ付、河村海軍大輔面会候処、何等ノ御用ニテ被相越候哉ノ旨申出候ニ付、今般当県庁ヘ御用之筋有之罷越候条、其旨県令ヘ可相達旨申達候処、直チニ引取候事、

　但面会ノ節ハ脱刀致シ候事、

一右等ノ形情不穏相見候ニ付、事情推問トシテ県令大山綱良ヘ達書一封持参、属官一人上陸為致候事、

一右ト行違ヒ午後一時大山県令罷越候ニ付、河村海軍大輔一同面会、今般弾薬掠奪之事情詰問ニ及候処、抑々管下動揺ノ原因ハ、川路大警視事西郷隆盛ヲ暗殺セント数十名ノ刺客ヲ入県為致候処、夫々探偵捕縛

シ、其中四名ハ糺問ノ上逐一白状及ヒ候次第、実ニ不容易儀ニ付、有志一同戮力協議、西郷隆盛ヲ保護シ陸路上京陳白スル所ア(ラ)ントス、故ヲ以テ県下人心動揺亦不可制、尤右ノ次第ハ不取敢上申及置候処、右ト行違ヒ被相越候儀ト存候、就テハ河村大輔へ面会致度儀有之趣西郷隆盛申聞候間、即上陸有之度、林少輔ニハ暫時上陸見合セ候様大山県令申聞候ニ付、右暗殺等ノ事ハ可有之儀トモ不存、差向県下人心沸騰及ヒ候ハ実ニ不容易次第、第一県令ノ職掌難相立儀ニ付、速ニ鎮撫方尽力可致、兼テモ申談セシ通リ疑心暗鬼ヲ生スル習ヒ、決テ流言ニ惑ハズ鎮撫方協力可有之旨隆盛エモ可申聞、時宜ニ寄リテハ拙者共両人上陸、夫々指揮可及旨申達、午後二時十五分県令引取候事、

一午後三時波戸場ノ方ヨリ、七八艘ノ端舟へ各十数名乗組、帯剣携銃漕来テ、本船へ乗入ラントス、艦長伊東海軍大佐応接之処、河村海軍大輔へ面談致度儀有之旨申聞、其意気疎暴ニ渉リ候ニ付、艦規ヲ以一切上船不差許候処、詰リ口頭之争端ヲ起シ暴発ニ及ハントシ、既ニ装弾致候勢ヒ無礼ノ極ニ候得共、素ヨリ本船ハ軍艦ニ非ズ運送船ノ儀ニ付、暫ク其不敬ヲ恕シ、程能申諭シ少シク其船ヲ退カシメ、直チニ蒸気ヲ立テ、本船ヲ運転セシメ、櫻島ノ西岸字袴腰(はかまごし)へ凡八九町余へ引揚候処、折節風雨洒来ル、暴徒ノ船々モ一時散乱致候事、

一午後四時四十分大山県令又々本船へ罷越、西郷隆盛事河村大輔へ是非トモ面会致度旨申聞候間、上陸有之度旨再応申出候、顔色憔悴口気常ニ異ナリ実ニ可怪情態ニ付、過剋(刻)モ可達セシ通リ県下ノ鎮撫尽力専要ナリ、右ノ実功不相立上ヘハ、河村大輔上陸ノ儀少輔於テ相止ドメ候、況シテ数艘ノ暴徒兵器ヲ携へ官船ニ迫リ候次第、言語ニ絶セル無礼ノ至リナリ、此上ハ速ニ回艦上京、右等ノ始末逐一上奏可致旨申達候事、

一午後五時五十分櫻島ヲ出帆候処、雨風益強ク、加之薄暮雲霧咫尺ヲ不弁出港難叶、港内給黎地方へ碇泊候事、

一翌十日午前七時抜錨出港、日向灘ヲ経テ内海通リ航海ノ積ニ候処、前日同様風波激烈航海難叶、午後三時日向国外ノ浦へ投錨候事、

一翌十一日午前七時外ノ浦出帆、豫豊海峡ヲ経テ内瀬戸通り航海候事、
一翌十二日午前十時備後国尾ノ道へ寄船、東京・大坂・熊本・長崎・福岡・大分・山口・廣島ヱ鹿児島ノ景情ヲ電報シ、翌十三日午前一時神戸港へ着岸候事、
右暴徒猖獗跋扈、朝憲ヲ蔑如シ反形現然目撃仕候上ハ、最早説諭ノ及ボスヘキ様無之、速ニ海陸軍へ御沙汰ノ上、厳重ニ御責問被為在候ヨリ外無之、若シ一日之ヲ緩フスルトキハ、其気焔益〻盛ナル可ク候間、速ニ御処分相成度、此段上奏候也、

明治十年二月十三日　内務少輔林　友幸

右上奏ヲ被　聞食、叡慮ヲ以テ臨機処分ノ義ヲ伊東海軍少将へ御委任、鹿児島・長崎・下ノ関へ軍艦派遣ノ儀、被　仰出、
一午後九時堺ヨリ神戸へ帰港ス、林少輔山縣陸軍卿旅宿ニ到ル、
一一昨十一日テーボー船鹿児島へ視察トシテ出帆セシ趣、
一石井(邦猷)権中警視来ル、

同二月十四日　晴　風

一大久保内務卿昨十三日、玄武丸ニテ出帆ノ趣電報アリ、
一本日三邦丸入港、鹿児島県官澁谷國安・横山貞邦東京ヨリ来港ス、〇石井権中警視岡山県へ出張ス、
一森岡(昌純)兵庫県権令来、

同二月十五日

一林少輔山縣陸軍卿旅宿ニ(豊門屋)到ル、
一横山貞邦来、
一澁谷國安来テ云ク、県下弾薬紛失ニ付、御届并租税金弐万円上納ノ為上京致シ、只今帰県ノ際県下騒擾ノ趣実ニ不堪驚歎ト、
一前島(密、内務少輔)少輔ヨリ大久保卿へノ電報ニ、熊本ヨリノ報知、十三日暴徒一万人程、米ノ津へ出兵ノ積リニテ宿ヲ手配スル処、軍議変シテ鹿児島へ向ケ出水ヨリ千五百人出兵スト云フ風聞アリ、十五日ノ報ニ海陸弐万五千人一応鹿児島ニ集リ、隊ヲ組直シテ二月十五日出兵ストノ風聞、

同二月十六日　晴

一石井(省一郎、内務)権大書記官来、關口(隆吉)山口県令来、横山貞邦来、
一森岡兵庫県権令来、
一午後三時玄武丸入港、大久保内務卿着ス、遠藤一等属随行・参議随行ニテ太政官ヨリ日下部・中村両書記官

以下随行ス、
一今朝東京丸ニテ中島(信行)・河野(敏鎌)両議官着ス、同船ニテ板垣退助・後藤象次郎モ来着ノ趣、
一林少輔内務卿旅館ニ(銀行)到ル、
一卿輔ヘ一同随行官員、午後五時二十五分三ノ宮停車場ヨリ発車、西京ニ到、
一内務卿、木屋町三条上ル生亀楼ヲ旅館トス、
一林少輔同所柏亭ヲ旅館トス、河瀬(秀治)書記官大坂停車場ヨリ同行上京、
同二月十七日　晴
一鹿児島県賊徒征討御用ニ付滞京ヲ被命、浅井二等属・小川十等属ヘ同断滞京ヲ命ス、
一在岡山県石井権中警視ヨリ説諭ノ都合有之、尓後政府御処分ノ模様承リ度旨電報来、
一午後三時二十分七条発車大坂ニ到ル、河瀬書記官同行、中ノ島淀屋橋北詰五代友厚別邸ヘ宿ス、
一出納局詰大蔵権大書記官伊東武重ヘ協議、兼テ東京於テ渡タル鹿児島士族家禄金十九万弐千円、僉議ノ次第有之、当地出張出納局ヘ可相納旨、澁谷國安・横山貞邦ヘノ達書、兵庫県ヘ向ケ郵送ス、
一是迄汽船入港工部卿所轄ノ処、本日ヨリ内務卿所轄ト相成候事、
一三菱会社代森勘介来、神戸入港ノ船ゝ取調方申達ス、
同二月十八日　陰　雪
一渡邊(昇)大坂府知事・迫田権少警視来、府内取締向ノ儀ヲ申談ス、
一三菱会社船雇方并大坂府取締ノコト、夫ゝ達置タリト内務卿ヘ電報ス、
一在岡山石井権中警視ヨリ電報来、
一嶋津久光・西郷隆盛ヘ勅使トシテ、有栖川二品親王本日明治丸ニテ鹿児島ヘ発向スト、石井権中警視ヘ電報ス、
一三菱会社代中村喜作来テ、赤龍・兵庫・社寮ノ広狭頓数等ノ義ヲ申出ニ付、直ニ陸軍省可申立旨申達候事、
一石井権大書記官来、
一五代友厚発明藍染伝習人染工喜三郎(信濃人)来テ其藍ノ効功ヲ演述ス、
同二月十九日　晴
一大蔵省八等出仕岩井明俊来リ報シテ云、鹿児島県官横山貞邦ヨリ最前ノ御達ニ依リ、拾九万八千円受取シ趣

届出ル、
一林少輔大坂府庁ニ到ル、
一林少輔山縣陸軍卿旅館ニ(三橋楼)到、
一本日鹿児島県賊徒追討被　仰出、
但該県下暴徒ノ情術未タ審カナラズ、故ヲ以
勅使有栖川親王御発向ノ処、賊徒熊本県界へ乱入
ノ報アルニ由リ、遂ニ追討ノ命アリト云フ、
一大坂西本願寺へ追討総督府ヲ被置、
一福岡・熊本両県へ、来ル廿一日兵隊二千人博多上陸、
熊本へ行クニ付、弾薬運搬人馬・艀舟用意スヘシト電
報ス、
一在岡山石井権中警視へ昨日勅使下向ノ儀申遣ハセシ処、
今日追討仰出サレタリト電報ス、
一本日午後一時、熊本天守焼失スト同県ヨリ電報アリ、
一石井権中警視雲州へ出張ニ付、電報留置旨電信局ヨリ
報シ来ル、○扶桑丸ノ義ニ付前島少輔へ電報ス、
同二月廿日　晴
一前島少輔ヨリ扶桑丸ノ儀ニ付電報来ル、陸軍卿へ廻ス、
一午十二時、五代友厚藍製造場ニ到ル、河瀬書記官同行、
一林少輔午後三時二十分大坂出発西京ニ到ル、河瀬書記
官同行、
一午後五時四十分木屋町池庄へ着ス、
一林少輔内務卿旅館ニ到、
一石井権中警視帰着、雲州へハ不回候趣、
同二月廿一日　晴
一在大坂石井権大書記官へ速ニ上京可致旨電報ス、
一林少輔　御所ニ到ル、
一熊野九郎・島惟精・富岡敬明・美作津山新町警部山口
光友ヨリ郵書来ル、
一千歳丸入港、入用ノ有無、問合トシテ陸軍卿へ電報ス、
其返報ニ千歳丸入用也、此後入港ノ船ハ凡テ滞泊為致、
其旨報知アリタシト、
一右ノ趣三菱会社へ達ス、
一三国丸使用ノ儀川村大輔(純義)へ電報ス、其返報ニ損所アリ、
急ニ修復叶ヒ難シト、
一今日午後一時、熊本ニテ開戦ノ報アリ、
一野津少将(鎮雄)ノ隊、博多着ノ有無福岡県へ問合ス(電報)、
一石井権大書記官、山口県出張被命、
一中島議官来、
一三国丸修復差止メノ義、河村海軍大輔へ電報ス、

一熊本市街ヲ焼払、電線断切ストノ報アリ、

同二月廿二日　晴

一午前一時太平丸鹿児島ヨリ着港ノ旨、三菱会社ヨリ電報アリ、

一木梨精一郎・小川守一其外太平丸便ヲ以テ、鹿児島ヨリ帰着（但木梨精一郎ハ嘗テ琉球ニ在勤ノ御用ニテ帰京ノ積、、鹿児島ヘ寄船ノ処、暴動ニ際シ該船一時拘留セラル）

一三菱会社ヘ其港滞泊ノ船ヘ石炭積入レ、何時ニテモ出帆出来候様用意シ、陸軍ノ指図ヲ待ツベシト電報ス、

一熊本県七等出仕桑原戒平去ル十六日熊本出立、本日着京ス、

一太平丸便ヲ以、大山県令ヨリ書状到来、

去ル九日高雄丸ヨリ御厚志ヲ以テ当港（鹿児島ヘ）御到着、其際当地ノ事情悉皆具状仕候ニ就テハ、何トカ御取調ニモ可相成ト、出発猶予之儀直チニ西郷ヘ及示談候処、不得已トハ乍申、全国ノ動揺ハ不好訳ニテ程合見合、何レ電報ニテモ可有之ト猶予ノ儀ニ相決候処、其後一向御報知モ無之、一同飛出ス勢、折柄既ニ去ル九日於政府討薩之儀御決定ノ報知大坂ヨリ電報相達、全ク無名ノ暴挙ト被押付候テハ、終ニ賊名ヲ蒙ル故、断然出発ト相決シ、既ニ十五日マテ一小隊二百人編隊ニテ八大隊不残繰出シ、砲座千五百名、四五日間ハ旧城下ニ満群、入ル所モ無之次第、然ルニ此度ノ出発前ヘ表通リ専使三名差立候得共、此節柄直ト通行如何ト被案候折柄、木梨氏是モ琉球難大事件ニ付上京ノ趣故、幸同人ヘ相托シ、寸時早ク趣意柄御届ノ方可然ト致示談、属一名随行為御届差出候間、委細御聞取可被成下候、僕於テモ当今奉職中無論謝罪ノ道モ無之、兎角死ヲ以謝スル外無之ト決心致居候得共、目今人民ノ疾苦ハ扨置、不日軍艦ヲ以テ県下ヲ焼払等ノ説夥敷、死力ヲ尽シテ人民保護ハ勉強可仕候、兎モ角モ金額大凡六十万余モ不残取建相成、不得止事情ニテ、不日黒白分明可相成、実ニ是迄千辛万苦姦計ヲ廻ラシ、入督差督隠謀ヲ逞シ、只一身ノ恐ヲ防禦スルノ道而已、先ニ前原モ同様是レ浅智故不愍ナリ、実ニ初中後ノ次第全ク抜目ナク、十分ニ明瞭ナル事海外ニ押出シテモ、恥ル処ハ有之間敷、

一野村綱ト云フ者ハ、旧宮崎県大属ニテ基ト姦物ナリ、先ニ野村督学局ヘモ全ク学校事件ヲ欺キ候物ニテ、嗚呼天ナル哉、此際ニ帰県折柄、既ニ隠謀ノ公告等

ヲ一見致シ落胆ノ末、県庁ヘ駆込ミ自訴致シ候次第ハ、別紙口供通ノ事ニ御座候、今日太平丸出帆ニ付、御出艦後ノ形行極内申進候、何卒御投火可被下也、

二月十八日夜認

以別紙当地ノ景況委細申上候、然ルニ隠謀連類ノ手帳ニ有之候暗号備照覧候、何分前以テ御届ノ儀遅延ニ可相成ト、別テ懸念罷在候所、幸木梨氏出京故百事都合宜敷被察候、此旨重テ得御意候也、

二月十九日　　大山綱良

一号暗号
一虎トハ　電信機　一西ノ窪トハ大久保ノ事
一親方トハ　政府ノ事　一坊主トハ　西郷ノ事
一警助トハ　警視庁　一吉田トハ　桐野ノ事
一川原トハ　三条ノ事　一髭トハ　別府ノ事
一於岩トハ　岩倉ノ事　一一向宗トハ私学校ノ事
一川口屋トハ　川路ノ事　一天狗トハ　銃砲ノ事
一藤細工屋トハ安藤ノ事　一御薬トハ　弾薬ノ事
一人力車トハ　巡査ノ事　一馬車トハ　兵隊ノ事
一クジラトハ　軍艦ノ事　一乞喰トハ　探索者ノ事
一小使者トハ　戸長ノ事　一古風トハ　島津学校
一星移トハ　変革ノ事　一首長トハ　県令ノ事

第二
一西郷　烟草　一桐野　カスリ
一篠原　勝男鰹　一別府　花手
一私学校　ミカン　一県庁　フノリ
一久光　黒サト　一地租改正最中ノ私学校形勢動揺

一右ノ書状、木梨精一郎同行セシ鹿児島県官田中恕吉持参ス、其旨趣ノ帰着スル所曖昧、行文亦分明ナラス（下脱カ）雖モ、此文ヲ以之ヲ徴スレハ、西郷暴挙ノ主謀タル大山モ亦同論ナルヲ見ルニ足ルベシ、

同二月廿三日　晴

一林少輔三条邸ニ到ル、
一岡山県二等属加藤四郎・同六等属阿部浩来、
一下関石井権大書記官ヨリ、三田尻通ヒ小蒸汽船廻方ノ儀ニ付電報来ル、
一林少輔木戸顧問（孝允、内閣顧問）ニ到ル、

同二月廿四日　雨

一本日午前十時三十分、有栖川総督宮御進発相成、卿輔参内、
一石井権大書記官ヘ、三田尻通ヒノ小蒸気陸軍ニテ雇ヒタラハ、山口分宮ハ足ルヘシ、其外ニ山口県用ニ立ツ

船アラハ、申越スヘシト電報ス、
一山口県用ニ立ツヘキ心当リ船ナシ、政府御雇上ケノ内ヨリ一艘御廻シ被下度旨、石井権大書記官ヨリ、尚又電報来、
一石井権大書記官へ政府引上ケノ船ハ、皆三菱船ナリ、満珠丸ヲテント船ハ自由ニ往復スル筈ナリト電報ス、
一征討総督本営ヨリ、黄龍丸ハ入港次第留置ク、船ハ尚ヲ幾艘テモ入用ナリ、此方ヨリ報知スルマテハ、総テ差止置レタシト電報来、其段三菱会社へ電報ヲ以達ス、
一木梨精一郎本日東京へ出帆ノ趣、
一黄龍丸早〻船用意可致旨、三菱へ電報ス、

同二月廿五日　晴

一昨日木葉ニテ合戦、吉松少佐打死ノ報アリ、
一太平丸・赤龍丸至急出帆用意可致旨電報ス、

同二月廿六日　晴

一島津久光へ　勅使トシテ、柳原前光(元老院議官)鹿児島へ向ケ出発ノ命アリ、
一山田(顕義)陸軍少将勅使付トシテ出発ノ処、見合相成、花房外務書記官出張ノ趣、　但三月一日発艦ノ積、
一川北良弼・福原佃、内務省御用掛被命、
一三菱会社太平丸・品川丸ハ、陸軍ヨリ照会ノ趣アリ、其意任セル故陸軍ノ差図ヲ受可シ、赤龍・黄龍・快順ハ勅使御用ナリ、早ク用意スヘシト電報ス、

同二月廿七日　陰

一昨廿六日高瀬戦争、官軍大捷利ノ報アリ、
一山口県令ヨリ、下関・三田尻往復ノ為、白水丸廻シ方ノ儀申立有之ニ由リ、右持主へ達方ノ義、三菱会社へ電報ス、
一午後六時四十分七条発車、神戸ニ到専崎ニ泊ス、

同二月廿八日　晴

一白水丸ヲ下関へ差廻ノ義、伊藤参議へ照会ス、
一川路大警視ヨリ九州出張ニ付、千六百人乗ノ船用意アリ度旨電報来、目下船ハ一切無之旨返報ス、
一午後二時海岸四町有本屋宗七方へ転宿、専崎ハ陸軍参謀ト為ルニ因テナリ、
一敦賀丸ノ儀、内務卿へ電報ス、
一白水丸下ノ関廻ノ儀、同船へ達ス、(大坂住友吉左衛門代 広瀬宰平)
一石川県令桐山純孝ヨリ一封、同県一等属小原正朔持参ス、
一鶴ケ岡県下少シク動揺ノ色アリトノ趣、

一山口県令へ白水丸廻方ノ儀ニ付、御用状船長へ下付ス、
一敦賀丸（船長古江紀十郎）ハ陸軍使用ニ付、代リ船赤龍丸用意致候旨、内務卿へ電報ス、
一勅使柳原前光・参議黒田清隆・外務書記官花房義質以下黄龍丸へ上船、午前四時出帆相成候事、
一賊ヲ高瀬川ノ南岸へ追退クトノ報アリ、

同三月二日　雪

一東海丸ノ儀ニ付、滋野陸軍大佐へ照会ス、
一官軍木ノ葉一戦ヲ除クノ外常ニ勝利、熊本城堅固百日ノ粮アリト参謀部ヨリ報ス、
一川路大警視西京ヨリ来、九州出張被命候趣、

同三月三日　晴

一昨日大坂ニテ肥後人十三人ヲ縛スル趣、○今般御雇相成候船ミ費額、計算方ノ義ニ付三菱へ指令ス、
一川路大警視赤龍丸ニテ出帆ノ処、延引相成候事、
一三菱会社へ、勅使并警視局用船費ノ儀ハ、当省可申出旨指令ス、

同三月四日　晴

一林少輔午後十時発車、大坂伊藤参議旅館（加賀伊）到ル、
一帰後汽車中、鹿児島県雇英人ウエルス持参ノ趣ヲ以、大山県令ヨリノ書状英人某ヨリ受取ル、并ニ三条太政大臣・内務卿へノ書状トモ、コレハ同所駅長へ付シ西京へ送達ス、

大山県令書状

当県之儀、追ミ不容易大事件ニ立至リ、実ニ眼前不堪其職候ハ勿論、日ミ待罪罷在候、然ル処是マテノ情実御届トシテ、去ル十四日当地出立為致候専使三名差立候得共、段ミ所ミニテ捕縛相成候伝聞モ有之、実以遺憾ノ至奉存候、乍併去ル十九日、木梨氏へ委細国情ノ前後始末等逐一遂協議、属一名随行依頼致候間、無異儀相達シタル儀ト大ニ安心罷在候、右ニ付当県尚御征討被　仰出候段伝聞、勿論大罪有之候ハヽ、御当然ノ事ト奉畏候得共、今一応御伺書差出国民へ説諭致度、何分ニモ県官ヲモ無故無辜ニ捕縛ニ逢ヒ候時宜ニテ、情実露程モ貫徹不仕、一身上ノ進退窮迫不得止、今度チユツセン氏（チユノセンへ托スル積リ処、同人不快ニ付同雇ウエルス持参スト云フ）出京ニ付、不筋ノ儀ニハ候得共、尊台マテ呈書候間、何卒至急御沙汰相成候様御尽力被成下度、此旨奉歎願候也、恐ミ再拝、

一大久保卿ヨリ大山県令ノ書状ハ、何レヨリ届ケ来ルヤノ旨、電報来、
一鹿児島県雇ウエルスヨリ被托候外国人ヨリ受取タリト返報ス、
同三月五日　晴
一林少輔参謀部ニ到、鳥尾中将(小弥太)来ル、
一官軍木葉駅ヲ攻取リ、田原坂ニテ激戦、士官死傷多シト電報ノ趣、参謀部ヨリ通知、
同三月六日　晴
一滞泊船不残石炭積入、長崎廻ノ用意可致旨三菱会社ヘ達ス、
同三月七日　晴
一勅使一行、今午後三時長崎出帆鹿児島行ノ趣、同所滞在石井権中警視ヨリ電報アリ、
勅使随行船名
黄龍　龍驤　筑波　春日　生気(清輝)　神奈川　玄海
一山口県令ヨリ白水丸船賃ノ儀ニ付、電報アリ、
同三月八日　晴
一白水丸船費最前ノ申立ト、此度山口県ヘ申立ト相違ノ儀ニ付、三菱社員石川七財ヘ推問ス、

二月廿八日　　　　大山鹿児島県令
林内務少輔殿
書添申上候、当県下ノ儀ハ至極静謐ニテ、裁判検事局官員皆々無事、地租改正官員ハ不残宮崎ノ様通行、夫ヨリ一先帰京ノ都合ニ御座候、小川氏等ヨリ委細御承知被下候義ト奉遙察候、尤当時其地ヨリ角力抔多人数下リ、招魂祭ニ付興行毎日賑々敷事ニ御座候、且又熊本鎮台ハ本丸ハ焼払ヒ、二ノ丸カ三ノ丸カ一ケ所ヘ十九日ヨリ籠城ノ処、台兵・巡査二百名共四方ヨリ取巻キ、既ニ皆殺ノ様ニモ風聞有之、聢トハ不相分候、追々彼地ヨリ通行ノ処、何方ヨリカ二大隊ノ兵応援ニ出掛ケ候処、植木駅ニテ接戦、大敗走ニテ隊長モ被討大隊旗等不残奪取候、皆小倉ノ様敗走ノ由、今日出水表ヨリ聞合書相違、何共気ノ毒ノ次第ニ御座候、此段風聞ノ儘極内申上置候也、
二月廿八日
一右ノ二書モ亦其文辞恭順ナリト雖、到底県力ヲ以其初意ヲ貫カント、暗ニ官兵ヲ誹謗ス、而シテ身辟遠ニ在リテ実際ノ戦状ヲ知ラス、可悪亦可笑ナリ、
一楫取(素彦)群馬県令ヨリ一封来、

一在南関石井権大書記官ヨリ、地理局官員山本章造・原順太郎使用ノ儀ニ付電報来、承届ノ旨返報シ、其段東京前嶋少輔ヘ電報ス、
一玄海丸繋船ノ儀ニ付、三菱会社ヘ指令ス、
同三月九日　陰
一林少輔午前八時三十分発車、大坂内務卿・工部卿旅館到ル、
一林少輔大坂滞在、
同三月十日　晴
一林内務少輔大坂ヨリ帰港、
一扶桑丸船費ノ儀ニ付、三菱会社ヘ指令ス、
同三月十一日　晴
一検事補吉本某来ル、大山県令ヨリ書状来ル持参ス、
　奉謹啓候、愈御壮剛御滞阪ノ儀ハ、遙ニ承知仕候、不一方御厚配ノ事ト奉存候、先キニ太平丸ヨリ木梨氏上坂ニ付、裁判・検事局同行ニテ、当県属ニモ木梨子ニ保護ヲ受ケ、再御届トシテ、尤モ尊台ヘモ同様差上候間、御落掌被下候半欤、然ルニ今般裁判官并検事局一名ヨリ上京ニ付、尚又御消息奉伺候、尚今日マテノ情実御聞取被下、何分ニモ西郷ノ趣意并迂生ノ旨趣、到底致貫徹候様呉々奉歎願候、委細両人ヨリ御聞取可被下、不取敢早々及拝啓候也、
　三月三日　　大山綱良
　　林内務少輔殿
一山口県令ヨリ白水丸船費、海陸軍雇船回天・ベルリンノ比例ヲ以費額節減云々、郵便ヲ以申来、
同三月十二日　陰
一白水丸船費節減至当ニ付、其段三菱会社ヘ相達置候旨、山口県令ヘ返書郵達ス、
一長崎石井権中警視ヨリ、去ル八日勅使鹿児島御着ノ旨電報アリ、
一増子三等属・日比三等属熊本出張被命、本日着港ス、
　但明日東京丸ニテ出発ノ趣ナリ、
同三月十四日　陰
一田原坂ヲ攻落タル旨、報知アリ、
一白水丸船費船長専断節減ノ儀恐入候段、住友代廣瀬宰平ヨリ歎願書差出ス、
一博多総督府本営ヲ久留米ニ移スノ報アリ、
一大山県令上京被命候趣、黒田（清隆）参議ヨリ電報来ル、
一伊藤参議ヨリ林少輔上坂有之度旨申来、

一三井銀行為替金、便船運輸ノ願指令済、内務卿ヨリ廻来、

同三月十五日　晴又陰

一午前五時山縣参軍ヨリ、田原坂ノ捷報小澤(武雄、軍団参謀)大佐報告来、兵隊銃撃ノ際抜刀隊ト名付ケ、巡査切入リシト云フ、

一林少輔大坂ニ到ル、午後六時帰港、

一森岡権令ヲ呼ヒ、大山県令着港ノ節、処置振ヲ内達ス、

同三月十六日　晴

一柳原勅使一行并大山県令従随黄龍丸ニテ、今午前一時着港ノ旨、三菱ヨリ届出ル、

一森岡権令来、大山県令ヲ当地ヘ拘留ス、

一奈良原繁(島津忠義家令)来、

一川路大警視ヨリ三百人乗ノ船用意ノ儀申来、黄龍丸ノ外無之旨返報ス、

一黄龍丸ハ田邊警視ノ指図ヲ可受旨、三菱ヘ達ス、

同三月十七日　陰

一大久保・伊藤両参議ヨリ、林(清康、臨時海事〻務局長)大佐連名ニテ鹿児(島脱カ)丸・寧静丸・大有丸三艘、器械弾薬積込大坂ニ相廻候ニ付、暫時御用船ノ名義ニテ取締、官員可差置旨電報来ル、直ニ林海軍大佐ヘ通達ス、右三艘ヲ当港繋船致サセ、海軍ニテ取締ノ筈ニ協議ス、

一本日大山綱良ノ位官被褫、

一西国地方焚詰滞泊費ノ儀、陸軍参謀部ヘ照会ノ上、同部ノ振合ヲ以テ三菱会社ヘ指令ス、

同三月十九日　晴

一支那軍艦(海安号)長崎ヨリ来着、廿一発ノ祝砲アリ、

一大山綱良本日検事局ヘ引渡、艦倉入相成ル、

一御雇船中賄費并艀船ノ義、三菱会社ヘ指令ス、

一前渡金四万円聞届ノ旨、三菱会社ヘ指令ス、

一御雇船日数表ノ義、三菱会社ヘ指令ス、

一山田陸軍少将九州出張、

一本日川路大警視兼陸軍少将拝命ノ趣、同人ヨリ報シ来ル、

一岩村(通俊、山口裁判所長)四等判事、鹿児島県令被　仰付候趣、

一長岡税関長来、

同三月廿日　晴

一焚詰滞船費ノ儀ハ、乗組長官ノ証書可差出旨、三菱ヘ指令ス、

一琉球藩富盛親方便船願ニ付、前島少輔ヨリ御用状添、内務卿ヨリ書状来、

一三菱会社前渡金四万円渡方并御雇船費計算方等ノ義、前島少輔ヘノ御用状、石川七財ヘ渡ス、

一富盛親方便船ノ義ハ先ツ見合、可然旨、内務卿ヘ回報ス、

一（重俊）岡内権大検事来、本日出帆ノ西京丸ニテ、大山綱良其外東京護送相成候趣申聞、

一黄龍・赤龍（二月廿四日碇泊費）ノ義、参謀部ヘ照会ス、

一コレヤ号当港帰着ノ日以御用済ノ旨、三菱会社ヘ達ス、

一川路大警視来、明日西京丸ニテ九州出張ノ旨申聞ル、

一黒田中将日奈久ヘ上陸ノ報アリ、

同三月廿一日　雨　暴風雨

一寧静丸大坂川口ヘ入港ノ趣ニ付、当港ヘ差廻方大坂府ヘ達ス、

一黄龍・赤龍二月廿四日ノ碇泊費ノ義、陸軍御用ノ義ニ付、同省仕払ノ積回答アリ、因テ其段三菱社ヘ指令ス、

一森岡権令ヨリ田原坂植木陥リ、熊本ヘ進軍ノ報アリ、

一春日艦・鳳翔艦日奈久上陸八代攻撃ノ報、在久留米市川正寧（藤井正志免官ニ付当分福岡書記官心得）ヨリ電報アリ、

一勅使御用黄龍丸航海費表、三菱会社ヘ達ス、

一原三等大警部ヨリ東京出発急ニシテ、且京都近傍出張ノ心得故、用意ノ旅費ニ乏シ、兵庫県ヘ照会候処、少輔殿ヨリノ達書ヲ受候ヘハ、借渡可申趣ニ付同県ヘ御達方相成度旨申立、無余儀場合ニ付、金弐万円操替渡ノ義、同県ヘ達ス、

一明廿二日、本営ヲ南関ニ移スト参謀部ヨリ報来、

一陸軍参謀部ヲ当分大坂三橋楼ヘ移シ、会計部・運輸局・参謀部出張所ハ、尚当港ヘ置クト同部ヨリ報来、

同三月廿二日　晴

一寧静丸大坂ヘ着港ニ付当港ヘ回船ノ義、林海軍大佐ヨリ照会ニ付、大坂府ヘ達セシ処、波荒クシテ回転難叶、暫時延引相成段返答来、其段林大佐ヘ通知ス、

一警視局人数乗船之義ニ付、再応陸軍ヘ往復ス、

同三月廿三日　雨

一豊島丸ノ儀ニ付、三菱会社ヘ指令ス、

一当地元町通出火アリ、

一御用談有之、明日上坂可有之旨、内務卿ヨリ電報来、

一在長崎河瀬書記官ヘ御用状、廣業社長笠野熊吉代松尾吉郎ヘ渡ス、

同三月廿四日　雨

一林少輔大坂ニ到ル、

一キニフル商会持小蒸気神戸号ノ儀ニ付、在長崎本野盛亨ヨリ電報アリ、
一昨廿三日総督宮高瀬へ御進営ノ趣ナリ、
同三月廿五日　晴
一高瀬通ヒ難波丸ノ儀ニ付、内務卿へ電報ス、
一昨廿四日殆ト木留ヲ乗取リ本日ヨリ昼夜攻撃スト、参謀部ヨリ報アリ、
一昨廿四日宮ノ原口開戦、皆勝チ小川村ニ進ムト、参謀部ヨリ報シ来、
一黄龍丸航海表、三菱会社へ達ス、
一本町通リ出火アリ、
一岩村鹿児島県令来、
同三月廿六日
一林海軍大佐来、当地参謀部ヲ長崎ニ移シ、当地ノ事務ハ東京へ移ス、因テ寧静丸始当方へ引渡度旨申聞、
一鹿児島丸・寧静丸・三邦丸三艘、自今内務省ノ指揮ヲ可受旨、右船々へ達タル旨、林海軍大佐ヨリ通知シ来ル廿七日、
同三月廿七日　晴　風
一三菱船々ノ内修復前ノ船有リ、焚詰ニテハ危険ノ趣并小笠原島廻船ノ義等、前島少輔開申書為心得、内務卿ヨリ回来ル、別紙返却回答差出ス、
同三月廿八日　晴
一寧静丸・三邦丸・鹿児島丸自今内務省ノ指図ヲ可受旨、各船へ達ス、
同三月廿九日　晴
一福岡県士族暴動ノ趣ナリ、
同三月三十日　雨
一宮ノ原・鏡村戦争賊ヲ敗ル、小川・鏡村ニ転営、人吉へモ賊入込様子ニテ、両方へ警備ヲナスト、参謀部ヨリ報知アリ、
一鹿児島士族当地滞在ノ者日当手当ノ儀、森岡権令ヨリ申牒差出ス、
同三月三十一日　晴
一林少輔大坂ニ到ル、
一鹿児島人賄費ノ申牒内務卿へ差出ス、
一山鹿口ノ捷報来ル、〇河瀬書記官長崎ヨリ帰着、
一福岡県ノ賊ヲ追討シ、賊潰散スト報アリ、
一鹿児島暴徒追討ニ付、滞京格別勉強候段被　聞召、思召ヲ以テ酒肴下賜候旨、宮内卿ヨリ達来ル、

一御料理一箱　御菓子一箱　酒二瓶　林内務少輔
一御料理一箱　酒一瓶　　　　　　　淺井二等属
一御料理一箱　酒一瓶　　　　　　　小川十等属

同四月一日　晴
一高知通ヒハ都合有之、平安丸ヲ廻スト内務卿へ電報ス、
一橋本正人大坂ヨル来ル、明日当地出発帰京ノ趣、

同四月二日　晴
一赤龍東海航海表ノ儀ニ付、参謀部へ照会ス、
一福岡ノ賊潰散ストノ報アリ、
一中津士族暴発、同所支庁ヲ焼キ県官ヲ殺傷ストノ報アリ、
一川尻口・松橋ノ捷報、内務卿ヨリ申来、

同四月三日　陰
一神武祭、
一遠藤一等属来、鹿児島士族当地滞在従軍願ノ儀ニ付、内務卿ヨリ申越ノ趣有之、森岡権令来、
一津川警部引卒ノ巡査隊、博多・三田尻・大分へ分遣ス、
一昨(マヽ)一日八代本陣ヲ松橋ニ移スト報アリ、
一別府・逸見ノ両賊、鹿児島ニ帰テ兵隊ヲ新募シ、出水・大口辺ニ出ルトノ報アリ、

同四月四日　晴
一林少輔大坂ニ到ル、
一中津ノ賊、大分県庁へ迫ルトノ報アリ
一木留ヲ攻落スト報アリ、

同四月五日　晴
一鳥ノ巣ノ賊塁ヲ陥ル旨、陸軍参謀部ヨリ報アリ、
一岩崎彌太郎来、御雇船〻現今ノ如ク焚詰航海候様ニテハ危険、保任難致旨云〻、東京本社申立ノ趣ハ、全ク過慮ノ余申出候儀ニテ、右等懸念ハ無之候間、右書面認直シ可差出旨申聞ル、

同四月六日　晴
一行在所布告九号壮兵募集ノ令アリ、
一豊島丸消火ノ儀、三菱会社へ達ス、

同四月七日　晴
一高山大警部来、
一赤龍丸航海時間表、三菱会社へ達ス、

同四月八日　雨
一去ル六日鳥巣再賊有トナル趣、

同四月九日　晴
一熊本県警部仁尾惟茂来、

一大分県二等属井上雅彦ヨリ書状来ル、中津支庁下暴動ノ際、馬淵二等属・堀兼□(マヽ)等属・堺田某暴殺セラル、巨魁ハ中津新聞社長増田宗(末)太郎・櫻井貫一郎・梅谷安郎・大分県上淵村後藤准(純)平ナリト云フ、

一内務卿ヨリ鹿児島人廿五人当地滞在従軍願再応申立ニ付、電報アリ、岡本兵庫県少書記官へ達ス、

一大神雪齊内務卿ノ書状持参ス、

一増子永圖肥後ヨリ来着、熊本県下難民救恤ノ義、石井権大書記官ノ上申書ヲ持参ス、○右上申ノ為メ増子永圖大坂ニ到ル、

一島津珍彦(久光三男)以下着ス、　勅答ノ為ト云フ、

同四月十日　陰

一林少輔大坂ニ到ル、

一鹿児島丸ヲ三菱会社へ下渡ニ付、鹿児島県并三菱会社へ達按ヲ西村書記官へ渡ス内務卿ヨリ夫々達ニ成ル、

一英軍艦堺県海岸へ碇泊ニ付、海軍及神戸税関へ照会ス、

一午後七時帰港、

一外国人ヨリ軍人負傷救恤品差出願書、森岡権令へ下付ス、

四月十一日　晴

一仁尾惟茂来、長岡義之来、

一林少輔参謀部ニ到ル、

一仁尾惟茂帰県ニ付九州通行ノ証書ヲ渡ス、且ツ石井権大書記官へ御用状ヲ托ス、

一内務卿へ鹿児島士族二十五名ノ内、山下竹之助儀更ニ従軍出願ノ趣有之、昨日其御旅館於テ同人へ願意推問ノ末、当県権令代理岡本少書記官ヨリ、別紙ノ通リ申出候ニ付勘考候処、最前ノ願意御採用不相成トモ、一己応分ノ御用相勤度旨申立候者纔ニ二名ニ有之、別ニ御用方モ無之、先ツ巡査隊或ハ壮兵中ニ編入相成候ヨリ外有之間敷ニ付、追テ何分ノ沙汰可及旨、県官ヨリ為申聞置候、依之別紙内務卿ヨリ差出二通供高覧也ト書状差出ス鉄道便、

一陸奥宗光・山東一郎着港上阪ス、和歌山壮兵募集ノ為ナリ、

同四月十二日　晴

一林少輔・河野議官旅宿常盤屋到ル、

一快順丸航海表、三菱会社へ達ス、

一増子三等属来、救恤方法ヲ稟請ス、

一去ル八日熊本城中ヨリ、奥(保鞏)少佐一大隊ヲ引キ賊囲ヲ突

キ、宇土ノ官軍ニ合スト参謀部ヨリ報アリ、
同四月十三日　晴
一木梨精一郎募兵之儀ニ付、昨夜下ノ關へ向ケ出帆ス、
一昨十二日山田少将緑川ヲ渡リ、川路少将御船ヲ取ルト報アリ、
同四月十四日　晴
一木戸顧問来、
同四月十五日　晴
一コレヤ号航海表、三菱会社へ達ス、
一神戸ニテ脱隊致候巡査且山直秀之義、高山一等大警部ヨリ届来、其段大坂府・兵庫県へ達置、
一午後十一時熊本県解囲賊軍潰散ノ捷報アリ、
同四月十六日　晴
一寧静丸琉球へ航海差許(船長宮田藤五郎)、其段兵庫県権令へ達シ、東艦長・澤野中佐へ通知ス、
一壮兵募集御見合相成度トノ義、内務卿へ電報ス、
一林少輔大坂ニ到リ、遂ニ西京ニ到リテ天機伺、
一各道官軍熊本入城ノ報アリ、
一午後六時西京発車大坂ニ到、五代友厚別邸ニ泊ス、
同四月十七日　陰
一林少輔内務卿旅館ニ(瓦町)到ル、
一午後五時帰港、
一寧静丸船長へ同船琉球行差許ニ付テハ、薩摩へ寄船不致候様口達ス、
同四月十八日
一大隈(重信)参議東京ヨリ来港、
一岩村鹿児島県令来港、
一鹿児島丸三菱会社引渡済ノ趣、同県丹下量平申出、
一寧静丸航海中海軍ミ艦ノ検査ノ節、証拠トシテ琉球行差許ノ証ヲ申受度段、同船長宮内藤五郎・会計長崎通郎申出ニ付相渡ス、
一内務卿明後廿日西京へ移転ノ儀、電報来、
同四月十九日　晴
一林少輔明廿日西京へ移転ノ儀、兵庫県庁并海陸軍出張所へ達ス、
同四月廿日　晴
一林少輔西京ニ到ル、
一林少輔大隈参議旅館ニ到テ、熊本県下救恤金ノ儀ヲ議ス、

一福岡県令ヨリ廣運・運化差廻方ノ儀、電報アリ、

同四月廿一日　晴

一昨廿日田畑常秋(鹿児島県大書記官)位官被褫、

一田畑常秋鹿児島ニテ自尽ノ趣、

一木屋町池田屋方ヲ旅宿トス、

一熊本救恤金百五十万円ヲ以処分ノ儀、林少輔へ委任ノ旨、内務卿ヨリ内規則相添達来、請書差出ス、

一林少輔熊本県出張ヲ被命、

一淺井二等属・小川十等属林少輔随行被命、

同四月廿二日　晴

一外国人救恤品ノ儀、兵庫県権令申牒、厚意ヲ謝シ断リ候様通達シ、書面差返候事、

一林少輔木戸顧問邸ニ到ル、

同四月廿三日　晴

一鹿児島丸ヲ三菱会社へ貸渡ニ付、同社約束書遠藤一等属へ送達ス、

一林少輔熊本県出張ニ付、費用金受取方トシテ内務卿ノ証書ヲ以テ、小川十等属ヲ大坂出納局へ遣ス、

同四月廿四日　晴

一品川(弥二郎)・石井(省一郎)両書記官ヨリ電報、救助小屋掛等ノ義申来、

一松平権大書記官石川県出張ノ帰路着京ス、

同四月廿五日　雨

一吉原(重俊)大蔵大書記官、熊本出張被命候旨通知有之、

一岩村県令赴任ニ付、鹿児島行ノ船用意可致旨、三菱会社へ電報ス、

同四月廿六日　雨

一大久保内務卿大阪ニ到ル、

同四月廿七日　陰

一無記事、

同四月廿八日　晴

一午前十一時林少輔御陪食、

一午後二時神戸ニ到ル、松平権大書記官送別ス、

一三菱会社へ当分ノ内鹿児島港へ備船ノ儀、内務卿ヨリ公然達ニハ可相成候得共、為心得同社員濱正弘へ口達シ置候事、

同四月廿九日　晴

一林少輔以下午前八時名護屋丸へ乗船ス、淺井二等属・小川(十脱カ)等属随行、

一増子三等属・池田三等属亦随行ス、

一北垣熊本県書記官同船赴任ス、

一島津珍彦同船便帰県ス、
一午前九時出帆ス、
同四月三十日　晴　雨
一午前八時下ノ關着、
一同十時出帆、
一午後七時風雨洒来、航海危険、平戸大島へ碇泊ス、
同五月一日　雨
一午前九時出帆、
一午後三時三十分長崎港着、万歳町上野屋彌平へ泊ス、
一大蔵官員白井驥ヨリ救助金ノ内弐拾万円ヲ仮ニ受取ス、
一北島（秀朝）県令へ着崎ヲ通知ス、
同五月二日　晴
一太田黒惟信来、
一北垣熊本県書記官来、
一陸軍雇社寮丸午前十二時出帆ニ付、便船ノ義運輸局へ照会ス、
一午後十時社寮丸へ乗船、
同五月三日
一午前一時出帆、
一午前九時三十分小島沖へ投錨上陸、
一午後四時熊本県庁ニ着、
一林少輔総督府ニ到、
一本地迎宝町松田敬次郎方ヲ旅宿トス、
一一昨一日ヨリ私信電報ヲ許ス、
一今般罹災人民救恤ノ義ニ付、内務卿ヨリノ達書ヲ県庁へ達ス（救助掛増子、三等属取扱）、
同五月四日　雨
一林少輔一行当地着ノ旨、東京・西京へ電報、
一林少輔鎮台ニ到、又県庁ニ到、
一福岡県令ヨリ何時頃当地被相越哉ノ旨電報来、未タ確定シ難旨返報ス、
一富岡権令来、内規則一覧、但権令限一覧ノ事、
一破毀焼燼調方之儀ニ付、廉書達書県庁へ達ス、
同五月五日　雨
一渥美契縁来、
一長崎ニテ受取候救恤金弐十万ヲ県庁へ渡ス、
一遠近二等属来ル、品川大書記官来、
同五月六日　晴
一林少輔鎮台ニ到ル、同病院ニ到リ樺山大佐ノ傷瘡ヲ訪フ、

一林少輔県庁ニ到ル、随行官員不残出庁、
一品川大書記官出庁、
一救恤ニ付焼毀取調方ノ規則中、実際ノ当ルト否サルトヲ論ス、
　但戦機前後ノ焼毀并宅地内外倉庫等ノ件ナリ、
一来ル十七日還幸被　仰出候趣、追テ御延引ニ成ル、
一増田判事・石井権中警視来、

同五月七日　晴

一富岡権令・谷少将来テ、道路更正ノ事ヲ議ス、
一去ル四日鹿児島表開戦ノ報アリ、土地ノ人民不残退去、岩村県令説諭スレトモ未タ帰リ来ラスト、
一昨日ノ議ニ因リ、救助方ノ儀ケ条書ヲ以、県令ヨリ伺書差出ス、

同五月八日　晴

一林少輔鎮台ニ到、又水前寺三好・野津両少将ノ陣営ニ到、石井書記官同行ス、竹宮・保田久保(窪)ノ賊塁跡ヲ巡視ス、

同五月九日　晴又雨

一県庁五号ノ布達、宅内倉庫小屋ノ廉記載有之、昨日差出候伺面ト齟齬アルニヨリ、右ノ廉取消ノ義池田三等属ヲ以県庁ヘ達ス、
一品川書記官来、石井権大書記官来、

同五月十日　晴又雨

一宅内外ヲ問ハス、倉庫小屋ハ坪数ニ算入セスト決議ス、
一県庁五号等ノ達ハ内規ニ抵触スト雖モ、右ハ県庁他ニ取調ノ見込アル趣ニ付、其儘布達セシメ、右ニ拘ラス救助掛派出ノ官員ハ伺済規則ニ因リ、取調ノ積ニ決ス、
一救助伺書朱批ノ上県庁ヘ指令ス、
　但評価人ヘハ規則一覧為致不苦事、
一官林伐木伺并陸軍用官林伐木伺ヘ指令ス、
一大分県下予備巡査廻方、西京内務卿ヘ電報ス、
一各区焼毀取調トシテ派出官員部署
　一第三大区　西村内務八等属
　一第十大区　楠村熊本県八等属
　一第十二大区　御用掛永田
　一第十三大区　(欠)
　一第十四大区　(欠)
　即(詫)托麻・宇土・下益城・八代・芦北・求磨
　一第一大区　増子内務三等属
　一第二大区　賀集熊本県七等属

一第四大区　等外出仕大川
一第九大区　御用掛前田
一第十一大区　内務省雇林田堯春
　即(託)飽田・上益城・阿蘇
一第五大区　(欠)
一第六大区　日比内務三等属
一第七大区　池田内務三等属
一第八大区　原田熊本県七等属
　即チ合志・菊池・山鹿・山本・玉名
一右明十一日ヨリ派出候事、
一官林伐木之儀臨機差許候旨、内務省へ通知書郵達ス、
一井上毅(太政官大書記官)来、
一大分県下竹田へ賊侵入ノ趣報知トシテ、該県官到着ノ趣県庁ヨリ申来、

同五月十一日

一軍団参謀部ヨリ大分県下賊侵入ノ旨、該県権令(香川真一)上申書添通知シ来ル、東京巡査ハ不日来県スヘシ、軍備ハ至急処分有之度旨返書ス、富岡権令其外寄附金ノ義届来、
一大分県廻シ巡査ノ儀至急出発相成度、西京へ電報ス、
一石井権大書記官来ル、
一在長崎吉原(重俊)大蔵大書記官へ救助金八十万円持参有リ度旨電報ス、
一鹿児島県御用掛柿原義則来、該地ノ形況内務卿へ上申トシテ上京スト云フ、
一午後一時池田・日比両属山鹿地方へ出発、
一午後九時池田・日比両属ヨリ、昨十日付県庁十号達ノ儀ニ付書状来、
一大分県廻シ巡査明十二日東京出発スト、内務卿ヨリ電報アリ、其段大分県へ電報ス、

同五月十二日　晴

一池田・日比両属具申県庁十号布達取消ノ義ニ付、石井権大書記官県庁ニ到ル、
一宮川房之来、
一三井産物会社員馬越恭平鹿児島へ罷越ニ付、同県令へ食料品物同人へ回送方ヲ托シ可然旨ノ書状、同人へ渡ス、
一林少輔市街焼燼跡ヲ巡視ス、
一十号布達ノ中、倉庫小屋ノ廉取消相成、其段池田・日比并西村出張先へ達ス、
一市街道路更正伺書県庁ヨリ差出候処、尚一応返付ノ義

申来、即下付ス、
一林少輔総督府ニ到ル、
一北垣書記官来、
同五月十三日
一細川護久(旧熊本藩知事)東本願寺寄附金願聞届候旨、県庁ヨリ届来、
同五月十四日
一河野幹事来着、林少輔総督府ニ到、
一豊後重岡ヨリ竹田・佐伯へ賊侵入ノ報知有之、四国・中国ノ要津ニ警備アリタク、又川路ノ旅団佐敷ニテ不利、且馬見原ニモ戦争有之旨、内務卿へ暗号電報、
同五月十五日　雨
一道路更正伺書県庁ヨリ更ニ差出ス、
一河野幹事へ面会ノ処、懲役申付候者多分有之見込ノ趣、右ハ処分済ノ上ハ一応長崎へ集メ置キ、兼テ御談ノ通一県へ二百五十ツヽ、八九県へ分配ノ儀予メ御取極メ御決定ノ上ハ、長崎県へ御達アリ度旨、内務卿へ電報ス、
一鹿児島表官軍配置左ノ通、
城山一円　新上橋　甲突川筋　西田橋　高麗橋　武ノ橋ヨリ川尻マテ　川ノ中央ニ竹柵ヲ結ヒ、岸上ニ胸壁ヲ築キ、其距離六尺毎ニ守兵三人ツヽ、要衝ノ場所ハ胸壁二十或ハ三十ニ到ル、
上ミハ築地ヨリ上浄光(明脱カ)寺辺過半焼失、下ハ西田丁ヲ始メ西田一丁目ノ(上脱カ)園　高麗丁辺　新昌院(照)　上ノ市千石馬場辺少々焼失、
賊ノ哨兵線ハ
礒ノ上　後迫　冷水　草手(クサテ)　伊敷　小空(コソラ)　原良(モトラ(はらら))ヲ畝(セ)　竹岡(武)　唐所(カラトコロ(とそ))辺　涕橋(なみだばし)マテ
一去ル十三日大分県下竹田へ賊三百人侵入、同所警察所ヲ襲ヒ候旨、大分県ヨリ報知有之旨、県庁ヨリ届来ル、
一少輔参謀部ニ到ル、
一本日増子三等属・林田堯春派出ス、
一内務卿へ薩賊豊後ニ出ツト、果シテ然ラハ四国・中国ノ要津へ出没スルモ測ルヘカラス、警備一層注意可致様御達相成度、電報并御用状ヲ差出ス、
一大蔵卿東京帰着ノ旨電報アリ、
同五月十七日　雨又晴
一渥美契縁来、
一林少輔参謀部ニ到ル、
一増田三等属其外ヨリ、罹災者救恤金ノ内へ、差出金聞

届ノ儀届来、
一貸家異例伺書県庁ヨリ差出ス、
一大分県権令ヨリ薩賊重岡へ屯集、追々竹田へ侵入ノ趣至急出兵有之候様、御周旋相成度段申来、（去十五日附）
一福岡県懲役人、大坂府外五県へ護送船ノ義、同県令申立ニヨリ内務卿ヨリ問合電報来、陸軍運輸局へ照会ス、

同五月十八日　陰又晴

一富岡権令来、
一大分県出張石井権中警視ヨリ、当地警備頗ル苦心、漸ク海軍ノ助ヲ得テ賊ヲ防キ、一時僥倖ヲ得タレトモ、今晩ニモ襲来計リ難ク、本日巡査二百名到着シタレトモ精選ナラス、且防禦線モ荒漠、暫時モ安心ナラス、県下人心モ恟々タリ、速ニ鎮台出兵相成様、御取計アリタシト電報アリ、
一在大分石井権中警視へ当鎮台ヨリ二大隊、其地へ向ケ出発ス、今日ハ竹田へ着ノ筈ナリト電報ス、
一大分県権令へ、其県下へ賊侵入ノ趣追々報知、就テハ当地鎮台ヨリ二大隊出兵、海陸二道ヨリ進軍、海路ハ昨日小倉着、陸手ノ方ハ本日竹田へ到着、賊ノ屯集アレハ即開戦ノ筈ニ候条、管内取締精々注意可有之旨、郵書差出ス、
一石井権大書記官ヨリ、水股（水俣）戦争ノ報知来、
一林少輔参謀部ニ到ル、
一貸家異例伺書へ指令ス、
一大谷光勝・渥美契縁ヨリ救助金差出方聞届ノ旨、県庁ヨリ届来、

同五月十九日　晴

一大分県権令へ、其地ニ出ル賊四国へ渡ル懸念アリ、其地ニ在ル軍艦ヲ佐賀関へ廻シ方等注意スヘシト電報ス、
一福岡懲人（役カ）人送護船トシテ、本日品川丸ヲ該地へ廻ス旨、運輸局ヨリ返書差越ス、其段西京内務卿及福岡県令（渡辺清）へ電報ヲ以通知ス、
一川北俊弼ノ使五家ヨリ来テ、山田少将進軍ノ模様ヲ演舌ス、
一品川大書記官来、
一吉原大蔵大書記官、長崎ヨリ着ス、
一山縣参軍ヨリ参営ノ儀申来、林少輔参謀部ニ到ル、
一大分県下へ佐伯・延岡・岩戸ノ三道ヨリ賊軍侵入スト、当県等外出仕上妻定、阿蘇ヨリ帰来具状スル旨、県令ヨリ申越ス、

一大蔵官員持参ノ二十万円(第二回)県庁ヘ渡ス、
一石井権大書記官ヲ豊後ニ出張セシム、小川十等属ヲシテ随行セシム、
一福岡県令ヨリ本日品川丸ヘ懲役人ヲ乗セ、出帆セシムト電報来ル、

同五月二十日　晴

一石井権中警視ヨリ(十六日附)賊竹田ニ拠リ勢ヒ猖獗、早ク鎮台兵ノ出発ヲ請フ云々申来、
一小屋掛料ノ伺書ヘ指令ス、
一県下騒擾ノ際戸長ヘ委任為取計候救助米伺ヘ指令ス、
一内務卿ヨリ川路大警視ノ請求ニヨリ、巡査千二百人ヲ名護屋丸ニテ、長崎ヘ向出発セシムト電報アリ、
一品川書記官来テ、本日人吉口大進撃ノ由ヲ報知ス、

同五月廿一日　晴

一林少輔総督府ニ到ル、
一大蔵卿ヨリ救恤方節減有之度云々ノ書状添、内務卿ヨリ御用状来、
一人吉口官軍勝利、戦死傷ヲ捨テ走ルト、
一将卒　御慰問トシテ、東久世(通禧)侍従長来着、
一高知県士族護郷兵編成ノ届ヲ同県庁ヘ差出セシニ、小(国武、後渡辺)池権令之ヲ却ケシ旨、神戸滋野大佐ヨリ、参謀部ヘ電報有之、
一在長崎河野幹事ヨリ高知県士族元鹿児島県官三浦介雄ノ儀ニ付電報アリ、

同五月廿二日　晴

一佐野常民来、
一林少輔八代ニ到ル、午前六時三十分発ス、川尻口平田村二軒茶屋ヲ経テ川尻駅ニ到、緑川ヲ渡リ石町村・三丁村・八幡村ヲ過ク、所々胸壁ヲ存ス、宇土ニ小休、道路平坦ナリ、
一午前十一時松橋ヲ経テ今福村ニ休、小川村・鏡村焼燼ノ家屋多シ、宮ノ原亦同断、加古井村・岡小路村・西岸川村・古閑村ヲ過キ、午後三時八代本町熊本県支庁ヘ(粟田梅吉方)着ス、県官小林剛三其外詰合、
一林少輔、山田・三好両少将ノ営ニ到ル、
一熊本県御用掛坂井等(八代士族)大河内ヨリ帰来テ報ス、其略ニ

賊ノ半隊長鈴木彌助・吉富其外四人(蒲生郷士族新募兵)、三月以来賊ノ脅迫ヲ受ケ出兵スト雖モ、素ヨリ其本意ニ非ス、兼テ帰順セントスルモ其機会ヲ得ス、本日其機

ヲ得テ帰順スト黒川(通軌)大佐ノ手へ降伏ス、其実功ヲ立ンカ為メ鈴木彌助ヲシテ、賊中ニ入リ誘導セシメ、都合八十六名降伏スト、尚ヲ兼テ郷中人望アル赤塚某ヲ降ラシメント鈴木彌助申立ル趣云々、

賊ノ隊名　破竹　雷撃　正義　鵬翼　振武　干城　奇兵、

一当地旧城西荒神町士族簑田保啓方ヲ旅宿トス、

一八代士族ハ一切方向ヲ誤ラス、賊ヲ追撃セシト云フ、

一陸軍ノ依頼ニ依リ、伝令使ノ儀ヲ小林熊本県八等属へ達ス、

同五月廿三日　晴

一午前七時出発熊本ニ帰ル、

一宮川房之来、

一山田少将ノ旅団トヲジ(湯治)ヲ攻落スト報アリ、

同五月廿四日　晴

一林少輔参謀部ニ到ル、

一救恤金拾万円県庁へ渡ス(但某団ヨリ請取ノ積、長崎出納局ヨリ、中越ノ趣有之ニ付、証書ヲ以請渡ス)

一豊後恵良原本陣ヨリ、戸ノ下タニ賊六十名通行セシニ、我哨兵馬上ノ賊十人ヲ狙撃シ、残賊ヲ追撃スト県庁ヨリ報知来、

一細川家々扶樋口定捕縛ニナリシ趣、

同五月廿五日　晴

一東久世侍従長・尾崎(三良)太政官書記官来、

一米田虎雄、佐敷ヨリ帰来、

一昨日簸瀬ノ賊塁ヲ陥レ、神ノ瀬ニ進軍スト、

一本日竹田□山ノ賊ヲ掃攘スト、

同五月廿六日　晴

一林少輔山鹿・高瀬地方ヲ巡視ス、淺井二等属随行、午前六時出発、出町通・打越・室田・大窪ヲ経テ左ニ折レ、木留道暮ノ坂ヲ下リ硯川村ニ到リ、此辺ヨリ賊塁所々散在ス、木留村(焼失)ヲ過吉次坂ヲ踰へ伊久良町ヲ経テ高瀬ニ到ル、高瀬町三河屋友八方ニ小休、戸長石川修平来謁、当地ノ景況ヲ尋問ス、

此地ハ戸数千二百戸ニシテ、焼失家屋ハ三百戸程ト云、

一午後二時高瀬ヲ発シ、菊池川ニ沿ヒ羽佐間川ヲ渡リ、富士坂ヲ踰へ公重籠村等ヲ経テ、午後五時三十分山鹿ニ着シ、井上勝次郎(池田・日比ノ旅宿ナリ)方ニ泊ス、該宿ハ池田・日比両属・正木・原田両県官ノ寓ナリ、同官等焼毀取調方模様ヲ具状ス、

一当地温泉負傷患者多ク滞浴ス、

同五月廿七日　晴

一午前六時鍋田焼失跡ヲ巡視ス鍋田ハ南関街道ナリ、再ヒ山家(鹿)ヲ経テ新町ニ到リ、沼口村ヲ過キ隈府ニ着ス山鹿ヨリ三里、区務所ニ小休、戸長徳永隆業ヘ土地ノ景況ヲ尋問ス、尓来異状ナシト云、

一午十二時発、菊地街道ノ右ニ折レ間道ヲ踰ヘテ、鳥ノ巣ニ到ル、賊塁ノ位置・地形実ニ其処ヲ得タリ、官軍ノ苦戦セシコト想フ可キナリ、

一午後二時三十分石坂ノ立場ニ小休、三本松建辺口ヲ経テ坪井村ニ入ル、熊本巡査誰何シ下車セヨト云フ、其言辞不敬ナリ、其名ヲ問フ、加納源太郎ト答フ、

一午後六時、熊本ニ帰ル、

一石井権中警視大分県ヨリ帰来、本日竹田ノ賊ヲ進撃ノ趣、

同五月廿八日　晴

一高山一等大警部ヲ召ヒ、巡査加納源太郎言辞踈暴、安民ノ趣旨ヲ失スルヲ責メ、将来右様ノ挙動無之ハ無論、一般人民ヘ懇切ノ注意ヲ諭達ス、

一大分県権令・石井権大書記ヨリ、賊杵築ヘ出没スルニ付整備ノ為メ大分丸ヲ差廻サレ度旨、飛信ヲ以申来、其段参謀部ヘ照会ス、

一神戸運輸局ヨリ大分丸大分廻シノ儀、無差支廣島ヨリ大分ヘ廻着ノ上ハ留置キ、其段報知スベシト申越候趣参謀部ヨリ申来、

一福岡県令ヨリ同県被害人民救助ノ伺書、西京ヘ差出セシニ、内務卿ヨリ林少輔ヘ協議可致旨指令ノ趣有之ニ付、書類相添問合トシテ書状来、

一人吉口神瀬ニテ薩賊山内某・黒川某其外降伏人七名有之趣、

一西京西村権少書記官、大分県ヘ出張ノ趣、

一石井権中警視来、

同五月廿九日　晴

一林少輔県庁ニ到、

一内務卿ヘ豊後ノ賊未タ陥ラス、追〻日向ヨリ繰込ム由ナリ、大分ヘハ石井省一郎ヲ遣ハシタリ、陸軍ヘモ協議夫〻着手スト雖モ兼テ申進スル通リ、四国ヘ連及スル患アリ、早ク四国通路ノ要津ヘ取締方御着手アリタシト電報ス、

一大分丸ヲ豊後ヘ差廻ス旨、大分県ヘ電報ス、

一石井権大書記官ヨリ、人民誤テ殺傷ニ受(ヲ)ケシ者、埋葬料・弔祭料・扶助料・療治料支給方、書類廻方儀申来、
一池田・日比両属、山鹿地方ヨリ帰来テ復命ス、
同五月三十日　晴
一昨廿九日、竹田屯集ノ賊ヲ進撃シ遂ニ之ヲ陥レ、賊潰敗シテ尾形街道ニ走ルト報知アリ、
一在大分石井権大書記官へ救助・扶助・弔祭・療治料等ノ書類ヲ郵達ス、
同五月三十一日　陰
一在大分西村権少書記官へ救助筋ニ付、申談スル儀有之、当地へ可能越旨電報ス、
一林少輔県庁ニ到ル、
一昨三十日、水股(水俣)口官軍勝利ノ報アリ、
一山口県ヨリ萩ノ警察所へ該県ノ暴賊襲来ニ付、臨機処分取計度旨、参謀部へ電報アリシ旨通知アリ、
一山口県へ他県ヨリ配布ノ懲役現在人員問合トシテ電報ス、
一第四回渡救助金三十万円受取トシテ、熊本県官長崎へ出張ス、
一福岡県へ該県救助方ノ回答書ヲ郵達ス、
一山口県ヨリ、他県ヨリ之懲役人ハ三十七人ノ旨、回答電報来ル、
同六月一日　晴
一阿武中佐来、
一当県庁是マテ非常用而已取扱候処、来ル三日ヨリ常務取扱候旨、県庁ヨリ通知アリ、
一山口県下佐々波(佐々並)ニテ開戦、巡査勝利賊萩ニ走ルト報アリ、
一午後十一時、山口県ヨリ賊魁町田梅雄(梅之進)ヲ打取ル、萩ハ道ヲ立切ラレ、様子不知ト電報アリ、其段山縣参軍へ通知ス、
同六月二日　陰
一三浦介雄所持ノ書類至急入用ニ付、差廻方長崎河野幹事ヨリ依頼有之、其段在鹿児島大山少将(巌)へ申遣ス、
一品川大書記官ヲ山口県へ出張セシム、其段内務卿へ電報シ且ツ山口県へ電報ス、
一午後六時山口県井町少佐ヨリ、昨夜十一時萩地ヲ攻撃、残賊ヲ捕縛シ別条無シ、県令今朝萩へ行クト参謀部へ報知有之趣通知アリ、
一本日人吉ヲ大進撃遂ニ之ヲ陥ルト、参謀部ヨリ報知来、

同六月三日　晴

一萩ノ賊不残捕縛ノ趣、木梨精一郎ヨリ報知ノ旨、参謀部ヨリ報知アリ、

一鹿児島県令ヘ日向国那須地方由淵門、三田井村等追々賊ヲ掃攘シ、官兵進軍後鎮撫説諭トシテ、属官巡査数名出張可為致旨申遣ス、

一人吉ノ賊去ル一日午後四時不残掃攘、賊ハ加久藤方ヘ逃ルト八代支庁ヨリ報シ来ル、

一竹田滞在西村権少書記官ヨリ、三重市ノ賊ヲ攻撃ノ為メ官軍遊撃隊出兵ノ処官軍不利、去ル一日臼杵ヘ賊侵入、同所ヲ破リ官軍死傷多シ、仍テ奥少佐戸次（へつぎ）ヘ出兵ス、右故其ヘ行クコト少シク延引スル旨申来ル、

同六月四日　晴

一西村権少書記官ヘ、其地鎮定マテハ出張ニ及バスト回答ス、

一焼燼家屋坪調、二階坪ハ算入セスト決ス、

一池田・日比両属ヲ再ヒ山鹿地方ヘ出張セシム、

一西村権少書記官竹田ヨリ来ル、救助ノ方法規則ヲ示諭ス、

一高知ノ説客、福岡・佐賀ヘ入込ミシ旨参謀部ヨリ通知来ル、仍テ福岡・長崎・山口・大分ヘ電報ス、

同六月五日　強雨又晴

一内務省雇林田尭春当県採用ノ儀、富岡県令ヨリ申来、差支無之旨回答ス、

一千葉城下官庫ヲ、無産人民授産場ヘ下渡方伺ヘ指令ス、

一山口品川大書記官ヨリ萩地鎮定ノ旨電報アリ、

一池田・日比両属山鹿地方ヘ再出発、

同六月六日　晴

一林少輔入県前県官限リ救助取計候分モ委任、百五十万円ノ内ヲ以仕払ノ積大蔵卿ヨリ申越候趣、吉原大書記官ヨリ申越承知ノ旨回答ス、

一林少輔県庁ニ到ル、

一高知県ハ先ツ平穏ノ旨、北村大佐該地ヨリ大阪ニ帰リ具状ノ趣、大阪西郷中将ヨリ参謀部ヘ電報有リシ旨、同部ヨリ通知アリ、

同六月七日　晴

一西村権少書記官竹田ヘ帰ル、大分県権令ヘ之書状同人ヘ托シ送達ス、

一大分県権令該県兵備ノ儀ヲ西京ヘ上申スト云フ、

一三井産物方馬越恭平鹿児島ヨリ帰来テ、該地ノ景況ヲ

演述ス、三浦介雄ノ書類ヲ大山少将ヨリ送付シ来、写左ノ通リ、

病　院
異人館ニテ
樺山資綱様
御直披
土岐元長

昨日ハ第一課権中属三浦介雄土州ヨリ当県へ帰県、同人直キ咄ニハ土州茂来月初ニハ政府へ欤又ハ馬関へ欤突出ル賦リノ由、兵数三千、銃ハ三千挺相揃候由、

一馬関へ渡リ候船ハ、蒸気二艘是亦土州ニ有之由、

一此節ノ御征討ハ何様ノ御征討ニ候哉ト、惣督宮へ尋問トシテ突出ル由、

右土州ハ薩兵ニハ付カズ離レテ事ヲ為ス評議ノ由、

右ハ三浦直キ咄ニ候間相違ハ有之間敷、然ル上ハ九州ハ無論、諸方ノ県〻蜂起スルニ違ヒハ有之間敷相考申候、御病気中御欝気晴シノ為メニモ可相成、先ツ早〻御報知候也、

四月廿四日　　元長

資綱兄

一右書状、本紙ヲ長崎河野幹事へ送付ス馬越恭平へ付托ス、

一熊本県官小暮英記救助金三十万円受取帰着ス、県庁へ渡ス、

一米田虎雄来、

同六月八日　陰　雨

一人吉焼失市街六百戸村落六百戸程ニ有之趣、県庁ヨリ申来、

同六月九日　陰

一加集虎次郎、府県税仕払方并区戸長改正ノ議ヲ建白ス、

一東京松田大書記官ヨリ救助金受取ノ都度通知方ノ儀ニ付、電報来、返報ス、

一林少輔谷少将方ニ到ル、少将ノ詩アリ、

熊城元是繁華寰　一炬粛条人未還
恥使藤肥州若在　不教賊馬度三山

一去ル二日高知ニテ、商人所持ノ銃器ヲ陸軍へ御買上ノ趣、

同六月十日　晴　雨

一鹿児島県令ヨリ日向地方へ属官巡査派出ノ儀、承知ノ旨回答来、

一船越権大書記官去月廿六日東京出発、西京へ出張ノ由、

一薩人天草ニテ鉛ヲ買入候趣、一人ハ茂木ニテ捕縛ノ旨

長崎県ヨリ報知アリ、
同六月十一日　雨
一三池鉱山分局御雇野田某来、
一近藤一等属来テ、奈須地方鹿児島県下救助ノ儀ヲ建議ス、右ハ既ニ鹿児島県官巡査派出ノ筈ニ付、夫マテノ処管轄界ノ儀故、夫々手当可致段申達ス、
一臼杵・佐伯ノ賊未タ陥ラス、官軍戸次へ進軍スト県庁ヨリ報知アリ、
一東京松田大書記官ヨリ救助金受取ノ都度、通知アリ度段再ヒ電報アリ、
同六月十二日　晴
一林少輔参謀部ニ到、
一去ル九日ヨリ十日ノ朝マテ臼杵ノ賊ヲ進撃シ、遂ニ之ヲ陥レ、賊佐伯ノ方へ潰散スト報知アリ、
一鹿児島県令ヨリ馬越恭平被差遣、食料運漕方等百事都合宜キ旨返書来、
一東京松田書記官へ電信差出ス、
同六月十三日　晴
一品川大書記官ヨリ暴徒処分ノ儀、総督府へ伺ノ趣有之、暫時山口県へ滞留スト電報アリ、
一高山大警部来テ高知ノ景況ヲ演述ス、神戸ニテ同県人某、弾薬買集スル者ヲ捕縛スト云フ、
同六月十四日　晴
一林少輔参謀部ニ到ル、
一加久藤・吉田ノ賊ヲ陥ルノ報アリ、
一鹿児島御用掛眞田菴・五等警部大瀧新十郎・九等属添田弼・十等警部野中法隆来、馬見原口・加久藤口等出張ノ方向ヲ達ス、
一鹿児島県御用掛眞田菴ヨリ鹿児島救助（食料小屋掛）并ニ警察筋ノ儀ヲ伺出ル、
一救助其外用意金熊本県ヨリ二千円借用ノ儀、前同人伺出ル、
右ノ件々指令ス、但弐千円貸渡ノ儀ヲ熊本県へ達ス、
同六月十五日　陰
一増田判事西京ヨリ来ル、　還幸暫時御見合ノ趣、
一眞田菴其外馬見原口其外へ出発ス、
一小川十等属大分県ヨリ帰来ル、石井権大書記官ハ川登（豊後地名）ノ賊ヲ掃攘スルマテ、暫時滞在スル旨ナリ、
同六月十六日　晴
一大久保卿へ鹿児島県下肥後界出水地方・那須地方、追

〻進軍跡鎮撫ノ為メ、鹿児島県ヨリ県官巡査召ヒ寄セシ処、鹿児島ニ在ル巡査ハ兵隊ニ成リ居ルニ付、其用ニ立テ難ク、定式ノ巡査ヲ二百名同県巡査トシテ、御廻シ有リ度、同県令申出ル故ノ巡査、当地ヘ向ケ御廻シアリタシト電報ス、

一眞田菴其外派遣ノ処、水股(俣)口等官軍進行相成鎮撫人員不足ニ付、尚官員両三名被差越度、且巡査不足ノ趣ニ付、其県巡査トシテ二百名出張ノ儀、西京ヘ電報ヲ以申遣置旨、鹿児島県令ヘ申遣ス、

一午後十二時八代山縣参軍ヨリ、面談致度旨電報アリ、承知ノ旨返報ス、

同六月十七日　陰

一島地黙雷来、

一林少輔八代ニ到ル、午前九時出発ス、淺井二等属随行、

一午後一時小川村休、午後五時八代着ス、

一林少輔山縣参軍軍営ニ到ル、山田少将人吉ヨリ来ル、諸将軍議有リ、

一出水戸長伊藤四郎右(左)衛門降伏ノ報アリ、

一西小路澤井元資方ヲ旅宿トス、

同六月十八日　陰

一林少輔山縣参軍軍営ニ到ル、

一鹿児島鎮撫巡査二百名、早ク廻方アリ度旨西京ヘ再ヒ電報ス、

一去ル十六日豊後口官軍三國峠ヲ乗取旨報アリ、

一高知県下ハ弥〻不穏ノ趣、山縣参軍ヘ電報アリ、

一午前十一時八代出発、小川村ニテ石井権大書記官ノ八代ニ行クニ逢フ（石井権大書記官ハ大分ヨリ本日熊本ヘ帰着、直ニ八代ヘ出立ストコフ）

一八代地方ヨリ水股口等鎮撫ノ儀、山縣参軍協議ノ趣有之、同所ヘ出張夫〻処分可有之旨、石井権大書記官ヘ口達ス、

一鹿児島県令ヨリ官員派遣ノ儀、申請ノ書状ヲ（熊本ヘ到来ノ処石井書記官幸便持参ス）落手ス、且同県官大江暹出張シ、八代ヘ向今朝出立趣石井書記官申聞、

一午後七時熊本着ス、

同六月十九日　晴

一五家地方ヘ巡査出張ノ儀ヲ、警視属河合鱗三ヘ達ス、

一富岡権令来、

一当春以来騒擾ニ付、九州四県（熊本・大分・福岡・長崎）官員ヘ恩賜ノ儀、石井省一郎ヨリ別紙ノ通申出、右ハ素ヨリ夫〻御詮議可有之儀ト存候得共、時宜御酌量可然御処分有之度旨、

別紙添内務卿へ具申ス、

一北垣書記官来、人吉騒擾ノ際岩波熊本属四千五百円ヲ同所戸長へ預置ノ処、賊侵入ノ際右戸長賊ニ降リ、其後官軍打入ノ節右金分捕ト相成、当時陸軍ト引合中ノ旨申聞、

一東京前島少輔ヨリ東京巡査要用ノ趣、内務卿へ電報ノ事承知、右ハ何レノ地へ使用ノ御見込ナルヤ、東京ニモ軍備ノ為メ徴募シタル者ノミニテ、定式ノ巡査ハ甚タ少ナク困却中ナリ、熊本地方ニテ御募リ、同地へ派遣ノ東京巡査ト取交セ使用スルノ便宜法ヲモ御考へ、彼是併テ御電報アレト電報来、

一前島少輔へ電報ス、肥後界鹿児島県管下那須・馬見原・大口・水股(俣)等官軍後鎮撫説諭ノ為メ、鹿児島巡査ヲ召ヒ寄セントセシニ、彼地ニ在ル巡査ハ兵隊ニ成リ居ル故、其用ニ立テ難ク、仍テ鹿児島県巡査トシテ二百名当地へ差向ケラレ度、内務卿へ電報セシ処、其地ニモ巡査不足ノ趣御申越承知セリ、然シ九州地方ニテハ巡査ヲ募ルコトハ差障リ有ル故、右ノ二百名ハ何レニモ御廻シアリタシ、至急返詞ヲ待ト、

一東京前島少輔ヨリ巡査二百名、可成繰合速ニ差立ルト電報アリ、

一八代石井権大書記官ヨリ、西村八等属ヲ早ク差越サレ度旨電報アリ、

同六月廿日　陰

一山口品川大書記官、去ル十七日西京へ出発ノ趣、県庁へ通知アリシ旨申来ル、

一香川大分県権令ヨリ、宇佐・下毛暴民破毀モ此度ノ暴動救助一同取調可然哉ノ旨申来、

一八代石井権大書記官ヨリ、本日三浦(梧楼)少将ノ手ニテ大口ヲ陥ル、仍テ明日ヨリ同所ニ出張ス、早ク官員巡査御遣ハシアリタシト電報アリ、

同六月廿一日　陰

一石井権大書記官へ本日西村八等属・林田亮春ヲ其地へ差出タス、警部巡査五十名ハ一昨日出立セリ、跡トハ東京ヨリ着次第廻ハスベシト電報ス、

一林少輔池田徳潤寄付金ノ儀、県庁ヨリ届来、

一石井権中警視所労ニ付、湯治トシテ山鹿ニ到ル、

一西村八等属ヲ八代ニ遣ス、林田亮春同行ス、

一出水ノ士族六百名川路少将へ降伏スト、

一当県救助人名ノ内、賊荷担ノ者有之候ニハ不相成候ニ

付、精密調査可致旨ヲ委員へ諭達ス、
一鹿児島巡査二百名来ル、廿七日東京出発ノ旨、安藤中警視ヨリ電報来ル、

同六月廿二日　晴又雨

一薩摩地方大口モ陥レ追々進軍ニ付、鎮撫説諭トシテ、(大蔵大書記官)吉原重俊モ石井省一(郎脱カ)共々差向ル御心得トシテ申進スト内務卿へ電報ス、○石井権大書記官ヨリ只今山縣参軍ニ随行、水股(俣)ニ着スト電報アリ、
一西村権少書記官ヨリ三國峠口小野市ノ賊モ敗走、不日日向路へ進軍可相成ニ付、事務取扱ノ官吏差廻方ノ儀申来、右ハ既ニ奈須地方鹿児島県官差遣シ、夫々鎮撫方着手為致タリト返書ス、

同六月廿三日　晴

一島地黙雷来、
一大口石井権大書記官ヨリ、今午前九時四十分大口着、直チニ鹿児島県出張所ヲ開ク、付テハ御地ニ在ル東京巡査警部補一人添御廻アリタシト電報来、
一山田少将ノ手、横川へ進軍スト報知アリ、

同六月廿四日　陰

一当県ニアル東京巡査、鹿児島へ出張ノ儀ヲ高山一等警部へ達ス、既ニ五十名出発スト答フ、右ノ趣大口石井権大書記官へ電報ス、
一乃木中佐・別驛少佐来ル、

同六月廿五日　雨又晴

一吉原重俊、明廿六日大口へ向ケ出発ノ旨、石井権大書記官へ電報ス、
一前島少輔ヨリ銀行紙幣渡方ノ儀ニ付、大蔵卿ノ照会書廻来ル、
一鹿児島暴動臨時費ハ、月曜日毎ニ支出高太政官へ御届相成ニ付、費額受取ノ都度電報ヲ以テ報告有之度大蔵卿ヨリ申来、
一川路・三好両将薩州千代川(川内)ヲ渉テ、進撃分捕多シトノ趣、
一在高知佐々木議官(高行)ヨリ、該県平穏ノ旨報知アリシ旨、参謀部ヨリ通知アリ、

同六月廿六日　雨

一当県救恤ノ儀、内務卿ヨリノ達文中相応ノ文字ニ泥ミ、当県士等竊ニ謗議スル趣頑愚悪ムヘシ、
一北垣書記官来、救助金員ニ付稟請スル所アリ、
一大口石井書記官ヨリ、吉原ハ出水へ向ケ川路ノ進軍跡

ヲ鎮定有リ度、且ツ救助金四万円持参アリシト電報来ル、

一長崎県令ヨリ高知人商法ヲ名トシ、佐賀ニ入込ミシト電報アリ、

一長崎県令へ高知人何ノ商法カ取糺スヘシト電報ス、

一石井権大書記官へ吉原重俊明日其地へ金員持参スト電報ス、○長崎県令ヨリ高知人ノ商法ハ、楠木ヨリ樟脳ヲ取ル由ニテ山ヲ見分中ト電報、

一大口石井権大書記官ヨリ巡査至急御廻シ有リタシト電報アリ、

同六月廿七日　雨

一吉原大蔵大書記官出立ノ処延引ス、

一高山大警部来、巡査五十人去ル廿二日水股(俣)へ向ケ差遣セシ旨申聞ル、其段石井権大書記官へ申通シ、来月三日東京ヨリ来着ノ巡査ノ外ニハ、廻スヘキ巡査此地ニナシト電報ス、

一賊坪井川ヲ□(塞カ)留ノ節、水浸ノ家屋手当伺并人吉小家掛代伺書へ指令ス、

一富岡権令・北垣書記官来テ、救助金員ノ儀ニ付稟議ス、

同六月廿八日　陰

一吉原大書記官以下鹿児島へ出発ス、右ニ付救助金五千円ヲ托シ、石井権大書記官へ兼テ電報セシ通、吉原大蔵大書記官并日比・池田両属本日其地へ向出発ス、然ルニ昨廿六日ノ電報ニ其地救助金四万円可差越旨ニ候得共、同県難民救助ノ儀ハ同県令へ委任ノ儀モ有之、差向飢餓ノ者ヲ八年百二十二号成規ヲ以救助ノ筈同県令伺出ノ趣有之、只々目下救急ノ処分可然ト存候、且ツ電信面シマンエントト有之候得共、自然シセンエンノ電信局誤写ニ可有之存候間、差向五千円吉原書記官へ托シ差出候条、委細同人へ協議有之度旨ノ書状モ亦托ス、

一大口石井権大書記官ヨリ大口地方戦後ノ景況人心ノ向背、最初ト違ヒ初メテ　天朝ノ鴻恩ヲ難有拝承シ、軍用必需竹・藁・縄俵・漬物等ヲ差出シ、官軍ヲ奉迎スルモノアリ、賊勢モ次第窮蹙、即今ハ田原山ニ比スレハ百分ノ一ノ気力モ無之、不日鹿児島連絡モ相付可申旨云々申来(六月廿六日付)、

同六月廿九日　陰

一林少輔参謀部及県庁ニ到ル、

一有地海軍中佐、鹿児島ヨリ川路少将ノ書状ヲ持参ス、其略ニ去ル廿五日川路ノ隊、紫尾山ヲ越賊塁ヲ陥レ、

遂ニ鹿児島ノ官軍ト連絡ヲ執ルト、
一川路少将ハ廿七日ニ鹿児島へ進入スト、
一山口県ノ賊御処分済ノ趣〔斬二名、懲百五人程〕、
一東本願寺大谷光勝来、
一石井権大書記官ヨリ大口地方説諭救助済ニ付、本日出水ニ巡回ス、巡査ハ未タ来ラスト電報アリ、

同六月三十日　晴

一熊本県救恤金等級明細帳添伺書へ指令ス、
一前同断市街道路更正費伺書へ指〔令脱カ〕ス、
一大分県権令ヨリ巡査出張所設置ノ儀、伺書来ル、出張中ハ警視局出張所ノ名儀ニテ事務取扱可然旨回答ス、

同七月一日　晴　〔九十二度〕

一西村権少書記官へ当県救助ノ振合ヲ為心得申遣ス、
一山田武甫・宮川房之来、
一谷少将豊後地方へ出発ス、
一熊本新聞騒擾以来中止ノ処、本日ヨリ発行セリ、

同七月二日　晴

一救助等級変更ノ廉、福岡県令申遣ス、
一鹿児島川村参軍ヨリ熊本県ハ既ニ静定ノ事故、同所出張東京巡査ヲ被差廻度云々、山縣参軍へ申越ノ趣小澤大佐ヨリ照会ニ付、当地ノ儀モ大口水股〔俣〕等官軍進行後、鎮撫巡査二百名派遣ノ儀東京へ申遣ハセシ程ニ有之、尤当県へ是マテ出張ノ警視局人数ハ、阿蘇・玉名両郡土寇暴起跡鎮定方着手中ニテ、鹿児島へ可差廻猶予無之旨回答ス、

同七月三日　晴　〔九十四度〕

一松方勧農局長ヨリ緑川製糸場今般ノ暴動ニ付、其資本ヲ失ヒ難渋ニ付資金七千円拝借ノ儀、長野親藏願出事情尤之儀ニ付貸渡ノ積、差向救助残金ノ内ヲ以繰替渡ノ儀申来、
一松方勧農局長へ緑川製糸場資金繰替渡ノ儀承知ス、指令ハ其地ニテ可取計旨電報ス、
一本日県庁ヨリ難民救助金下賜ノ儀ヲ布達ス、
一一大区区長兼四等属河原田俊藏以下一大区ヨリ八大区マテノ惣代、救恤恩典御礼トシテ罷出ル、
一惣督宮本日長崎へ御出発、

同七月四日　晴

一林田堯春ヨリ大口地方ノ景況ヲ報告ス、
一品川大書記官来ル、七日西京出発、当地へ再出張ノ趣、

同七月五日　晴

一林少輔県庁ニ到ル、
一東京巡査長崎へ来着ノ趣ニ付、百五十名ハ水股(俣)口、残五十名ハ馬見原・三田井へ派遣ノ儀、高山大警部へ達ス、
一御用済ニ付、林少輔明六日当地出立帰京ノ旨、大口山縣参軍へ電報ス、及西京へ電報ス、
前同断ノ旨県庁并鎮台へ通知ス、并石井権大書記官（大口）西村権少書記官（大分）へ達ス、
一林少輔富岡権令方ニ到リ、春竹機織器械ヲ一覧ス、

同七月六日　晴又雨

一午前四時熊本ヲ発ス、出町通リヲ経テ田原坂・木ノ葉（官軍戦没ノ墓所アリ）ヲ過キ午前九時高瀬ニ到、
一午十一時高瀬発、三池通リヲ通行、瀬高ニ小休、
一午後九時久留米三本松、岡次郎方へ投宿ス、

同七月七日　陰雨

一午前七時発ス、
一同九時松崎ヲ経テ、午前十一時摺針宿ニ休、
一午後二時廿分宰府ヲ経テ博多ニ着ス、二口屋ニ泊ス、

同七月八日　陰

一林少輔県庁ニ到ル、
一県令県務ノ数ヲ稟議ス、
一内務卿ヨリ品川書記官其地へ着スルマテ滞留ノ儀電報来、

同七月九日　晴

一品川大書記官着ス、
一今般暴動罹災人民救助之儀、鹿児島・大分・福岡・山口ノ儀モ熊本救助ノ振合ヲ以テ施行可致旨、伺済ノ趣内務卿ヨリ申来、
　但シ鹿児島県へハ別ニ御達アリテ、県令へ御委任ニ相成ニ付、心得候属一両名協議トシテ差遣ノ積リ、
一右ニ付福岡県ヨリ伺書差出ス、
一右ニ付山口県へ熊本救助振ヲ達シテ施行セシム、
一右之通福岡・山口へ夫々処分相済ミ、独リ林少輔大分県出張ノ旨、内務卿へ電報ス、
一池田・日比両属ハ救助方ノ儀ニ付、暫ク鹿児島滞在可致旨電報ス、同断ノ旨心得トシテ石井権大書記官へ電報ス、
一阿蘇・玉名・宇土戸長家屋破毀手当ノ儀、熊本県へ指令ス、
一熊本県権令ヨリ石井権大書記官ハ長崎ニ在リト電報来、
一石井権大書記官へ日比・池田両属ヲ鹿児島へ可差遣旨

更ニ電報ス、
一福岡県救恤伺書ヘ指令ス、
一在長崎石井権大書記官ヨリ池田・日比鹿児島行ノ儀、承知ノ旨電報来、
一在長崎石井権大書記官ヨリ日比・池田両属ハ鹿児島ヘ行キ、拙者ハ佐敷ヘ行クト電報アリ、

同七月十一日　陰
一渡邊福岡県令来、
一池田・日比両属ヲ救助取扱ノ為其地ニ遣スト鹿児島県令ヘ電報ス、

同七月十二日　晴
一秋月暴動救助伺、内務卿宛ニ取直シ県庁ヨリ差越ス、
一午前十時汽船無事丸ヘ乗船、
一大分県西村権少書記官ヨリ該地ノ景況ヲ報告ス、
一午十二時博多港ヲ発ス、
一午後七時下ノ關ヘ着船、海岸仙波屋ニ泊ス、

同七月十三日　晴又雨
一福岡県下秋月暴動(去年十月)難民手当伺書、西京内務卿ヘ呈送ス、
一午後七時琴平丸ヘ乗船ス、

同七月十四日　晴
一午前一時博多港出帆ス、
一午後四時臼杵港ヘ着船、
一当所市街畳屋町等三百戸余焼燼セリ、
一当地ノ士族方向ヲ誤ラス、賊ト抗戦死スル者四十一人ト云フ、
一淺井二等属ヲシテ陸路先行セシム、

同七月十五日　晴
一午前十時大分県下ヘ着ス、白銀町松ノ舎ヘ投宿ス、
一香川権令来、
一西村権少書記官来ル、

同七月十六日　雨
一増子三等属ヲ県庁ニ遣、救助ノ方法ヲ協議セシム、
一岩村鹿児島県令ヨリ該県救助伺書并内状トモ到来ス、
一吉原大書記官鹿児島ヘ持参ノ金五千円不用ニ付、長崎出納局ヘ仮預、同局ノ切符ヲ廻シ来ル、
一檜物町阿部國太郎方ヘ転宿ス、

同七月十七日　晴
一林少輔県庁ニ到来、
一中津士族、西郷隆盛ノ儀ニ付建言ス所アリ、上京セシ

ト云、
一杉浦警部へ当地警察之方専務ニ可心得旨口達ス、
一鹿児島救助伺・小屋掛伺・借家人手当伺トモ指令書、
同県へ郵達ス、
同七月十八日　晴又雪雨(ママ)
一去ル十一日日向国小林・飯野ノ賊ヲ陥ルト報アリ、
同七月十九日　晴
一村田大警部熊本ヨリ来ル、
一宮内省左ノ通達来、
鹿児島県賊徒暴挙以来各所へ出張尽力候段、深ク被思
召苦労、依之御慰労トシテ酒肴料下賜候事、
　但諸省出張ノ奏任官以下へ御慰苦ノ趣可相達事、
　　　　　　　　　　宮内省
一福岡・長崎・鹿児島・熊本・大分へ左ノ通、
鹿児島県逆徒暴挙以来励精尽力候段、深ク苦労ニ被思
召候、依テ為慰労酒肴料下賜候事、
　但其県書記官以下巡査等外ニ至ル迄
　御慰労ノ旨、可相達事、
明治十年七月　　　　宮内省
　九州地方出張

一金弐拾五円　林内務少輔
一金拾円　品川内務権大書記官
一同　上　石井内務権大書記官
一同　上　西村内務権少書記官
一金弐円五拾銭　浅井内務二等属
一同　上　日比内務三等属
一同　上　増子内務三等属
一同　上　池田内務三等属
一同　上　西村内務八等属
一同　上　小川内務十等属
一金拾五円　福岡県令渡邊清
一金拾円　仝少書記官市川正寧
一金拾五円　長崎県令北島秀朝
一金拾円　仝少書記官河内直方
一金拾五円　鹿児島県令岩村通俊
一金拾円　同書記官渡邊千秋
一金拾五円　熊本県権令富岡敬明
一金拾円　仝書記官北垣國道
一金拾五円　大分県権令香川眞一
一金拾円　仝少書記官小原正朔

一同　上　　大蔵大書記官吉原重俊
一金弐円五十銭　　仝　二等属山崎忠門
一同　上　　仝　二等属山本誠之
一金弐円五十銭ツヽ　　同　属官　二　人
一金弐円五十銭　　同　二等属金田清風
一同　上　　同　九等属服部之成
一金弐円五拾銭ツヽ　　同　属官　六　人
一宮内卿ヨリ地方判任官以下ノ儀ハ、各県於テ繰替下賜
取計置、追テ当省ヘ申出候様達方依頼有之、〇（金弐円五十銭判任官、）
一右ニ付大分県〇印達方取計、他ハ幸便送達ノ積、（金弐円五十銭警部、金七、十五銭等外、金一円巡査）
一大分県救助方伺書ヘ指令ス、
一宇佐郡拝借金願難聞届旨指令ス、
一石井権大書記官帰京伺出見込可申越内務卿ヨリ電報来、
一午後五時出発、同六時四十分別府ニ到リ、池庭信義方
ヘ泊ス、
同七月廿日　晴
一午前五時別府ヲ発ス、海ニ沿ヒ高低曲屈、豊浦・豊岡
ヲ経テ日出（ひじ）ニ到リ二本榎ニ小休、
一此処ヨリ山道険悪人家稀ナリ、午後一時下市村ニ憩、
一午後二時立石（たていし）駅ヲ経テ向野（むくの）村（豊前豊後ノ界）ヲ過キ、豊前国田口
ニ休、此処ヨリ道路平坦、和気ヲ越ヘ宇佐八幡ニ到、
一午後四時宇佐ヲ発シ、駅館（やくかん）川ヲ渉リ四日市ニ休、久々
姥谷森ノ数村ヲ経テ、午後八時三十分大分県下ニ到リ、
京町卯野屋嘉兵衛ヘ泊ス、
一石井権大書記官ヘ帰京可致旨電報ス、其段内務卿ヘ電
報ス、
同七月廿一日　雨
一午前五時大分ヲ発ス、宇野（宇島カ）村・八屋（はちや）駅・庄江村・瀧本・
福間村ヲ経テ湊町ニ到リ、椎田駅ニ憩、山崎・八田・
高瀬ヲ過キ大橋駅ニ休、行司町萬歳橋ヲ渉リ、與原村・
濱町・神田ヲ経テ狸坂ニ憩フ、此辺平坦ナリ、曽根宿
ニ到リ湯川ノ大坂ヲ踰ヘ、午後四時三十分小倉ヘ着、
常磐橋畔藤井ニ（船問屋）憩、宮内省福岡県官ヘノ御慰労品
一封当地福岡支庁ヘ達シテ、本庁送致セシム、
一午後五時僦舟、下関ニ向ケ開帆ス、
一同九時下関ヘ上陸、神宮司町富森ヘ（船問屋）泊ス、
一宮内省御慰労金、鹿児島・熊本・長崎ノ分当地運輸局
ヘ送達ヲ依頼ス、
同七月廿二日　晴又雷雨

一記事無之、
同七月廿三日　晴又陰
一午後八時電信丸入津、同十時同船へ上ル、
同七月廿四日　晴
一午前一時下ノ関出帆、
一午前六時三田尻へ繋船、
一午前九時同所出帆、午後二時十五分上ノ関ニ到ル、
一午後五時三ツケ濱ニ寄船、同六時出帆ス、
同七月廿五日　晴
一午前四時多度津ニ到ル、
一午後五時神戸港着船、長門屋彌兵衛ヲ旅館トス、
一森岡権令来、
一来ル廿八日、　還幸被　仰出、
同七月廿六日　晴
一午前六時三十分三ノ宮発車、同九時五十分西京着、木屋町池田屋ヲ旅宿トス、
一林少輔　参内、且ツ内務卿旅館ニ到ル（丸太町）、
一熊本県罹災人民救助表ヲ副へ復命ス（福岡・大分救助表トモ）、
一九州地方警察専要ノ景況ヲ具申ス、
方今九州地方ノ景況ヲ視察スルニ、戦後人心之洶々タルハ論ヲ竢タズ、各県下ノ動静モ亦未タ其方向ノ止否測ル可ラス、此時ニ当テヤ其地ニ長タル者、部下人民保護ノ道ヲ尽シテ人心ヲ安寧ニスルヨリ急務ナルハナシ、而シテ其方専ラ警察ノ力ヲ借ラサレハ、其道ヲ尽ス能ハス、是以テ必ス鹿児島・熊本・大分等各県令ヨリ巡査増置ノ儀、稟請スル所アルヘシ、是レ実ニ目下ノ要務一日モ忽ニスヘカラサル儀ニ付、夫々御允可相成候様致度、右ハ実地目撃スル所アルヲ以予テ具申仕置候也、
明治十一年七月　　内務少輔
内務卿宛
一本日伏見宮・西郷中将・黒田中将九州出発、
一橋本正人ヨリ熊本緑川製糸場貸金七千円貸渡方、同県エ指令済ノ趣申来、
同七月廿七日　陰
一大谷光勝来、
一林少輔大久保卿旅館（丸太町大丸別邸）ヘ到ル、木戸顧問ノ墓ヲ弔ス、
一植村知事・篠原某来、
同七月廿八日　陰
一午前十一時　御発輦、　勅任官神戸マテ奉送ス、

一林少輔奉送トシ、神戸ニ到ル、

同七月廿九日　晴

一記事無之、

同七月三十日　陰

一午後七時東京丸長崎ヨリ着港、

一石井権大書記官・中村少書記官・池田三等属・日比三等属・西村八等属来着ス、

同七月三十一日　陰

一御用済帰京ノ趣、東京電報ス、

一池田・日比両属鹿児島県罹災救助上申書ヲ持参ス、

一右上申へ指令、郵送方池田三等属へ達ス、

一山口県木梨書記官来、山口県巡査現員据置ノ儀、上申書指出ス、

一林少輔内務卿旅館（諏訪常盤亭）ニ到、

一山口県巡査据置ノ伺へ指令ス、

右指令按

上申ノ趣、追テ何分ノ沙汰及候マテ、其儘据置可申事、

但帰京後警視局へ通達ス、

一午後九時内務卿林少輔以下、東京丸へ乗船ス、

同八月一日　晴

一午前一時神戸港ヲ発ス、

一午前九時紀州汐見岬ヲ過グ、

一午後二時遠州灘ニ進ム、風潮穏静、

一午後八時御前崎ヲ見ル、

同八月二日　晴

一午前四時三十分相州城ケ島ヲ経テ、同七時横濱港着ス、

一卿輔一行上陸、高崎屋嘉右衛門へ憩、

一前島少輔・松平権大書記官・川路大警視来リ迎フ、

一午前九時横浜発車、

一午前十時東京着、

一内務卿・内務少輔参内及太政官ニ到ル、

黒木為楨日記　九冊之内　五

（明治十年自二月廿八日至五月四日）

明治十年二月廿八日　晴

一鹿児島暴動ニ付、筑前博多本営ヨリ伝令使陸軍大尉小川盈進、三菱雇船兵庫丸ヲ以丸亀営所ニ来リ、第十二聯隊出征ノ命アリ、第一大隊第四中隊ト第三大隊第四

中隊トヲ残シ置、余ハ皆用意シ、直ニ出発ノ手筈ナルニ、船都合ニヨリ此日乗船セス、

同三月一日　晴

一早天兵庫丸多度津ヨリ高松ニ至リ、第三大隊人員（空白）（マヽ）　乗組、午後第一時過多度津ニ帰ル、

一午前第九時、聠隊長爲楨・同副官芝直照・神谷軍吏補（正栄）・眞鍋本承ノ四人出営、第十時比多度津高見屋平兵衛方へ着ス、尤小川伝令使同宿、

一午前第九時三十分、第一大隊人員発営、同第十一時三十分多度津へ着港、午後一時ヲ過キ兵庫丸高松ヨリ帰リ、直ニ芝大尉・神谷軍吏補乗船、夫ヨリ聠隊長旗ヲ山口少尉ニ持セ、小川盈進・眞鍋本承、軍曹四名等、午後二時二十分乗船、夫ヨリ第一大隊人員諸夫共、同四時二十五分乗船、同五時出船ス、惣人員千五十二人ナリ、船長ハ西尾甚造ト云、土佐ノ人ナリ、

三月二日　雨（午前一時頃ヨリ雨降、同第十時雨止晴ニ至ラス）

一午前第十時十分馬関へ着港、直ニ聠隊長・伝令使・明（退蔵）石軍医ノ三名御用アリ上陸、午十二時帰艦ノ節、福原大佐・内田某・恩地某乗組、直ニ出艦ス、

一午後七時前十分博多着港、同七時十分上陸之処、暴風ニテ短船ニ乗コト能ハス、風之治マルヲマツ、同十二時風少シク止ミ上陸、福岡征討総督本営ニ至ル、爲楨・小川大尉・芝大尉・畠山軍吏補・牛尾軍曹・眞鍋本承ノ六名ナリ、夜第一時三十分、爲楨・小川・芝ノ三名参謀小澤（武雄）大佐ニ面会、夫ヨリ退営、福岡橋口町大黒屋惣助方ニ同三時投宿ス、芝・畠山・牛尾ハ輜重隊士屋中佐ノ宿へ行、端船ノコトヲ談シ、又県庁ニ至リ大隊ノ宿所ヲ依頼ス、用弁同五時帰宿ス、

三月三日　晴

一午前第六時頃、牛尾軍曹ヲ以兵庫丸ニ遣シ、惣人員上陸ノコトヲ報ス、同八時過惣員上陸、各処ニ宿陣ス、聠隊本部ヲ博多下新川端町岡崎屋喜平方ニ定ム、御用都合ニヨリ深屋宇三郎方ニ、予・附属眞鍋本承両人宿ス、

一午前第十時、総督本部へ小川大尉ヲ以届書ヲ出ス、

一午後二時二十五分、川村参軍ヨリ御用ニ付出頭ノ命アリ、即刻出頭、

一午後三時三十分小川大尉帰宿、夫ヨリ直ニ支度シ、久留米へ向ケ出発ス、時午後四時ナリ、

一午後五時過予帰宿、今般島津家へ勅使トシテ柳原前光

ヲ遣セラル、護衛トシテ一大隊半ヲ引率鹿児島行ノ命ヲ拝シ、直ニ部下ノ士官ニ拝命ノ次第ヲ達ス、此夜井上少佐（光、第三大隊長）ヨリ弾薬ノ義手紙ヲ以申越ス、使椎原軍曹、

三月四日　曇（午前第十時ヨリ雨トナル、夜十二時頃大風雨）

一午前第六時芝大尉来リ、玄海丸乗組ノコトヲ談ス、同時椎原記一来リ、弾薬積込并総督本部へ弾薬引渡シノコトヲ談ス、

一午前第八時二十分、予総督本部ニ行、同第十時帰宿、直ニ博多ヲ出発、同第十時半玄海丸ニ乗組ミ、続テ惣人員乗組済迄時午後三時半ナリ、同午後四時十六分博多港出帆、夜十二時頃ヨリ平戸沖ノ辺風波起リ、船進ム能ハス、十里程余ヲ跡ニ戻リ投錨、風ノ止ヲ待ツ、

一此日勅使柳原前光、午前第九時黄龍丸ニ乗組博多出帆ス、東京巡査五百名嘉名川丸ニ乗組同港出帆ス、

三月五日　曇　時々晴明風雨

一午前第五時過風波漸ク治リ出帆、平戸沖ヲ過、午後二時二十分長崎港ニ着、同刻予・明石・畠山・船長川本之生上陸、直ニ予海軍出張所江差越シ、仁礼（景範）海軍大佐へ面会、川村大輔ヨリ電報ヲ以申遣シタル毛布ノ件承リ合セ候処、九百枚余手当相調候趣、夫ヨリ樺嶋町加藤万作方ニ立寄、同第五時過柳原前光ノ旅館ヲ訪フ、同氏御用都合ニヨリ外務書記官花房某ニ面会ス、午後第九時船ニカヘル、尤上陸中加藤万作方ニ暫時休息ス、

三月六日　晴　長崎滞船

一午前第七時ヨリ諸士官兵卒ニ上陸入浴ヲ免ス、予午後上陸、御用都合ニヨリ加藤万作方ニ一泊ス、午前石井（邦猷）権中警視ヨリ来翰、長崎県八等属下河邊充美来リ面会ス、

三月七日　晴

一午前第六時頃玄武丸着港、直ニ黒田（清隆）中将上陸、予旅館ニ至リ面会ス、

一午前十時龍驤艦出帆、同十一時半金川丸出帆、玄武丸出帆、

一午後第一時予畠山ト共ニ船ニ帰ル、同四時頃信号士官一名外ニ随従スル者三名乗組、同第四時三十分長崎出帆ス、丸亀ヨリ附属スル近澤彌助・藤谷嘉平外五名御用都合ニヨリ丸亀へ差返ス、洋中風ナク波濤穏ナリ、夜間諸員快眠ス、時々機械運転ノ音ヲ聞ノミ、

三月八日　晴

一午前第八時十五分山川（鹿児島県）沖ニ投錨ス、玄武丸・金川丸・

黄龍丸同処ニ投錨ス、同第十時三十分、午後第一時櫻島沖七ツ島辺ニ投錨ス、春日艦・龍驤艦・清輝艦・筑波艦・黄龍丸・金川丸・玄武丸同処ニ投錨ス、然レトモ着ノ時刻ハ各不同アリ、

一午後第一時三十分右同処解纜ス、諸艦モ同時解纜、

一午後第二時鹿児島港ニ投錨ス、諸艦着順、
第一玄武、第二清輝、第三春日、第四黄龍、第五金川、第六玄海、第七筑波、第八龍驤、

一午後第六時ヨリ船中ニ哨兵ヲ置ク、

一午後第八時十五分、玄武丸ヨリ軍吏補富田通安来リ面会ス、

一同第九時通安ト共ニ玄武丸ニ行、同第十時玄武丸ヨリ我船玄海ニカヘル、同時刻ヨリ雨降、九日午前一時頃ヨリ風雨、

一九日午前一時三十五分、金川丸ヨリ信号士官ニ使来ル、

三月九日　雨　風波

一午前第八時、予玄武丸ニ行、勅使ノ都合ヲ訪フニ、昨夜来強風雨ニシテ儀仗ノ手順相立ガタク、我隊上陸スル能ハス、依テ黄龍・玄武ノ両艦、島津忠義ノ門前ノ下ニ寄セ警備ス、　勅使忠義ノ邸ニ至リ、島津久光ヲ呼ヒ　勅命ヲ伝フ、午前第十時二十分、予玄武丸ヨリ玄海ニカヘル、右同時前畠山軍吏補玄武ニ行、夫ヨリ上陸シ鹿児島県庁ニ至リ、宿陣并惣人員食料等ヲ定、正午十二時五十分、三間(正弘)権少警視ヨリ八木某ヲ以、上陸スルヤ否問フ、強風雨ニシテ上陸スル能ハスト答フ、

一午後第六時、畠山軍吏補諸御用ヲ弁シ船ニカヘル、

一同刻少警視江口高確来リ、明日　勅使上陸ニ付警備等ノコトヲ談ス、

一午後第九時三十分、三間権少警視来リ、明十日　勅使上陸ニ付警備且宿陣等ノ事ヲ談ス、

一本日　勅使上陸、島津久光ニ勅命ヲ相伝フヘキ筈ノ処、強風雨ニ付延引、

三月十日　晴　午後時々雨

一午後第三時過、巡査五百名蒸気二艘ニ乗組着港ス、

一午前第六時、畠山軍吏補上陸、端船ヲ我船玄海ニ差越ス、

一午前第七時三十分予上陸、続テ第一大隊第一中隊ヲ初トシテ順次上陸、市街要所々々ニ整列シ、　勅使ノ至ルヲ待ツ、

一午前第九時三十分　勅使上陸ス、各隊礼式ヲ一シセン

一回ヲ奏シ、夫ヨリ　勅使ヲ護衛シ島津久光邸ニ至ル、黒田中将　勅使同行タリ、第三大隊第三中隊島津邸ニアツテ　勅使ヲ護シ、余ハ午前第十時二十五分宿陣ニ帰ル、（第一大隊宿陣旧黒木学校、第二大隊宿陣本客屋跡）本営（重久佐七郎旧邸）参謀高嶋大佐（鞆之助）其他会計等ノ附属ノ者并予、第十二聯隊旗手・会計等其他聯隊本部ニ附属スル者皆之レニヲル、

一午後第一時、勅命ヲ久光ニ伝ヘ、　勅使并黒田中将長崎武八郎方宿陣ニ帰ル（午後第三時予高嶋大佐ト共ニ、勅使宿陣ニ至ル、同第四時二十分高嶋ト共ニ本営ニカヘル）

一午後第一時十分、第三大隊第一中隊ヲ以属廠火薬瀧ノ上製造所ニ至リ、火薬并諸品受トラセ候事、尤武庫主管同行、

一午後第四時二十分、第一大隊第三中隊ヲ以重富ニ差遣ス（行程三里半）、軍用金五百円相渡ス、午後第四時三十分出張ノ警視・警部数名来リ談シ数刻、

一午後第五時、畠山軍吏補ニ惣人員ノ夜食ヲ命ス、

一午後八時三十分、瀧ノ上火薬製造所ヨリ諸品受取、

一第三ノ第一中隊并武庫主管等帰ル（尤小機械ハ之レナク、大機水車等ヲコボチ、其他残余品取カヘリ本営ニ治ム）

一午後第十一時、伊敷妙國寺（行程一里余ニアル）弾薬請取トシテ、第一大隊第二中隊ヲ差遣ス、

一午後第十一時二十五分、県庁ヨリ来書アリ、左之通、

各区正副
区戸長

今般勅使当県江臨降、逆徒征討被仰出候ニ付テハ、右党類之者共、潜カニ各道往来致候儀モ難計候ニ付、一層取締厳重申付候条、万一類似之者有之候得ハ、取糺之上拘引致シ、姓名住所等細詳取調、至急可届出、此旨相達候事、

十年三月十日　　鹿児島県令大山綱良代理
大書記官田畑常秋

一鹿児島港ニテ玄海丸ニ達書左之通、

当隊上陸中当沖ニ滞船可有之事、

三月十一日　晴

一午前第七時過、二等中警部是枝頼行来リ、左之各処々ニアル弾薬引渡ノ事ヲ談ス、

一午前第九時、第一大隊長阪井少佐（重季）来ル、同時過第三大隊長井上光来ル、

一○妙國寺跡（火薬百三十桶）○吉野私学校（スナイドル弾薬二百箱及器械）○犬迫村（火薬三千九百五十桶）○旧福昌寺ノ内恵燈院（スナイトル弾薬器械大小鉛）○隆盛院（大砲破烈丸百余）

一右

午前第八時、國分権少警視（友諒）来リ、犬迫村火薬六棟ニ収蔵ノ事ヲ談ス、
一是レヨリ前第六時三十分、吉野村私学校ニアル弾薬并器械等請取トシテ、第三大隊第二中隊ノ内一小隊差遣ス、尤武庫主管檜原記一・福井曹長等同行、同午後第一時五十分、私学校ヨリ弾薬并器械等ヲ護シテ帰、本営ニ治ム、
一午前第十時、二等警部（中警部）是枝頼行来リ、旧福昌寺ノ内恵燈院ニ収蔵有之弾薬・製造器械并スナイドル弾薬五千発・延竿ノ鉛四十余本、早ミ引渡ノ義申談ス、
一午前第十時過、玄海丸ニ牛尾軍曹ヲ遣シ、士官荷物ヲ受取ル、正午十二時本営ニカヘル、
一午前第十時、予　勅使ノ宿陣ニ至リ、午後第一時五十分我本営ニカヘル、
一午前第十一時、伊敷妙國寺ヨリ第一大隊第二中隊弾薬ヲ護シテ帰リ、旧城内ノ蔵ニヲサム、
一午後第三時、黒田中将随行ノ人開拓使出仕某来リ面会ス、
一午後第三時三十分、第三大隊第三中隊ノ内半隊ヲ以、犬迫村ニ収蔵之レアル火薬受取ノ為差遣ス、
一右同刻、旧福昌寺ノ内恵燈院ニ之レアル弾薬・鉛・器械等受取トシテ、牛尾軍曹ヲ遣ス、同四時品物受取本営ニカヘル、然ルニ多数之レアルニ付、惣品受取リ夜□□（以下欠）
一午後第四時半、國分権少警視ニ御用談アリ、本営ニ出頭致サレ度旨申遣ス、直ニ國分氏来ル、
一本日弾薬・器械運ノ為メ、雇入ノ駄馬弐百六十五疋人足数多ナリ、
一本日早天、軍曹川上深ヲ以近方探索ヲ命ス、午後七時本営ニ帰ル、
一本日軍吏補畠山國盈ヲ以県庁ニ遣シ、弾薬并諸器械ヲ蔵ムル処ヲ借受ケル、
一午後第十二時、井上少佐ニ行軍延引ノ事ヲ申遣ス、
三月十二日　曇
一午前第七時、吉野村私学校ヨリ本営ニ運送之レアル兵器黄龍丸ニ積込、同時眞鍋本承ニ命シ、黄龍船長ニ兵器積込ノ事達ス、
一午前第七時半、東京ヨリ当地へ出張ノ官員陸軍監護織田信之・陸軍省七等出仕星山貞吉、是迄賊徒ノ為メ錮セラレ居ル処、本営ニ来リ御用ヲ勤ム、

一午後第三時、玄武丸当港出帆、
一午後第三時、勅使当地出発ニ付、第三大隊ノ内一中隊護衛シテ海浜ニ至ル、勅使端船ニテ黄龍ニ乗組、直ニ当港出帆、
一是ヨリ前鹿児島丸ニ御用ニ付、当地出艦ヲ命ス、
一午後第三時ヨリ、各処ニテ受取ル処ノ火薬・兵器ヲ、鹿児島丸ニ夜九時迄ニ積込、
一右同時ヨリ、各処ニテ受取ル兵器ヲ、同六時迄ニ寧静丸ニ積込、
一本日陸軍大尉川上親方・竹下某・町田某・樋渡某等来リ、御用相勤ム、
一本日人馬雇入数多ナリ、
三月十三日　曇午前六時雨、午後雨止
一午前第七時五十分、楢原記一ヲ遣シ、瀧ノ上属廠ノ残品火薬并兵器ヲ悉皆海浜送リ、寧静丸ニ積込、
一午前第八時五十分、山下警部来リ、吉田郷ニ火薬之レアル事ヲ談ス、
一午前九時、海軍士官（空白）来リ面会ス、
一本日人馬雇入数多ナリ、
三月十四日　晴　暴風
一午前第八時、犬迫村之レアル積残リノ火薬并兵器ヲ鹿児島ニ積込数千三百四十三、午後三時楢原記一営ニ帰ル、
一右同刻、海浜迄火薬護衛兵トシテ、第一大隊第二中隊ノ内半隊ヲ差出ス、午後三時宿陣ニカヘル、
一午前九時、大平某・宅間某・有間熊次郎来リ面会ス、同刻山下警部来リ、（空白）
一午前十時三十分、星山七等出仕・織田信之両名、兵器并火薬等ヲ護シ、寧静丸ニ乗組当港出帆、
一右同時荻野軍医副従者犯罪之レアリ、星山ニ托シ国元ヘ差返ス、
一午後第四時四十分、重富村・加治木村ヘ出張ノ第一大隊第三中隊本営ニカヘル、右両村ニアル火薬多数悉ク海中ニ投入ス、兵器ハ小舟ヲ以当港ニ送ル、
一午後五時、士族本多某、賊軍戦死ノ者ノ頭髪并荷物ヲ持帰リ居ルヲ聞キ、本営ヨリ呼ヒ寄セ、戦地ノ様子ヲ聞ク、
一午後第六時、犬迫村ヨリ竹下清右衛門本営ニ帰ル、本日迄兵器・火薬運送ノ為雇入駄馬人足惣計弐千五百八十、人力車百七十七挺ナリ、
一午後第七時、加治木・重富ヨリ小舟ニテ送ル兵器、悉

皆曹長福井善次郎ヲ以鹿児島丸ニ積込、同第十時三十分本営ニ帰ル、

三月十五日　晴

一午前第九時、三間権少警視・海軍士官両名来リ談シ数刻、

一午前第十時三十分、竹下九等出仕・町田九等出仕ノ両人、鹿児島丸乗組被命、同日午後三時半麑港出帆ス、

一午前第十時三十分、警捕寮十等出仕諏訪襄来営面会ス、

一午後第三時、鹿児島本営引払、テーボフ艦ニ高嶋大佐ト共ニ乗船、随従ノ者数十人乗組、同日午後第五時前麑港出帆、

一午後第三時、第一・第三大隊并聯隊附属等人員玄海丸ニ乗組、同五時三十分同港出帆、

三月十六日　晴

一午前第十一時三十分、長崎ニ着港、直ニ阪井・芝・明石・畠山等上陸、樺嶋町加藤万作方ニテ面会ス、尤テ(丸)ーボフ艦其他諸船先着、鹿児島後着、

一同刻長崎巡査玄海ニ来リ、何隊何人員何港ヲ出帆ノコトヲ問フ、船長之レニ応接ス、

一午後第一時二十分、阪井・芝・明石・畠山等玄海丸ニ帰ヘル、

一午後第一時三十分ヨリ聯隊付并第一・第二(三カ)大隊等ノ惣人員順次上陸ス、

一午後第六時、加藤万作方ヨリ第一・第二(三カ)大隊長玄海丸ニ帰ヘル、予御用都合ニ依テ万作方ニ泊ス、

一午後第四時五十分、社寮丸ニテ大尉山田正第一ノ第四中隊ヲ引率、長崎ニ着ス（尤金沢第七聯隊第一大隊ノ右半大隊ト同船同着、参謀少佐岡沢精・金沢半大隊々長古川氏潔同船ナリ）、

三月十七日　晴

一午前第七時、阪井・井上・芝・明石等上陸面会ス、

一午前第八時、少尉吉田鐘吉玄海丸ニ来ル、

一午前第十時、大島軍吏試補上陸シ、惣人員上陸ノコトヲ談ス、

一午前第十時五十分、雨降、

一午前第十一時十分、大島軍吏試補玄海丸ニカヘリ、惣員上陸ノ命ヲ伝フ、直ニ惣員上陸、午後第六時船ニカヘル、

一明十八日午前第五時、肥後日奈久ヘ向ケ出帆ヲ玄海丸ニ命ス、

一予今般別働隊第二旅団第二聯隊長ノ命ヲ拝ス、肥後日

奈久航海中高島大佐ト共ニ扶桑丸ニ乗組ム、第一大隊第四中隊モ同船、巡査モ同船、

一午後第一時、玄海ニ至リ、阪井少佐ニ面会、御用ノ都合ヲ談ス、

三月十八日　晴

一午前五時長崎出帆、続テ諸艦モ出帆、

一午前午後両度運輸局雇船沈没ス、人命ハ無事、扶桑丸ニ附スル処ノ雇船モ沈没シ、一人流レテ其行ク処ヲシラス、

一午後第八時、鹿児島分獅子島（出水郡東町）ニ着船ス、

一午後第十時九分、予玄海丸ニ至リ、隊長両人ニ日奈久上陸ノ事ヲ談ス、且暗号ヲ伝フル、○日奈久上陸ノ節ハ、壱名ニ付竹皮包弁当ヲ用意ノコトヲ副官芝直照ニ命ス、芝直ニ玄海丸ニ命ス、

一右同刻、海軍中尉大澤某ニ面会ス、

一午後第十二時、獅子島ヲ出帆ス、

三月十九日　晴夜十時半ヨリ雨降

一午前第五時、諸艦（空白）肥後日奈久（熊本県八代市）沖并洲口沖ニ着船、予玄海丸ニ至リ惣人員上陸ヲ命シ、直ニ洲口村ニ上陸ス、旅団長并随従ノ者、巡査等モ同処ヨリ上陸ス、是ヨリ日奈久村駅ニ至ル、道程七合ナリト云、土人云、日奈久村ニ賊三小隊ヲルト云、

一午前第八時、洲口村（八代市）ヲ発ス（尤第一・第二中隊、ハ山間ノ間道ヲ行）、同十一時半（白川県第十三大区五小区）日奈久村ニ着休息、此処士族宮崎俊平ト申ス者ニ賊アリヤ否ヲ問フ、昨夜賊三百人来リ泊ス、午前八時過鳳翔艦ヨリノ砲声ヲ聞キ、何レニカ去ルト云（此日我兵日奈久山手ニ打ツ、賊遁逃ス）、

一正午十二時、シキ（敷）川村ニ至リ喫飯ス（但シ日奈久ヨリ道程七合ト云、是ヨリ八ツ代ヘ道程二里ナリ、ト云）、

一午後第一時前、土人上方村利平ト云者ヨリ聞ク、今夜上柳村ニ薩人多人数宿陣ノ為メ、二人今暁来ルト、是レ全ク賊ノ謀計ナラン、然レトモ土人恐レテ家具・米等ヲ諸方ニ運送ス、

一午後第二時、八ツ代ニ着ス、此処ハ元肥後藩家老松井光行ノ居ル処ナリ、土人官兵ノ為ニ尽力ス、出町光徳寺ヲ本陣トス（大佐高嶋附属ノ者、中佐黒木両隊長、士官・聯隊附属ノ者、兵卒一中隊半）之レニヲル、余ノ宿陣ハ各処ニアリ、

一午後第三時過、第一大隊第一中隊ヲ以沖友通松崎村ニ分遣、大哨兵ヲ配置ス、第二（三カ）大隊第二中隊ヲ以熊本本道ニ分遣、大哨兵ヲ配置ス、

一午後第四時、前田大尉（隆礼）第二中隊ヲ引率、八ツ代ニ着本日間道ニテ賊ニ出会、賊遁逃ス、大小ノ刀二十余本分取、但シ洲口村ヨリ日奈久ニ出ル間道也、

一午後第六時、警部補長谷川一二来リ、哨兵等ノコトヲ談ス、

一午後第八時、日奈久ノ南松隈ト云処ニ、賊二百名程嘯集スルト土人ヨリ報ス、

一午後第九時三十分、髙嶋大佐并附属スル者端船ニテ着ス、

一同第十時三十分、警部両名来ル、

一午後第十一時、医官杉本・荻野并従者等着ス、船都合ヨロシカラスシテ遅刻スト云、続テ両隊会計官来着、

一夜十二時、夜食ヲ給ス、

一本日洲口村ヨリ八ツ代ニ来ル途中、村落ノ者家具并米等ヲ諸方ニ運フ、或ハ家具・米ヲ地ニ埋ムルモノモアリ、実ニ人民ノ混雑少カラス、是レ兵火ノアルヲ恐レテナリ、

一本日ヨリ八ツ代ノ人民ヨリ鎮撫方ト云モノヲ置テ、諸用ニ供尽力ス、

一本日洲口沖ニテ当隊上陸中、当沖ニ滞船之レアルベク旨玄海丸ニ相達ス、

三月二十日　雨午後一時前雨止

一大哨兵配置昨十九日ノ如シ、

一午前第九時半、玄海丸ヘ草鞋運送ノ為曹長ヲ遣ス、

一午前十時、猶原記一・福井善次郎等、弾薬五万発ヲ以本陣ニ着ス、

一正午十二時過、会計官富田・畠山、医官明石并従者共ト玄海丸・扶桑丸ヨリ本陣ニ着ス本陣ハ出町、光徳寺ナリ

一午後第一時、鏡村（八代郡）ノ方ヨリ賊兵進撃ノ由哨兵ヨリ報ス、直ニ財部羌鏡ニ向ケ出発ス、

一午後第四時半、財部羌本陣ニカヘル、八ツ代ヨリ三里余ヲ去リ、氷川西南堤ニテ賊兵ト官兵相持スルノ由ヲ報ス、

一午後三時過、弾薬ヲ第一大隊・第二（三カ）大隊ニ渡ス、

一午後七時二十分、財部羌氷川ニ向ケ八ツ代ヲ出発ス、

一同時賊氷川西南堤ニ拠ル、至テ守ルニ要地ナリト土人探偵シ帰リ報ス、

一同時氷川ト鏡ノ間ニ於テ、午後四時三十分開戦、兵卒大平百藏傷ヲ受ル旨、山田積之ヨリ土人ヲ以八ツ代本陣ニ報知ス、

一同時戦ヒ盛ナル旨、我兵第二（三カ）大隊第一中隊鏡町出端ニ

兵ヲ配布シタリト報知アリ、右斥候トシテ第一中隊ハ、本日午後第十一時八ツ代ヲ出発セリ、第一大隊第四中隊ヲ斥候トシテ本日午前第十一時宮ノ原ニ向ケ出発、午後第四時宮ノ原村(八代郡)ニ於テ開戦ス、右鏡口・宮ノ原等休戦スルニ暇ナク、追々援兵ヲ進ム、警視隊ハ中央ニ戦フ、

一午前十時前、土人田川吉尚ト云者ヲ以、大尉興津景宗ヨリ来書アリ、其文ニ、午後第四時戦ヲ開ク、我兵勝利、只遺憾トスルハ味方不足、至急惣軍進撃アラハ、鏖尽スル必セリ、当時我兵好地利ヲ掠奪シタリ、山田大尉ノ隊深傷一人、軽傷一人、該隊ニ軽傷一人、医官アラス大困却、至急御遣シアレ、弾薬十分御送リアレ、賊ハ鹿島ニ根拠ス、凡五百人計ト聞ク、賊兵山手ヨリ二小隊迂回シタリト聞ク、之レニ設備シタリ、

一手銃(弾薬カ)凡ソ十分ノ一ハ不発ナリ、大困却、預備ヲ御送リアレ、大石隊到着力ヲ得タリ、今夕ハ要地ヲ占メ徹夜ノ筈、明暁未明迄ニ本隊到着ヲ渇望ス、敵ハ死傷数多

三月廿日、

一同十時過、川上軍曹、椪(椏カ)原中尉戦死ノ景況ヲ探偵シカヘル、先ツ別条ナシト、当夜地図ヲ開テ戦地ヲ見ル、

一鏡町第二旅団第二聯隊本陣(聯隊長黒木為楨中佐)ヲ鏡町教法寺ニ置ク、後廿五日本陣ヲ本部ト改称ス、後又第二旅団ヲ第一旅団ト改称ス、

一本日第一大隊第四中隊ニ死重軽傷共三人、第三大隊第一中隊ニ傷二人アリ、

三月廿一日　雨午前十時頃ヨリ晴

一午前第一時頃ヨリ雨風、

一午前第三時、予芝大尉鏡ニ向ケ八ツ代本陣ヲ発ス、途中松馬場哨兵処ニ至ル、風雨強シ、人力二輛差出スヘク八ツ代本陣ニ申遣ス、

午前第四時半、眞鍋本承、人力三輛ヲ率ヒ松馬場ニ来ル、直ニ鏡ニ向ケ出発ス、午前第六時鏡ニ着ス、最早戦ヲ初メ砲声アリ、依テ我兵ノ位地且ツ戦ヒノ景況ヲ見ント欲シ、鏡町西北ノ間ニ至ル、広野ニ僅カノ楯ヲ取リ、我兵ヲ伊藤少尉ノ引率スルニ相逢ヒ、暫時賊ノ模様ヲ見ル、此処ニ警視隊モ屯集シタリ、

一午前五時、八ツ代松馬場哨兵先ヨリ、大尉前田隆禮我一中隊ヲ引率シ、同午前七時半鏡ニ来ル、直ニ氷川尻芝口村ニ遣シ、予指揮シテ賊ヲ氷川ノ堤ニ打ツ、之レヨリ前第一大隊第一中隊ノ内一小隊来リ、芝口村落ニ放火ヌ、此時前田大尉堤上ニテ賊ノ矢股ニ当リ傷ク、

賊ハ要地ニシテ守ルニ弁ナリ、我兵地利ヨロシカラスシテ、守ルニ不弁也、然ルニ百方尽力遂ニ正午十二時賊兵敗レテ砂川ニ向テ走ル、依テ直ニ氷川ノ要地ニ哨兵ヲ配布ス、当夜休戦ス、宮ノ原山道ハ猶戦ヲ止メス、
一本日戦争ニ尤モ尽力スル者アリ、
一本日戦ヒニ死重軽傷左之通、

○即死　大尉　石川敬儀
同　伍長　柳瀬勝太郎
同　二等卒　阿部政市
同　同　加藤幸作
外ニ十五人傷ヲ受クルモノアリ、
〆十九人也　但シ氷川ニ於テ死傷ス、
右第一大隊第一中隊分

○傷　大尉　前田隆禮
外ニ傷ヲ受ル者十三人アリ、
但シ氷川ニ於テ傷ス、
右第一大隊第二中隊分

○即死　少尉試補　前田規遵
同　伍長　平野金吾
同　同　井原義輝
同　二等卒　城庄太郎
入院後廿五日死少　尉　那須正毅
外ニ六人傷ヲ受ル者アリ、
〆十一人也　但シ氷川ニ於テ死傷ス、
右第一大隊第三中隊分

○即死　二等卒　立花増藏
同　一等喇叭卒　岡萬太郎
傷　少尉　齊藤正貫
外ニ十一人傷ヲ受ル者アリ、
〆十四人也　但シ氷川ニ於テ死傷ス、
右第一大隊第四中隊分

○即死　伍長　小松義基
同　一等卒　高橋春來
同　同　村上吉藏
同　二等卒　河合清十郎
同　同　中野仲次
同　同　入江福吉
同　同　高橋常吉
傷　大尉　山田積之
外ニ十五人疵ヲ受ル者アリ、

〆二十三人ナリ、
右第二大隊第一中隊分　但シ鏡村ニ於テ死傷ス、
○即死　　一等卒　吉田武吉
傷　　　少　尉　村上七太郎
外ニ十二人疵ヲ受ル者アリ、
〆十四人ナリ、
右第二大隊第二中隊分（但シ宮ノ原河原町ニ於テ死傷ス）、
一午後第二時、宮ノ原戦ヒ盛ナル由ヲ報知アリ、同三時、第二大隊第一中隊ヲ宮ノ原ニ遣ス、
一午後第五時、阪井少佐・久宗中尉（朝光、副官）宮ノ原ヨリ鏡本陣ニカヘル、
一午後第六時頃、予阪井少佐ト共ニ氷川哨兵所ノ模様ヲ見ル、同六時五十分鏡本陣ニカヘル、
一午後第八時三十分、八ツ代本陣ヨリ高嶋大佐ノ命ヲ以十四等出仕中原孫一鏡本陣ニ来リ、予ニ面会、黒田参軍長崎ヨリ兵隊ヲ引率シ、八ツ代本陣ニ来ル事ヲ報ス、
一同時宮ノ原ニ弾薬・銃器・米・漬物等ヲ至急送致ノ事ヲ、井上少佐ヨリ申越ス、
一同時松橋（下益城郡）ヨリ氷川尻辺海路ノ弁宜アリ、哨兵配置ノ事ヲ土人ヨリ申出ル、

三月廿二日　曇
一午前第六時頃ヨリ宮ノ原ニ戦争ヲ初タリ、
一午前第七時過、松橋（下益城郡）ヨリ賊兵千人ヲ二手ニ分チ、一ツハ氷川、一ツハ小川駅ノ方ニ向ケ進撃ノ報アリ、依テ二中隊ヲ以氷川ノ土堤ニ防禦セントス、願クハ黒田参軍率ヒ来ル兵ヲ以宮ノ原ニ遣リ、宮ノ原ニアル井上少佐ノ隊ヲ氷川ニ配置シ、我隊ヲ一手ニ致度旨ヲ、同九時頃眞鍋本承ヲ以八ツ代本営ニ上申ス、
一午後第一時、八ツ代ヨリ眞鍋本承帰途予ニ上申ノ次第報ス、
一正午十二時、鏡本陣出立八ツ代本営ニ至リ、黒田参軍・高嶋大佐等ニ面会、戦地ノ模様ヲ談ス、
一午後二時頃、予鏡本陣ニカヘル、
一同二時、永田少佐来リ面会、同時半宮ノ原ニ向ケ出発ス、
一午後二時過、斎藤中尉来リ、敵地ノ模様ヲ談ス、且ツ賊兵二百余小川駅ヲ向ケ進撃スルト、土人ヨリ聞ト云、
一此日日中宮ノ原ノ戦ヒハ唯相持スルガ如シ、然ルニ黄昏宮ノ原山間ニ放火シ、戦ヒヲ初メタリ、
一此日氷川ノ要地ニ哨兵配置スル昨日ノ如シ、

一午後六時、宮ノ原山間ニ賊アリ、二中隊ヲ当地氷川ニ引揚ケ出来ガタク、先ツ一中隊ヲ引揚ケタリ、願クハ預備兵アレハ山ノ後ロ手ニ差廻シ度候、当地モ進軍致度候得共、宮ノ原賊打払ハデハ進軍相成難シ、委細財邊(部)氏ニ申含メ置候間、定テ御聞取ナラン、早ゝ御軍議之レアランコトヲ希望ス、高嶋大佐殿、

　追テ銃器破損ニ付、至急送致ノコトヲ猶原記一ニ御申付之レアリ度、此段御依頼候也、

一午後第六時過、大石大尉鏡本陣ニカヘル、

一午後第十二時、高嶋大佐外ニ随行二名宮ノ原ヨリ鏡本陣ニ来リ、宮ノ原ノ模様賊シキリニ放火ス、依テ策略ノ大概ヲ議ス、

一宮ノ原ノ戦ヒ徹夜、賊遂ニ敗走ス、

本日ノ戦ヒニ疵人左之通、

第二大隊第一中隊二等卒
疵宮ノ原村上ノ山ニ於テ　岡崎伊之助
同第二中隊二等卒
疵宮ノ原大野村ニ於テ　多田春次

一本日氷川・鏡村等休戦ス、

三月廿三日　雨午前六時過雨止ム、同十時半放晴

一午前第一時過、高嶋大佐八ツ代ニカヘル、

一午前第四頃ヨリ雨降、

一午前第六時、予氷川ヨリ鏡本陣ニカヘリ、敵地ノ模様ヲ議ス、

一午前第七時、第一大隊第三中隊ヲ以氷川ニ遣シ、昨廿二日ヨリノ哨兵ト交代セシム、

一午前第七時、江口(高礎)権少警視来リ戦地ノ景況ヲ談ス、

一午前第九時、宮ノ原戦地ヨリ報知ニ、追ゝ賊ハ退ク、然レトモ戦ハ盛(ナ脱カ)リト、

一午前第九時半、芝大尉ヲ以宮ノ原戦地ヲ視察セシム、

一午後第一時頃、岡澤少佐・松尾中尉等宮ノ原ノ戦ヲ検シ、鏡本陣ニ来ル、直ニ又宮ノ原ニ向ケ出発ス、

一午後第二時前、予氷川堤ヨリ宮ノ原戦地ノ模様ヲ見ント欲シ、鏡本陣ヲ出発ス、

一同時山手ノ北川村ニ賊火ヲ放ツ、折節東北ヨリ漸風煙リ我兵ニ当ル、又同山後ロ手宇野村ニ放火ス、時第三時ナリ、

一午後第三時過、予宮ノ原本陣(士族井芹嘉門方)ニ至リ、大尉渡邊勝重・中尉村井右京等面会シテ、戦地ノ模様ヲ尋問ス此時真鍋本承・大島某等随従ス、

一午後第三時三十分、宮ノ原ヨリ氷川ニ下ル堤ニテ砲声ヲ聞ク、全ク東西野津村・東鹿島村・鹿島村等ノ野外ニ於テ戦ヒヲ初メタリ、一時戦ヒ盛ニシテ、遂ニ我兵利アラスシテ退軍スル、日已ニ薄暮、賊軍我兵ノ左側ニ突出シ横撃ス、此時我兵氷川ノ中央ニ集合シ、防禦スル事暫時、賊兵尽ク退散、依テ我軍ハ本ノ如ク氷川堤ニ哨兵ヲ散布シ、当夜休戦ス、宮ノ原口ハ昼夜連戦立神ノ背後ニ聳ヘタル山上ニ戦ヒ、賊ヲ逐フテ要地ヲ占シ哨兵ヲ張ル、

一実ハ薄暮氷川尻左側ヲ賊兵横撃スル時、警視隊ノ者一時ノ狼狽ヨリ、遂ニ惣軍川ノ中央ニ集合スルニ至ル、恐ルヘシ恐ルヘシ、軍人等能ク沈着シテ狼狽スルコトナカレ、

一午後七時過キ眞鍋本承ヲ以援兵ヲ宮ノ原本陣ニ乞フ、直ニ茨木中佐ヨリ山内中尉ニ命ス、同人六十名ヲ率ヒ氷川ニ来ル時、賊退散シテ我軍元ノ如ク哨兵ヲ張ル、然レトモ尚山内（俊英ナリ）ノ隊ヲ要地ニ配布ス、此夜予等氷川ニ休ス、

一本日ノ戦ニ死重軽傷ヲ受ル者左之通、

一　第一大隊第一中隊

即死　中尉　淺井正脩

同　二等卒　由良新蔵

外ニ六人疵ヲ受ル、

八人ナリ、氷川ニ於テ、

一　同　第二中隊

即死　二等卒　有野宮次郎

同　同　倉田熊次郎

外ニ七人疵ヲ受ル、

九人ナリ、氷川ニ於テ、

一　同　第三中隊

即死　二等卒　中島梅吉

外ニ七人疵ヲ受ル、

八人ナリ、氷川ニ於テ、

一　同　第四中隊

即死　二等卒　田尾秀蔵

同　同　宮地安次

外ニ三人疵ヲ受ル、

五人ナリ、氷川ニ於テ、

一　第二大隊第二中隊

傷　大尉　興津景宗

外ニ二人疵ヲ受ル、
〆三人ナリ、黒淵山ノ手ニ於テ、
　同　第三中隊
傷ヲ受ル者五人ナリ、
〆　宮ノ原大野村ニ於テ、
一　同　第二大隊副官
即死　中尉　樫原行久
〆　宮ノ原大野村ニ於テ、
一本日ハ意外ノ劇戦ニ相成、御苦労之至ニ存申候、就テハ弥氷川ヲ以防禦線ヲ定、一層厳重ニ致確守候、御注意有之度、此段態ト申入候也、
右高嶋大佐ヨリノ来書、
一本日陸軍大尉淺野頼淹ヨリ福井曹長定雇人夫十名ヲ鏡本部ニ差出シ、兵器取扱ヒ云々申越ス、
三月廿四日　雨
一午前第八時、第一大隊第二・第三中隊ノ内、鏡ニ引揚ケ休戦ス、
一午後第一時三十分、黒田参軍鏡本陣ニ来リ、直ニ氷川ニ至リ予ニ面会シ、昨夜ノ様子且ツ敵ノ様子ヲ尋問アリ、昨廿三日廿四日廿五日迄ニ官二万ノ兵ヲ以熊本ヲ襲フ、依テ鏡・八ツ代等ニ賊遁逃スルモハカリガタキ旨参軍申サレル、又田原坂(熊本県鹿本郡)・植木・木ノ葉(玉名郡)等皆賊敗軍、弾薬・大砲等多数分捕アリト云、同二時頃黒田参軍八ツ代ニカヘル、
一午後第二時、財部氏・川上氏外壱名氷川哨兵所ニ来ル、高嶋大佐ヨリ汐ブタ并ブリ等ヲ送レリ、
一午後第四時過、氷川ニ薪ヲ差出スヘク(キ)旨会計畠山ニ達ス、夜ニ入氷川ニカヾリヲ六ケ所ニタク、
一午後第五時過キ、賊氷川尻ニ襲来ノ模様アルヲ以、鏡本陣ニアル休兵ヲ川尻ニ差向ケル、須藤少尉伝令ス、
一本日氷川ハ休戦ナリ、唯哨兵ヲ配置スルノミ、
一本日宮ノ原ニ於テ少シク戦アリ、我軍勝利、
三月廿五日　晴午後第五時曇夜ニ入晴
一本日氷川口ハ休戦ナリ、唯哨兵ヲ配置ス、昨日ノ如シ、
一午前第三時過キ、我哨兵賊ナキヲ賊アリ(ト脱カ)見誤リ、銃ヲ発ス、予之レヲ止ム、全ク我兵一時ノ狼狽ナリ、
一右同時頃熊本ノ方ニ当リ頻リニ大小銃ノ音アリ、
一正午十二時、安田権大書記官ヨリブランデー一瓶ヲ添エ来書アリ、直ニ返書ヲ出ス、此時鏡ヨリ松橋ニ至ル海路ノ図面一葉ヲ黒田参軍ニ呈ス、

一右同時予氷川ヨリ鏡本陣ニ帰リ入湯ス、直ニ又氷川ニ行、
一右同時樋渡氏八ツ代ヨリ来リ、敵地ノ模様ヲ問フ、
一午後第二時十五分、第一聯隊第一中隊ノ内一小隊ヲ山縣中尉引率シ来ル、
一午後第三時、芝大尉ヲ八ツ代本陣ニ遣シ、海辺ニ賊アリ、海軍ヲ御差向ケアランコトヲ乞フ、午後第八時芝大尉八ツ代ヨリ鏡ニ帰リ、軍艦二艘ヲ松橋ノ方ニ向ケ差出スヘク旨ヲ報ス、夫ヨリ直ニ芝ヲ以、右軍艦来リ砲発スル旨ヲ我諸隊ニ伝フ、
一午後第七時、宮ノ原ヨリ井上光外一名氷川哨兵所ニ来ル、
一午後第七時、猶原記一八ツ代ヨリ氷川哨兵所ニ来ル、同十一時八ツ代ニカヘル、
一午後第八時、宮ノ原ヨリ杉本・原田ノ両医鏡本陣ニ来ル、
一午後第八時、氷川ヨリ予井上光等ト鏡本陣ニ帰ル、途中三間権少警視ノ処ニ至リ面会ス、
一自今参軍本局ヲ本営ト、旅団ヲ本陣ト名称被定、各聯隊ハ本部ト相唱可申旨、第一旅団長高嶋大佐ヨリ達セラレ候事、直ニ我隊ニ相達候事、
一本日モ宮ノ原口ニ於テ少シク戦アリ我軍勝利、
一本日第二大隊ハ第一聯隊ニ交換シ、鏡村ノ第一大隊ニ合集ス、

三月廿六日　曇午前七時過放晴

一午前第三時、高嶋大佐鏡本部ニ来リ軍議アリ、此時氷川ニアル阪井少佐ヲ呼フ、
一今暁未明ヨリ氷川・砂川ノ海ニ軍艦来リ砲発ス、
一午前第七時予氷川ニ向ケ出発ス、
一午前第七時半、宮ノ原山手ヨリ氷川尻迄順次進撃、正午十二時砂川尻ヨリ小川駅ヲ乗取ル、賊守地ヲ去リ、豊福村・松橋駅ノ両道ニ走ル、然ルニ我聯隊ハ一週間ノ連戦ナルヲ以、指令ニ依リ哨兵ヲ第三旅団ニ交代シ、鏡村教法寺則チ本部ニ引揚ケ休兵ス、
一本日ノ死重軽傷ヲ受ル者左之通、

第一大隊第一中隊

傷　軍　曹　長濱重美　傷　一等卒　鈴岡寅治
傷　一等卒　岡川由利藏

同　第二中隊

傷　軍　曹　吉山義種　傷　軍曹心得伍長　堀田幸義

同　伍長心得一等卒　土岐今次　同　二等卒　下川七藏
同　山本秀二
同　第四中隊
即死　軍　曹　富澤武雄　傷　伍　長　中西克明
傷　一等卒　宮本虎藏　同　二等卒　湯山万作
同　二等卒　山田文彌
同　第二大隊第三中隊
傷　軍　曹　所　勝之助
右何レモ本日氷川ヨリ砂川ニ進撃ノ際死傷、
一午後第二時、黒田三軍ヨリ小川駅ニ来レトノ命アリ、直ニ予阪井少佐ト共ニ小川駅ニ至リ、本日進撃ノ模様ヲ上申シ、且ツ軍議ヲ聞キ、同三時砂川尻ニカヘリ、同第五時半予砂川ヲ引鏡本部ニカヘル、途中雨降、
一本日進撃中、旅団長高嶋大佐処々戦地ニ出張シ、夜十一時鏡本部ヨリ八ツ代本陣ニカヘル、
一去ル廿四日高嶋大佐ヨリノ達書ヲ誤脱ス、依テコヽニ出ス、
別紙之通黒田参軍ヨリ被相達候ニ付、則チ御覧ニ入候也、
○別紙
黒田参軍　高瀬 山縣参軍
山鹿口今払暁大雨ヲ犯シ進撃、賊山鹿ヲ棄テヽ走ル、依テ午後ニ至リ兵ヲ二手ニ分チ、一ハ植木ニ進ミ、一ハ賊ノ隈府ニ走リタルヲ進撃ノ為メ同処ニ進ムトノ報知アリ、此段御報知申ス 三月廿二日午前十分発ス
○別紙
黒田参軍　山縣参軍
河村参軍
賊兵敗セントシテ田原坂ノ要害ニ拠リ、我兵ハ雨ヲ犯シテ賊軍ヲ攻撃シタリ、其法ハ、左右翼ニハ尽ク厳重ノ守備ヲ置キ、二俣ノ横合ヨリ進ミテ街道ヲ乗取リ、大ニ賊軍ノ中央ヲ敗リ、直ニ植木ニ達シ同処放火シ、勢ヒニ乗シテ頻リニ戦ヒ、賊兵ハ大ニ窮ス、八ツ代地方ノ賊勢モ亦或ハ為メニ沮ムノ状ヲ顕ハサヽルニモアラザルヘシ 三月廿日午後五時四十五分
○別紙三月二十日午後十時十五分木ノ葉局ヲ発ス
北島県令　石井書記官
今日未明ヨリ進撃、田原坂ヲ取リ植木ニ進ム、大砲四門・小銃二百挺分捕、植木ヲ焼キ敵ノ弾薬倉ヲ焼キタリ、同十一時五十五分、福岡県令ヨリノ報ニ、今朝劇

戦シテ植木ノ先ニ進ミタリ、田原坂モ亦落タリ、更ニ熊本ニ攻入ノ筈ナリ、山鹿口モ亦進撃ス、

一同二十一日午後第八時五分、石井ヨリ報ニ、今月ハ植木ノ残賊トコゼリ合ノミニシテ、先ツ休戦、山鹿口、未タ確報ヲ得ス、アトヨリ（空白）

一同廿二日午前七時四十五分、昨日午前十時山鹿口ノ官軍賊ノ逃ルヲ追ヒ討チ、一手ハ緑リ駅へ進ミ、一手ハ隈府へ進ミ、一手ハ植木ノ官ト合ス、

一同廿二日午後五時十五分警部ノ報ニ、昨日山鹿口進撃遂ニ山鹿口ヲ抜ク、賊隈府へ大挙ス、官兵大勝利、本日ハ両口トモコゼリアイノミ、明日ハ両口ノ官兵合セテ大進撃ノ由、

別紙戦地ヨリノ電報左ニ

今朝進撃シテ植木ノ先キ迄進ミタリ、田原坂モ亦落シタリ、直ニ熊本へ攻メ入ル筈ナリ、山鹿口モ早ク進ム可シト報知アリ、

三月二十日午後七時十分久留米発信

有馬中秘史ヨリ長崎海軍出張所池田少佐

別紙

昨夜山鹿口進撃、賊山鹿ヲ捨テ去リシ旨、唯今報知アリ、

三月二十一日午後六時五分久留米発信

有馬中秘史

長崎 池田少佐殿

一右廿四日ノ処ニ録スル分、

三月廿七日　晴　休戦

一本日ハ休戦ナリ、

一午前第九時、（第十聯隊長）茨木中佐鏡本部ニ来ル、

一午前第十時五十分、砲兵大尉浅野頼庵八ツ代ヨリ鏡本部ニ来ル、

一午後第十時、医官荻野孝恭ヲ八ツ代病院ニ遣ス（午後第四時鏡本部ニカヘル）

一午前第十時、（道義）大島軍吏試補ヲ八ツ代ニ遣ス（午後第五時、鏡ニカヘル）

一午後第二時、猶原記一ヲ八ツ代ニ遣ス、

一午後第一時、高嶋大佐ヨリ来書、左ニ、

八ツ代塩屋町高岡嘉三郎方へ長崎ヨリ派出運輸局、少尉高松寛剛、右ノ処ニ開設ノ旨報知有之ニ付、為御心得申進ス、右書畠山ニ渡ス、

一午後第四時二十分、土屋中尉八ツ代ヨリ来リ、西郷隆盛目刃ノ様子実説ナリト云ヲ以、高嶋大佐ヨリ伝言ア

リ、〇昨廿六日ノ戦争、第二・第三旅団ニ即死九人ナリト云、同午後五時八ツ代ニカヘル、
一午後第五時、明石軍医(退蔵)八ツ代病院ヨリ鏡本部ニ来ル、
一夜十一時、都合之レアルニ付、第一大隊ヲ八ツ代ニ繰出スヘク旨、高嶋大佐ヨリ達書来ル、

三月廿八日　晴夜九時半雨降　我兵休戦

一午前第六時半、第一大隊第一中隊ヨリ一分隊ヲ粟津少尉試補引率シ、砂川近辺ニ至リ賊ノ模様探偵セシム、
一午前第八時二十分、第二大隊ヲ八ツ代本陣ニ遣ス(井上少佐引率)ス、
一午前第十時、粟津少尉試補帰途予ニ氷川ノ堤ニ相逢ヒ、探知ノ模様ヲ聞ニ、今朝ヨリ松橋ノ手前クゝ(久具)村ト云処ニ放火アリ、且ツ大小銃ノ音アリ、定テ小川駅ヨリ差出ス第三旅団ノ大斥候ト賊トノ戦ヒナラン、砂川辺ハ賊ナシト云、
一午後六時、大小銃ノ声アリト聞キ、予阪井少佐(重季)等ト氷川ニ至リ、賊地ヲ窺フニ砲声ナシ、唯松橋ノ方ニ当リ火見ユル、同六時半本部ニカヘル、
一午後第六時高嶋大佐ヨリ至急書来ル、
一午後第六時半、第一大隊第三中隊ヨリ一小隊ヲ岡嶋(均)少尉試補引率シ、砂川近辺ニ至リ賊ノ模様ヲ探偵セシム、
一午後鏡村ノ人某ヲ以、熊本ヘ探索トシテ差遣ス、
一本日午前第三時、小川駅ヨリ第三旅団一大隊半ヲ大斥候トシテ松橋ノ方ニ向ケ進ム、途中日出ヨリ賊ト戦ヒヲ初メ、頻リニ相戦ヘトモ我兵利アラス、午後第四時引揚ケ小川ニ帰ル、夫ヨリ砂川ニ哨兵ヲ配布スト、岡嶋少尉試補実ヲ得テカヘリ予ニ報ス(此日中村中佐以下、兵卒甚狼狽スト云)
一午後第九時半ヨリ雨降、
一明廿九日早天進撃ノ命アリ、
一夜一時高嶋大佐ヨリ進撃ノ義ハ先ツ見合ス可ク旨申越ス、依テ進撃ヲ止ム、
一此日休戦ナリ、
一当県下天草支庁官吏出張等之節、該県印鑑所持之者ハ通行可為致旨、本営ヨリ被相達候条、右印鑑所持之者調査ノ上、無異議通行可差許、此旨相達候事、

追テ、該県印鑑二葉相廻候事、

第二旅団長

高嶋大佐

一各隊下士官兵卒ハ、軍隊手帖ハ必ス懐中可致候事、
各大隊八ツ代進発ノ節ハ、各大隊附病室掛伍長ハ当八

ツ代ニ可残置事、
右両条為心得相達候事、
第二旅団本部
三月廿九日　晴　我兵休戦
一午前第七時二十分、少尉試補桐山八郎一分隊ヲ引率シ、砂川近辺ニ差遣ス、
一午前第八時、第十二大区区長成田清九郎来リ、過日来焼失ノ家数五百軒計也、取調モ之レアルベク哉ノ旨申出ル、依テ警視ニ申出ヘク申聞ケル、同人云、小川駅ノ山背ニ中山道トテ、隈并人吉ニ行ク道アリ、是ヨリ賊弾薬等ヲ送ルト云、依テ直ニ右ノ次第ヲ小川ニ行キ警視ニ申出ヘク旨申聞ケル、
一第二大隊八ツ代本部ヨリ正午十二時鏡本部ニ帰着ス、
一高嶋大佐被任陸軍少将候事、
三月廿八日
右御達有之候事、三月廿九日
一別働隊第二旅団ヲ第一旅団ト改称ノ御達之レアリ候事、
一明卅日進撃ノ命アリ、
三月三十日　雨
一午前第五時、予妍隊ト鏡村本部ヲ出発、砂川ニ至リ兵ヲ集メ、夫ヨリ要処〻〻ニ兵ヲ遣リ、松橋ニ向ケ進軍、
一午前第六時十分、小川駅ノ山続キサバガミ越ニ於テ戦ヒヲ初メ、同九時半サバガミ越ヲ攻落ス、賊敗走ス、
一我妍隊ハ午前九時戦ヒヲ初メ、北豊崎村(下益城郡)ヨリ御船村(下益城郡)西海浜ニ進軍接戦ス、夜ニ入リ戦ヲ止メ、北豊崎村ヨリ御船村ニ至ル迄一直線ニ哨兵ヲ張ル、之レヨリ先キ賊御船村海堤ニアル悪水除ケノ水門ヲ破リ、我兵ノ進路ヲ障碍ス、是ニ由テ御船村ヨリ南豊崎村ニ至ル麦畑ニ湖水張リ、我兵困却ス、
一本日本部ヲ仮リニ南豊崎村百性(姓)某ノ家ニ設ケ、之レニヲル、高嶋少将随従ノ者等皆同居ス、
一午後松橋本道久具村ニ進軍ノ兵甚劇戦ナルヲ以、第二大隊第二中隊ヲ援兵トシテ差出ス、途ニ狙撃隊ニ合シ暫時賊ヲ打ツ、賊砲台ヲ捨テ走ル、此時我兵砲一門ニ兵器等ヲ分捕ス、
一此夜本道ハ久具村ニ大哨兵ヲ配布スト云、
一夜ニ時、大石大尉来リ、西海浜水門ノ辺哨兵ノ連絡、且明朝ノ進退ヲ伺出ル、依テ先ツ其地ヲ守ルヘキ旨相達ス、
一右同時鏡村ヨリ餅四俵ヲ送リ来ル、各隊ニ分与ス、

一此日我兵傷ヲ受ル者左ノ通、
○第一大隊第三中隊兵卒　河合秀藏
右御船村ニ於テ傷ヲ受ル、
○第二大隊第二中隊
少尉試補　三宅　環　兵卒　木ノ下權太郎
兵　卒　德弘長平　同　太田又次
喇叭卒　喜井小作
右大野張ニ於テ傷ヲ受ル、
○同　第三中隊
兵卒　武田武之助　同　篠原彌三郎
同　田尾關次
右北豊崎村ニ於テ傷ヲ受ル、
三月三十一日　雨午前第十時晴
一午前第七時、久具村ノ堤ニ戦ヒヲハシメタリ、余ハ追〻進撃ス、
一午前第七時過キ南豊崎村ヲ発シ、久具村ト豊福村ノ中央ニ至リ、(頴義、別働第二旅団長)山田少将ニ面会ス、予ニ随従ノ者芝・眞鍋、山田少将此処ニテ兵ヲ指揮ス、予ハ随従ノ者ト北豊崎村ノ堤ニ至リ、芝大尉ヲ(鞆之助、別働第一旅団長)高嶋少将ノ処ニ遣ス、此時午前第十時四十五分ナリ、同時賊ノ巣窟宇野村ニ放火ス、敗走、砲台ヲ乗取ル、然レトモ東北ニ当リ銃声止マス、同時北豊崎村ヨリ御船村ニ至ルノ兵、委(悉)ク松橋ニ向テ進撃、賊亦松橋ニ火ヲ放テ走ル、遂ニ惣軍松橋駅ヲ乗取ル、時午前第十一時半ナリ、夫ヨリ宇土口ニ哨兵ヲ配布ス、
一松橋駅正願寺ヲ我聠隊ノ本部トス、此処人家凡三百余戸ト云、
一本日我兵ノ死傷左ノ通、
○第一大隊第一中隊
即死　軍曹　丸川準太郎　同　兵卒　阿部綾次郎
同　兵卒　明星德藏　傷　同　黒田文次
傷　兵卒　秋月治太郎　同　同　二見太郎
同　同　福田才次郎　同　同　佐波太八郎
○同第四中隊
即死　兵卒　岡崎弁次　傷　同　淺野彌三郎
傷　同　下横音吉
右豊福村ヨリ松橋ニ進撃ノ際死傷、
○第二大隊第一中隊
傷　伍長　小出孝次
右(隈ノ庄、城南町)熊ノ庄山越ニ於テ傷ス、

四月一日　晴

一午前第四時十分、宇土口ノ哨兵ヲ賊抜刀ニテ襲来ス、中尉斎藤太郎急ヲ松橋ニ報シ援兵ヲ乞フ、直ニ第一大隊第四中隊・第二大隊第三中隊ヲ繰出シ、哨兵ニ増加シ、賊ヲ打ツテ三十余名ヲ斃ス、賊隊伍ヲ乱シテ走ル、我兵其機ニ乗シ進撃ス、賊宇土ニ放火シテ走ル、我兵進テ宇土駅ヲ取ル、時午前第七時ナリ、賊ハ緑川或ハ三十町村ニ向ケ遁逃ス、依テ緑川太郎兵衛渡シ場ノ南堤ヨリ住吉村ノ海浜ニ至ル迄哨兵ヲ配布ス、

一宇土駅本一丁目古手屋伊藏方ヲ我聯隊本部トス、

一諸隊宇土・松橋・堅志田等ニ宿陣アリ、

一午後第七時、高嶋少将ヨリ、宇土ニ於テ分捕米、当旅団会計部ヘ引渡可申旨被達、直ニ手順ノ上引渡候事、

一本日賊ヲ捕獲スル三名、

一本日戦争ニ傷ヲ受ル者左ノ通、

　○第一大隊第二中隊

傷　少尉試補　鈴木幸次郎　同　(軍曹心得)伍長　蔵成光清

同　伍長　小野万亀太　同　(伍長心得)兵卒　岡本八郎

同　兵卒　岡林春郷　同　兵卒　谷　繁市

同　同　高橋龍五郎　同　喇叭卒　苅谷甚平

右松山村ニ於テ刀創、

外ニ

　雇夫一人刀創ヲ受ル、

四月二日　雨　休戦

一哨兵ヲ配置ス、昨日ノ如シ、

一午後第七時、宇土ノ山ニ賊アリト報スル者アリ、依テ第一大隊第四中隊ヨリ(マヽ)□差遣ス、

四月三日　晴　休戦

一午前第七時、新宮簡来ル、

一賊徒劫迫ニ依リ一時随従ノ者免罪云々、別紙之通総督本営ヨリ被相達候条、為心得此段相達候事、

　　第一旅団司令長官

　　　高嶋少将

別紙

今般賊徒劫迫ニ依リ、一時附和随従之者、悔悟帰順謝罪確実ナルニ於テハ、詮議之上免罪致スヘク候条、此旨布告候事、

　　八ツ代口

明治十年四月

　　征討総督本部

一午前第五時、第三旅団本陣堅志田村(甲佐町)ニ砲声聞コエ、隈

ノ庄ニ向ケ援兵ヲ繰出ス、時ニ哨兵ハ賊ト劇戦、遂ニ
賊三十余名ヲ打取ル、我警視隊死傷二十三四名、國府（友諒）
少警視少佐・由井少隊長等即死、此時賊将山田某ヲ捕
獲ス、賊ハ走ル、官兵之レヲ逐テ甲佐ヲ乗取ルト、川
路少将ヨリ報知アリト聞ク、
一午後第七時半、三角村ニ賊アリト云、依テ第二大隊第
一中隊ノ内一小隊ヲ引率シ、山内中尉（後英）ニ探偵セシム、
一本日二条ノ渡シニ向ケ狙撃隊ヲ十人差出ス、

四月四日　晴　休戦

一大哨兵ヲ配置ス、昨日ノ如シ、
一午前第七時半、茨木中佐来ル、
一午前第十一時十五分、六彌太通リ江午後第一時迄ニ二
中隊差出スヘク旨、団長ヨリ土屋中尉ヲ以被達、依テ
二中隊可差出ノ処、休兵ナキヲ以第一大隊第一中隊ヲ
差出ス、外隊ヨリ五中隊差出スト云、
一午後第一時、大砲三門ヲ六彌太通ニ差出シ、川尻村ニ
火ヲ放ツト雖能ハス、
一別紙之通御達相成候条、此旨為心得相達候事、

第一旅団司令長官
高嶋少将

別紙

第三旅団ヲ三大隊ニ編制、第一第二第三大隊ノ名称ヲ
付シ候条、為心得相達候也、

黒田参軍

四月五日　晴　休戦

一午前第一時二十分、宮ノ原ヘ向ケ一中隊差出スヘク、
高嶋少将ヨリ命アリ、第一大隊第四中隊ヲ大尉山田正
引率シ、宇土駅ヲ出発、時午前五時ナリ、
一第一旅団　第二旅団　第三旅団
右本日宇土ニ転営候条、此旨相達候事、

十年四月　本営

一明六日午前第三時前後、空発砲四五発ツ、放ノ筈ニ第
二旅団ヨリ申越候条、為心得申入候也、

十年四月　第一旅団長高嶋少将

一午後第十一時過キ高嶋少将ヨリ使ヲ以予ニ令ス、八ツ
代ノ東古麓ニ八百人計賊アリト報知アリ、依テ一中隊
可差出ト、直ニ第二大隊第二中隊ニ命ス、翌六日午前
第二時過キ井上少佐（光）引率シ、八ツ代ニ向ケ当宇土駅ヲ
出発ス、
一木ノ葉発山縣参軍并佐賀支庁ヨリ電報写左ニ、

　四月四日午前二時五十分木ノ葉発、
　川村参軍　　山縣
三月二十日附ニテ熊本鎮台谷ヨリ今日左ノ通報知アリ、
当地ノ戦争利アリ、近日ハ砲戦ノミ、賊僅八百余モア
ルヘシ、遠巻キヲナセリ、鎮台警備マスマス厳ナリ、
侵スコト能ハス、実際糧食今日ヨリ二十日余ノ貯アリ、
此節ノ興廃此鎮台ニアリ、賊モ亦糧ノ尽ルヲ待ツノミ、
依テ旅団ノ進軍ヲ得テ一同進撃ヲ要スルノミ、其地ノ
戦争田原ニアリト、又間々砲声ヲ聞ク、其地ノ賊破レ
ナハ当地随テ瓦解スベシ、海路ヨリ高橋ヘ向ケ一聠隊
程進撃アリタシ、彼地ハ僅ノ賊ナルベシ、何分神速ニ
進入、早ク其巣窟ヲ屠ランコトヲ要ス、委細ハ直ニ聞
取アリタシ、又阿久根辺ヘ鎮台ヲ廻ハシ、弾薬糧道ヲ
絶ンコトヲ欲スト、
　四月四日午前九時四十五分佐賀支庁ヨリ報
今暁左ノ通熊本県ヨリ報知アリ、昨日木留（鹿本郡）ノ残賊夜討
スルニ、官軍之レヲ討テ賊ノ焚出所ヲ焼キ、木留村ハ
全ク官軍ノ者トナリ、植木ハ休戦、熊本ノ方ニアタリ
砲声聞ユ、今日ハタルミツ（滴水）村ノ台場ヨリヘタ（辺田野）ノ村ニ居
ル賊ヲ砲撃シ、同処ノ民家焼亡ス、植木ハ休戦、

四月六日　晴　　休戦
一昨五日古麓口戦争我兵利アラス、苦戦ノ由報知アリ、
一戦時道案内之義、是迄申請之都度々々本陣ヨリ弁給シ
来リ候処、自今於該隊直ニ雇人役使候義ト可心得、此
旨相達候事、四月六日　　高嶋少将
四月七日　雨
一午前第五時頃黒川（通軌）大佐三大隊引率シ、当宇土駅ニ来ル、
一午前第六時頃襲来、三十町村ヲ去リ新川ノ堤ニヨリ、
賊ハ川尻ノ堤ニヨリ戦争、
一午前第七時、第一旅団長高嶋少将ヨリ達シ左ノ通、
　賊軍多人数押寄候景況、第二旅団ヨリ報知之レアリ
　候ニ付、不取敢新着ノ兵二中隊六彌太通リヘ差出候
　条、為心得此段相達候事、
　　十年四月七日
一午前第十一時三十分、八ツ代ノ東南山古麓ノ戦争、賊
敗走我兵勝利、大砲二門其他分捕品アリト、土人ノ報
ナリ、空実不分明、確報ヲ待テ又後ニアラハスヘシ、
一正午十二時過、第一大隊第一中隊兵卒赤澤嘉藏、午前
大哨兵交代ノ際、緑川向堤ヨリ賊ニ狙撃セラレ即死ノ

旨、大隊長ヨリ届出候事、

一午後第一時、芝大尉戦地ヨリ帰リテ予ニ報ス、左ノ通、

今暁我兵三十町村哨兵線ヨリ進軍、(下益城郡)國町村川堤ニ至ル、賊モ亦同川向堤ニ来リ互ニ相戦フ、夫レヨリ追〻賊ハ東北ノ間木原山ノ半腹ニ駈ケ廻リ相ヒ戦フ、之レヨリ(下益城郡)前大町村焼亡ス、大町村ハ川尻ヲ去ル二合ト云 (此戦ハ第二旅団兵ト黒川大佐ノ引率スル新着兵トノミ)

一午後第二時過、山田少将ヨリ黒田参軍ヘノ書翰ヲ高嶋少将ニ送リ、高嶋少将ヨリ又予ニ送ル書中、木原山ノ賊ヲ鏖ニスル云〻ノ策略ヲシルセリ、

一午後第二時半、八ツ代東南山古麓ノ戦争ハ我兵勝利ニシテ、大砲其他ノ品ヲ分捕スル云〻、土人ノ報知ハ全ク確実ナリト、久宗中尉第一旅団本陣ヨリ承リ帰ル、

一第二旅団ヨリ発砲云〻、別紙之通通知有之候間、為心得相達候事、(四月七日午後十二時到来)

第一旅団本陣

別紙

明八日午前第三時前後、山砲四五発発砲候条、為念此段及通達候事、四月七日

第二旅団

一木原山ノ賊国町川堤ノ賊等、夜ニ入リ戦ヒヲ止メ、川尻ニ引キアグル、

四月八日　曇午後五時過ヨリ風雨

一午前第十時半、高嶋少将来リ、暫時軍事ヲ談シテ帰ル、

一午後第一時、芝緑川哨兵線見廻リトシテ差遣ス(午後八時前カヘル)

一午後七時半、高嶋少将ヨリ達書アリ、左ニ、

只今別紙之通参軍ヨリ御達相成候ニ付テハ、尚一廉被加厳戒度、此段及御達候也、四月八日

別紙

既ニ熊本城迄ノ連絡ヲ通スルノ機ニ至リ候得ハ、此際各哨兵等怠慢之気ヲ生スル哉モ難計ニ付、分テ厳戒有之度、此段及御達候也、十年四月八日

黒田参軍

高嶋少将殿

一午前第三時、熊本出発城兵五百余名、安政橋ノ方ヨリ賊ノ哨兵ヲ破リ、午後第四時半宇土駅ニ来ル、此日途中賊ヲ討ツ数多、城兵ニ即死一人、傷五六名ト云、且城中無事ノ由、

一午前熊本ノ方ニ当リ大火見ユル、

一午後第六時過、川尻ニ当リ大火見ユル、

一本日参軍ノ命ニヨリテ、緑川堤二丁ノ渡シ場辺ニテ大砲二門ヲ放ツ、
一明九日午前第三時前後、山砲四五発発放致候旨通知有之候間、此段申入置候也、四月八日
高嶋少将
四月九日　雨時〻晴雨夜中風雨
一午前第七時、高嶋少将へ手紙差出ス、
一午前第七時、井上少佐副官安永少尉八ツ代ヨリカヘル、該地ノ賊悉ク敗走、我兵勝利、賊ノ降伏スル者二十余名ト云、
一午前十一時、第二大隊第二中隊八ツ代ヲ引上ケ宇土ニカヘル、
一正午十二時、第一旅団ヲ熊(隈)ノ庄ニ転移シ候ニ付、緑川ノ哨兵ハ新着黒川大佐ノ隊ト交代ノ上、悉ク熊ノ庄ニ転ス可ク旨、高嶋少将ヨリ直ニ被達候事、
一午後一時半、阪井少佐第一大隊第三中隊ヲ引率シ、熊ノ庄ニ転ス、　余緑川ノ哨兵ハ漸ク夜半黒川隊ト交代シテ宇土ニ引揚ケ候事、
一午後第一時半、司令長官高嶋少将ヨリ達書、別紙之通御達ニ相成候ニ付、哨兵線引揚ケ候ハヽ、二中隊計援隊トシテ適宜之場所へ差置可申候、此段相達候事、
四月九日
高嶋少将
別紙　第一旅団　第二旅団黒川大佐
哨兵線外六彌太手前へクルブ砲据付、時機ニ依テ本日発砲候趣、海軍士官ヨリ申出候ニ付、自然賊徒襲来候ハヽ、其最寄哨兵隊備之内ヨリ繰出シ、保護等臨時処分可有之、此段相達候也、
十年四月九日
黒田参軍
一陸軍中尉岡見正美・同村井右京・同少尉内藤基ノ三名中隊附替へノ辞令書、第一旅団司令長官高嶋少将ヨリ差越ス、
一夜十二時頃緑川ノ哨兵黒川大佐隊ト交代、宇土ニ引揚ケル、
四月十日　雨正午ヨリ午後三時過迄大風雨
一午前第十一時、熊本鎮台第十三聯隊第一大隊当団へ附属相成候条、此旨相達候事、
第一旅団長
十年四月十日
高嶋少将
一宇土駅ニアル我隊、今暁ヨリ順次出発、隈ノ庄町ニ転移ス、

一正午十二時、予宇土駅ヲ出発、午後二時上益城郡隈ノ庄町ニ転移ス、同所二ノ町西岡逸造方ヲ第二聯隊本部トス、此処ノ人家三百軒余ト云、

一午後第二時過、先着阪井少佐来リ、昨日来ノ事且哨兵線等ヲ談ス、

一夜中熊本向フ阪ノ方ニ無数ノ砲声本部ニ聞ユ、

一カツトリング砲第一旅団ヘ附属相成候旨、高嶋少将ヨリ被達候事、

一第二旅団砲兵隊一分隊・第三旅団砲兵隊一分隊
右今般当団ヘ分派相成候旨、高嶋少将ヨリ被達候事、

一含毒魚類注意之義ニ付、別紙之通御達相成候条、此段相達候事、

四月十日　高嶋少将

別紙

第一　第二　第三旅団

当地ニテ手足蛸ヲ服食シ、其毒ニ中ルモノ昨夜来三四名有之ニ付、第十三聯隊第一大隊附医官ヨリ注意有之度旨申出候条、右様含毒之魚類且腐傷肉類食料等ハ、別シテ注意致候様各隊ヘ諭達可有之、此旨相達候也、

十年四月十日　本営

一発第百三十三号
戦事増俸之義ニ付、別紙之通御達相成候条、此段相達候事、

明治十年四月十日　高嶋少将

別紙

第一　第二　第三旅団

別紙之通於高瀬本営決定相成候趣、通知有之候条、此旨相達候事、

明治十年四月十日　黒田参軍

別紙

戦事増俸之義、今般之役ニ限リ三月十五日ヨリ左ノ通被下候旨、於高瀬御決定之由ヲ以テ、本月二日報知有之候ニ付、御通達可致旨神戸田中監督ヨリ電報中越候ニ付、此段及上申候也、

准士官以上本俸五分ノ二　下士以下四分ノ二　文官十七等以上五分ノ二　等外四分ノ二

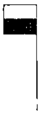
明治十年四月三日　長崎運輸局長黒川大佐

黒田参軍殿

一昨九日第一大隊第三中隊隈ノ庄着ヨリ直ニ宮地村ニ哨兵ヲ配布ス、

一本日モ哨兵配布ノ事、

四月十一日　晴

一本日ヨリ符合旗ヲ改メ替ヘル、図ノ如シ、

一是ヨリ先キ八ツ代・宮ノ原・古麓等ヘ分遣ノ我兵、本日午前八時迄ニ当隈ノ庄町ニ帰着、

一川村参軍宇土駅ニ来ル、

一哨兵配布前日ノ如シ、

一午後第五時半、明十二日午前第一時半進撃之旨被達候事、

四月十二日　晴

一午前第二時半、砲隊護衛シ第一大隊右半隊隈ノ庄ヲ出発シテ、部場・田口・吉田等ノ渡シ場ヨリ緑川ヲ渉リ進撃ス、左半隊モ右同様犬塚山・馨(めどぎ)町村ノ渡シ場ヨリ緑川ヲ渉リ進撃ス、

一午前第五時、第二大隊隈ノ庄出発、同時予哨隊旗ト共ニ隈ノ庄ヲ出発、宮地村ニ至リ暫時集合、夫ヨリ同処出発、午前第八時三十分、築嶋(マヽ)郡築地村ニ至リ、野尻義八郎方ニ駐在ス（此日第二大隊ハ惣軍ノ援隊トナル、然ルニ戦隊大勝利、依テ第二大隊ノ諸隊ハ、午後三時二十分隈ノ庄ニ帰ル）

一午前第九時頃、高嶋少将築地村駐在処ニ来ル、

一午前第十時半、御船町・小阪村ニ賊放火ス、

一午前第八時、(上益城郡)上島村・上仲間村・犬塚山等ヲ第一大隊左半隊ニテ乗取ル、賊敗走、分捕品アリ、

一午前第十一時半、部場山ヨリ御船町・小阪等ヲ第一大隊右半隊ニテ乗取ル、賊敗走（賊斃ル、者三十余名、分捕品幷俘リ、コ等多ノ、我兵即死一名、傷三名）

一午後第一時、黒田参軍築地村野尻義八郎方ニ来リ、予同道上島村ノ堤ニ至リ、敵地ノ景況ヲ見ル、

一午後第二時過、第一大隊ニ命シ、千原・耆町ノ堤ニ大（此千原・耆町両村ヲ之レヨリ先キ熊本県ニ改正ノテ千町村ト云）哨兵ヲ配布セシム、第一哨隊ハ御舟ヨリ犬塚山迄ニ哨兵ヲ配布スト云、

一午後四時、築地村ニ帰リ、野尻義八郎ニ茶代トシテ金一円ヲ遣ス、夫ヨリ直ニ軍旗ヲ護シテ同処出立、午後五時隈ノ庄本部ニカヘル、

一午後五時過、予本陣ニ至ル、

一本日各中隊ヘ白菊銘ノ酒五樽ヲ賜ル、

一昨十一日迄ノ戦争始末、別紙之通ニ候間、此段御届申候也、

四月十二日　　　陸軍少佐井上光

黒木中佐殿

別紙

四月六日午後第一時三十分、八ツ代へ出兵ノ命ヲ奉シ直ニ出兵、途中松橋ニ於テ第二旅団山崎大尉引率ノ一中隊ト合シ、鏡村ニ進軍、同処ニ於テ参謀岡澤(精)中佐ニ出会、夫ヨリ八ツ代ニ進軍、午後第十時四十分、八ツ代ニ着、該夜同処ニ宿陣、

同七日午前第四時三十分古麓ニ進軍、同第五時三十分開戦、我一小隊ヲ以テ敵ノ正面及左側ニ依テ進撃、彼我ノ砲声殊ニ烈シク、未タ賊ノ正面ヲ撃破スル能ハス、依テ援隊ニ備ヘタル半小隊ヲ以テ賊左側山上ニ昇セ、側方ヲ狙撃シ進ム、賊正面ノ攻撃支ユル能ハス、午前第六時五十分要地ヲ捨テ敗走ス、賊斃ル、者数多、該隊伍長弐名疵傷ヲ受ルノミ、

同午前第七時、フルタ(古田)村ニ大哨兵ヲ布、同午前第九時、都合ニ寄該隊一小隊ヲ以第二中隊へ交替、左一小隊ヲ第二中隊ノ援隊トシ、右一小隊ヲ以テ猫谷山ニ派遣ス、

同八日午前第十時半、左小隊ヲ以テ人吉本道ヨリ小川村ヲ経、阪本村ニ進撃ノ筈ニテ進軍ノ処、賊一人ヲ見ス、全ク遁逃シテ処在ヲシラス、依テ小川村ニ引揚ケ、該夜舎営ス、此日捕縛スル賊二人、降伏一人、

同九日、猫谷山一小隊・小川村一小隊ト共ニ、八ツ代ニ交代引揚、該夜八ツ代ニ舎営、

同十日午前第五時八ツ代ヲ発、午後第三時宇土駅ニ着、該夜舎営、

同十一日、午前第六時宇土ヲ発、同午前第八時二十分隈ノ庄ニ着、

右御届申候也、

四月十一日　　第二ノ第三中隊

渡邊大尉

井上少佐殿

同四月七日、フルタ(古田)村ニテ重傷入院後死伍長　谷　義経

軽傷　　伍長　甲良抵行

別紙

四月六日、午前第三時宇十町ヲ発シ八ツ代ニ越(ママ)キ、鏡村ヲ過ルニ及ンテ大隊長ノ命ヲ奉シ宮ノ原ニ至リ、即時同処ヲ発シ、中隊ヲ二分ニシ一ハ山手ヨリ向ヒ、一ハ大路ヨリ諸村ニ向テ進軍セシ処ノ賊兵ヲ逐ヒ、遂ニ隈川ノ堤ニ廻ル、此時日既ニ没スルヲ以、哨兵ヲ同堤ニ配布ス、

同六日、早朝同処ノ哨兵線ヲ進メ、先頭ニ立テ古麓村ニアル敵ヲ落シ、逃兵ヲ逐ヒ、又残兵ヲ撃殺ス、即チ

当所ノ哨兵線ヲ守ル、
同七日、午前探偵ヲ藤田村辺ニ出シ、我軍人ノ死傷迷亡セシ者ヲ得ル、午後第四時、一大隊ト交代ス、

十年四月七日　　第二大隊第二中隊

井上少佐殿

一今般将校軍隊為御慰問、侍従片岡利和ヲ　勅使トシテ被差下、佐官以下兵卒へ酒肴料并負傷者へハ別段ニ
皇太后宮　皇后宮女官等ヨリ、綿撒糸五十反・白木綿二百五十反・煙草四百斤・葡萄酒等ヲ下賜ス、

四月十三日　晴

一大哨兵配布昨日ノ如シ、今朝第二大隊ト交代シ、第一大隊ハ引揚隈ノ庄ニカヘル、
一午後第四時、予本陣ニイタル、
一戦地景況別紙之通届出候間、此段御届申候也、

四月十三日　　陸軍少佐阪井重季

陸軍中佐黒木為楨殿

別紙

三日、馬ノ瀬村緑川辺ニ添テ大哨兵配布、
四日、正午大哨兵ヲ引揚ケ宇土ニ帰ル、
五日、午前第二時、当隊宮ノ原ニ分遣、八ツ代ヨリ松橋本営ノ連絡ヲ保チ、且種山村ノ要路ヲ約スヘキノ命アリ、午前第四時宇土ヲ出発、正午宮ノ原ニ着ス、一半隊ヲ本多少尉試補引率シ、巡察斥候トシテ種山村ニ出ス、午後第五時頃異状ナキヲ帰リ報ス、同七時、八ツ代ヨリ苦戦ノ報アリ、同七時二十分宮ノ原ヲ発シテ八ツ代ニ行ク、午後第十一時着ス、
同六日、午前第二時一小隊ヲ猫谷山ニ出ス、二小隊ヲシテ八ツ代ニ援隊トス、払暁諸口進撃、第二小隊ヲ荻原渡シ口ニ出シ、半隊ヲ分ツテ一ヲ宮地村ニ出シ、一ヲ隈川堤ニ添テ進マシム、暫クシテ宮地村ノ中央ノ兵退却、依テ我隊左翼ニ兵ナシ、不得已隈川堤ニ引揚ケ、退テ横手村隈川堤ニ至ル、八ツ代全隊ノ敗兵又不可収、依テ我一分隊ヲ是ニ残シ、三分隊ヲ以テ本道ニ出シ、今一層力戦セント欲スルニ、豈計ンヤ、賊兵隈川ヲ渡リ侵入ノ急報至ル、依テ急ニ三分隊ヲ以テ本ノ位置ニ帰シ之レヲ防ク、賊敗走ス、而シテ本道敗兵モ漸ク鋭気ヲ復シ、再ヒ進テ賊ヲ攻撃ス、当中隊モ又堤ヲ進テ遂ニ荻原ヲ復ス、午後第五時頃、宇土ヨリ永田・井上両少佐援兵ヲ率テ来ル、第一小隊之ト協力、遂ニ本道ヨリ進テ全ク宮地村ヲ復ス(第一小隊ハ、前夜ヨリ猫谷

山ニ出テ進撃スル筈ノ処、山嶮ニシテ賊要地ニ依テ不能進、第五時頃山ヨリ降リテ永田少佐ノ隊ト合併ス、是(日脱カ)疵傷別紙ノ如ク、

七日、午前五時ヨリ諸道進テ古麓ノ賊ヲ撃ツ、当中隊二手ニ分ツ、第一小隊ヲ本道ヨリ、第二小隊仝半隊ヲ荻原ニ残シ、半隊ヲ以テ隈川堤ヨリ進マシム、賊兵力不及狼狽シ走ル、当隊死傷ナシ、賊兵ノ死傷捕獲甚多シ、午前第十一時休戦、八ツ代ニ帰ル、

八日、午前第十二時ヨリ進撃、古麓ニ行テ諸隊ヲ部署セント欲スルニ、探偵報スルニ、三里以内ニ賊兵ナキヲ以テス、依テ或ル一中隊ヲ阪本ニ出シ、当隊ハ古麓ノ大哨兵トナル、余ハ皆八ツ代ニ帰ル、□(本ノ儘)説ク、古麓隈川向イ高田(こうだ)村某家屋、過日来賊兵ノ本営トナスニ依テ、一分隊ヲ率テ行テ之ヲ視ルニ、賊ノ輜重弐荷・弾薬七箱アリ、則チ分捕テ帰ル、

九日、昨日来大哨兵配布、午後東京鎮台兵ト交換、我隊ハ八ツ代ニ引揚ケ、午後七時当隊宇土本陣ニ復隊ノ命アリ、

十日、午前第五時整列、八ツ代ヲ発シテ順路宇土ニ帰ル(行程七里)、我本隊ハ已ニ宇土ヲ発シテ隈ノ庄ニ進ムヲ聞、我隊モ逐テ隈ノ庄ニ行ントス、然ルニ本日風雨泥土甚シク、兵士疲ルヽヲ以テ、参謀官ヨリ宇土ニ一泊ノ命アリ、則チ脚ヲ宇土ニ留ム、

十一日、午前第七時整列、宇土ヲ発シテ午前第十時隈ノ庄本隊ニ着ス(行程二里)、

右御届申候也、

四月十二日　第一大隊第四中隊

阪井少佐殿

別紙負傷者人名

第一第四中隊

八ツ代口ヨリ古麓村ニ進撃ノ際重傷、二等卒　高瀬金助

同　同隊　重傷　同　和田伴右衛門

一戦地景況別紙之通届出候間、此段御届申候也、

四月十三日　陸軍少佐阪井重季

陸軍中佐黒木為楨殿

別紙

四月十二日、午前第二時半隈ノ庄町出発、同五時半頃援隊ニテ田口村ニ至ル、漸ク進テ緑川ヲ渉リ、古閑村ニ至リ暫時此処ニ見合セ、賊カ拠ル処ノ古閑山未タ抜

ケス、然ルヲ此援隊ノ処ヨリ大砲四五発ヲ放ツ、夫ヨリ大隊長ノ命ヲ以テ、第一中隊ヲ賊ノ右翼ニ紆回シ、第二中隊ノ内一小隊ハ之レニ連絡シ、賊ノ胸壁ニ向ヒ、直ニ進テ古閑山ニ登リ胸壁ヲ取リ、進撃シテ御船ニ至ル、賊放火シテ敗走ス、此日傷者二名、

重傷　伍　長　高田新二

同　一等卒　堤吉右衛門

右昨十二日御船進撃ノ形況御届申候也、

四月十三日　中尉　斎藤太郎

阪井少佐殿

別紙

四月十二日、午前第八時半頃緑川ヲ渉リ、柴原村（上益城郡）ヨリ進撃、同十時頃瀧川（上益城郡）越ノ山ヲ攻撃シ、同十一時頃全ク賊ヲ逐ヒ、山ヲ下テ進撃シ、遂ニ吉田橋ニ至リ候間、此段御届申候也、

此日即死一名第一中隊一等卒　西村徳蔵

四月十二日　第一ノ第一中隊　内藤少尉

阪井少佐殿

別紙

四月十二日、午前第二時半、諸隊部署終テ諸道進撃、我隊ハ（カツトリング）砲ヲ保護シテ薈町村渡場ニ進ム、川向フ上仲間村（上益城郡）ニ胸壁ヲ作リ、賊兵三十四名之レヲ守ル、午前第五時戦ヒヲ開キ、猛烈ノ火撃ヲナス、賊兵退却、則チ川ヲ渡リ上仲間ヲ乗取ル、賊兵仲ノ瀬橋ニ退キ、橋ヲ燃キ落シテ之レヲ守ル、我隊一半隊ヲ薈町（下益城郡）緑川堤ニ沿テ大哨兵ヲ配布之ヲ守ル、夜ニ入リ上仲間ノ一半隊ヲ薈町ニ引揚ケ、上仲間堤上ニ終夜土民ヲシテ煬火ヲナサシム、

十三日、昨日ニ同シ、払暁ヨリ又一半隊ヲ上仲間ニ分遣ス、午前十時、同聯隊第二大隊第三中隊ト交換、我隊隈（下益城郡）ノ庄ニ帰ル、

右御届申候也、

四月十三日　大尉山田正

阪井少佐殿

別紙

四月十二日、午前第二時半、宮地村掲示一町前ニテ整列、同四時三十分ヨリ犬塚山ヲ進撃、同第五時三十分吉野山分遣哨ト合シテ緑川堤ニ進テ直ニ開戦、同第六

時二十五分、賊大敗シテ犬塚山ヲ下リ、山麓ノ塹濠ニ拠テ防グ、且ツ賊ノ残兵川下ニ下ルニヨリ、堤ノ右翼ヨリ梯陣ヲ以左翼ニ兵ヲ送ル、而シテ犬塚山下ノ渡場ヨリ若干兵ヲ渡ラシメ、塁ヲ攻撃セシメ、暫時ニシテ抜キ敗敵ヲ追撃セシム、敵ノ大哨上島村(上益城郡)ヲ抜キ分捕品アリ、直ニ全兵ヲ渡シテ上島幷鯰(なまず)村ニ哨兵ヲ配布シ、御舟川堤ヲ守ル、午後第三時、哨兵線ノ改正アリテ緑川堤ニ拠リ、塹濠ヲ築キ一部ノ兵ヲ配布シ、他ノ一部ヲ以テ堤ニ拠リ、歩哨ヲ配布シテ守ル、

右御届申候也、

四月十三日　　第三中隊　大石大尉

阪井少佐殿

四月十四日　正午十二時ヨリ雨降

一大哨兵配布昨日ノ如シ、第一大隊ト交代シ、第二大隊ハ午前十時引揚ケ隈ノ庄ニカヘル、

一午前第九時半、第二旅団且ツ黒川大佐隊等ニテ川尻(熊本市)ヲ乗取ルト、午前第十一時、第一旅団本陣ニ報知アリ、

此日太郎兵衛渡ノヲ渉リ、ミカン村ニ至ルノ間石畳ノテ水除アリ、此処ニテ甚敷劇戦アリ、

一午後一時、千町村(下益城郡)哨兵ヲ見廻リノ為メ、芝大尉緑川ニ至ル、賊敗走ノ事ヲ聞キ、下無田村(熊本市)ニ至ル、土人ニ問フニ、賊川尻ヲ敗走シテ砂取町ニ至ル、且ツ中ノ瀬村出小家ニ肥後士族澤村某隊長ニテ三十二名、午後一時過迄居ル、官兵キベ(木部)村ノ渡シ場ニ来ルト聞テ、是亦砂取町ニ走ルト云、依テ隈ノ庄本部ニカヘリ予ニ報ス、

一我哨兵所ヨリ斥候ヲ出ス、第一ノ第四中隊山田大尉二分隊ヲ率ヒ、命ナク午後第五時熊本城ニイタル、

一緑川哨兵ヲ賊敗走ニ付、下無田村ノ堤ニ更ニ配布セシム、

一午後第九時、第二大隊第三中隊ヲ鯰村、中ノ瀬村ニ援隊トシテ差遣ス、

一本日、酒肴料下賜ノ義云々、第一旅団長高嶋少将ヨリ被達、

四月十五日　雨　午前第八時雨止ム

一本日午前第三時、熊本ヘ進軍候ニ付テハ、其隊悉皆鯰村ヘ出張可致、此旨相達候事、

四月十五日　　司令長官高嶋少将

一払暁惣員隈ノ庄町ヲ出発、午前六時過中ノ瀬村出小家ニ至リ、高嶋少将・岡澤中佐等ニ面会、賊景況幷進軍等議ス、

一午前第八時三十分、熊本安政橋ニ向ケ水善寺(前)中道ヨリ進軍ス、賊近傍ニ見ヘス、依テ午前第十時半安政橋内ニ繰込ム、城中ヨリ中尉黒澤順之来リ、先導シテ予随従ノ者等ハ、先キニ城内本営参謀部ニ至リ、谷少将・参謀・佐官等ニ面会シ、是迄籠城苦戦ノ事情ヲ審ニス、暫時シテ黒田参軍、続テ高嶋少将同処ニ来ル、右同時我第二腁隊城中ニ繰込ミ、当夜腁隊営ニ宿ス、

一正午十二時、黒田参軍県庁ニ至ル、県庁ハ城内ニアリ、

一是ヨリ前、谷少将肩ニ軽傷ヲ受ケ、即今保養中、與倉中佐ハ重傷ヲ受ケ、療養中死ス、其余下士卒死傷多分アリト云、

一本日城内へ　勅使片岡利和為御慰問来ル、

一午後三時、城北出町山伏塚ノ方ニ戦ヒヲ初メタリ、城兵大小銃ヲ放ツ、暫時ニシテ止戦、

一午後六時頃、植木口ヨリ斥候トシテ二十名余ヲ率ヒ、少尉試補某熊本城ニ来ル、跡ヨリ一小隊来ル筈ノ処、賊ノ北クルヲ追撃スト云、

一昨十四日午前第十一時頃、城兵賊ヲ討テ花岡山ヲ乗取ルト云、

四月十六日　朝霧　晴

一午前第六時、高橋町(熊本市)ニ我第二腁隊ヲ転移スヘキ命アリ、依テ大島軍吏補ヲ以宿割トシテ先キニ差遣ス、

一植木口ノ賊潰走ニ付、近衛兵城内ニ入ル、大山少将モ城ニ来ル、

一午前第九時十分、我隊熊本城ヲ繰出シ、同第十一時高橋町商蜷川芳平方ニ着、即チ同家ヲ腁隊本部トス、各中隊ハ同町処々ニ宿陣ス、第一腁隊モ着陣、第一旅団長ヲ初メ附属ノ者着陣ス、此処人家三百五十軒余ト云、熊本ヲ去ル一里十八丁、隈ノ庄ヘ三里余、川尻ヘ二里、宇土ヘ四里ト云、

一午前第九時三十分、山縣参軍熊本城ニ来ルコトヲ芝大尉予報ス、

一午前第十一時五十分、高橋町市街ニ警備兵其隊ヨリ差出スヘク旨、第一旅団長高嶋少将ヨリ達セラル、直ニ芝大尉ヲ以夫々手順ス、

一正午十二時本陣ヨリ使アリ、依テ予本陣ニ至ル、

一同十二時、当高橋本陣之義川尻ヘ本日転移候条、此段可相心得旨第一旅団長ヨリ被達、

一正午十二時過キ、命ニヨリテ第一大隊第一中隊ヲ小島村ヘ分遣ス、

一午後第三時、第一旅団本部ヨリ各隊ヘ酒三樽ヲ下賜アリ、
一午後第四時、当旅団ヲ宇土駅ヘ転陣候ニ付、其隊悉皆明十七日払暁宇土駅ヘ引揚可申、此段相達候事、
　十年四月十六日　　第一旅団司令長官高嶋少将
一午後第四時、熊本県八等警部長野九郎外ニ巡査一名、高橋町本部ニ来リ、捕獲スル神風党三十九名吟味ノ上受取トシテ来ルト云、安永少尉立合、同五時半右人員引渡シ、熊本県ヘ一分隊ヲ以護送候事、
一今朝不審ノ者三十九名ヲ捕獲候ニ付、熊本県ヘ取調之義掛合候事、
一午後第八時、高橋町神風党所持スル兵器悉皆戸長ニ預ケ置、弾薬ハ川ニ投入候事、
一今般熊本城下群集ノ賊徒悉ク掃攘シ、尚潰散ノ賊モ不日鎮定可相成、付テハ人民安堵シ、各其職等ヲ営ミ可申、此旨更ニ諭達候事、
　明治十年四月十六日　　八代口征討総督本営

四月十七日　雨　（午前第十一時半雨止ム、午後第二時又雨降、午後第五時頃ヨリ又雨止ム）
一午前第四時頃ヨリ雨降、
一午前第六時、予高橋町ヲ出発、同第十時十分浜街道ヨリ太兵衛（マ、郎脱カ）渡シ場ヨリ宇土駅ニ着、我第二聠隊モ着、尤着ニ前後アリ、
一午前十分（マ、）着、直ニ第一旅団本陣ニ至ル、夫ヨリ同処本一丁目西口士族小畑宗憲方ニ至リ、第二聠隊本部トス、第一大隊ハ当宇土駅ヲ警備ス、第二大隊ハ直ニ松橋ヘ分遣セシム、
一昨十六日、第一大隊第一中隊小島村分遣中薩州田布施（日置郡）新川ノ者、六反帆ノ船ニ三人乗込、塩魚・玉子等ヲ積込、其他賊ニ遣ス書翰等ヲ所持ス、不審ニ付縛シテ第一旅団本部ニ護送ス、
一本日第一聠隊ハ川尻ニ第一中隊ヲ分遣ス、
一第一　第二　第三　第四旅団
賊徒熊城ニ逼リ猖獗スルノ際、背撃各旅団ノ将卒嶮ヲ犯シテ奮戦シ、群賊ノ囲ヲ掃攘シ、竟ニ能ク該城ニ連絡ヲ取リ、前面ノ本軍ト会合シ背撃ノ目途ヲ達ス、即チ将卒ノ忠勇尽力ニ因ルモノナリ、今要地ヲ守備シ、分散ノ賊ヲ追撃スル等ノ方略ハ、即チ総督本営ノ令ヲ俟ツモノナリ、然ラハ各団ノ将卒休戦ニ弛マス、前捷ニ誇ラス、自ラ守リテ行状方正、以テ軍威ヲ傷害スルコトナキハ固ヨリ確信スル所ナリト雖、尚各旅団長ニ

於テ所轄ノ兵隊へ厳重告諭可致、此旨相達候事、
　明治十年四月十六日　　征討参軍黒田清隆
右別紙ヲ添、高嶋少将ヨリ被達、同十七日、
一各旅団
昨十五日、当営ヲ川尻町へ転移候条、此旨相達候也、
　明治十年四月十六日　　本営
右之趣第一旅団長高嶋少将ヨリ四月十七日被達、
一第一　第二　第三旅団
黒川大佐ニ属スル第三旅団ハ、第四旅団ト改称候条、
此旨相達候也、
　明治十年四月十五日　　黒田参軍
右之趣高嶋少将ヨリ四月十七日達セラル、
一陸軍中尉清水軌郷、別働隊第一旅団附被仰付候旨、第
一旅団本陣ヨリ達セラル、
一第一　第二　第三　第四旅団
這般前後ノ惣軍相合、総督宮熊本鎮台へ転営ニ付、向
後八ツ代口各旅団ニ於テモ、直ニ総督府ノ指揮ヲ可受、
此旨相達候事、
　明治十年四月十七日　　黒田征討参軍
一九州各県へ
這般熊本城下ノ賊徒悉ク征討、残賊矢部ヲ経日向路へ
脱逃候ニ付テハ、自然其県下へ潜伏ノ儀モ難計候条、
厳重探索ヲ遂ケ、無遺漏捕縛可致候、此旨相達候也、
　十年四月十六日　　征討総督本営
右四月十七日、第一旅団長高嶋少将ヨリ達セラル、
四月十八日　晴
一午前第七時過、新宮中主理第四旅団附被申付、八ツ代
右同団本陣ニ向ケ宇土駅発足、
一午後第六時、予第一旅団本陣ニ至リ、高嶋少将ト軍事
ヲ議ス、
一午後第七時、本部ニカヘル、
一去ル十二日乗取ル部場山・御舟村等、再ヒ賊ノ有トナ
ル、依テ明十九日進撃ニ付、明午前第三時一大隊当宇
土ヲ出発、吉野山ニ至リ援隊トナルベキノ旨ヲ、第一
大隊長阪井少佐ニ達ス、再ヒ賊ノ有トナルハ、軍人ノ
怠慢ニ出ルモノカ、
一第四中隊一等卒小野徳太郎、過ル十四日著町村ヨリ熊
城へ連絡ノ際、負傷候旨第一大隊長ヨリ届出ル、
一少尉試補三宅環、去月三十日戦闘ノ際負傷致シ、療養
ヲ加へ全快ニ付、過ル十四日ヨリ出務致シ候旨、第一

旅団高嶋少将へ届出ル、
一明十九日ヨリ旗改定并記号・暗号別紙之通リ達セラレ、
直ニ我駢隊ニ達ス、

別紙

喇叭　問第三大隊ロフラン　答第一大隊ロフラン

別紙

記号　問円形　答横一文字

丁ノ日　赤　半ノ日　白

別紙　四月十七日ヨリ二十日迄暗号

不比等（フヒト）　十七日　富士（フジ）
義満（ヨシミツ）　十八日　余吾（ヨゴ）
顕家（アキイエ）　十九日　飛鳥（アスカ）
高望　二十日　垂井（タルイ）
預備輝虎（テルトラ）　天満（テンマ）

丁ノ日　赤旗
半ノ日　白旗

一陸軍少将山田顕義、出征別働隊第一・第二・第三・第
四旅団総轄被仰付候事、
右之通被仰付候間、為心得此旨相達候也、
四月十八日　山縣参軍

四月十九日　晴

一午前第三時、阪井少佐三中隊ヲ引率シ、宇土ヲ発シテ
吉野村ニ至ル、
一午前第五時過、第一大隊ノ第三中隊軍旗ヲ護シ、予ト
共ニ宇土ヲ出発、同七時隈ノ庄ニ着、第二旅団本陣ニ
至リ山田少将ニ面会、軍議ヲ問フ、同七時十五分予隈
ノ庄ヲ人力車ニテ発シ、又宇土第一旅団本陣ニカヘリ
高嶋少将ニ面会シ、山田少将ノ軍議且ツ賊地ノ景況ヲ
談ス、同十時半再ヒ宇土ヲ発シ、同十一時四十分隈ノ
庄ニ至リ、二ノ町下西岡傳方ヲ仮ニ駢隊本部トス、第
三中隊軍旗護兵モ同町ニ宿陣ス、
一今朝阪井少佐ノ引率スル第一中隊・第二中隊ヲ吉野村
ニ宿陣セシメ、第四中隊ヲ隈ノ庄ニ引揚ケ宿陣セシム、
一明二十日諸道大進撃ノ命アリ、

四月二十日　晴

一払暁ヨリ熊本ノ方ノ諸隊ハ、本道ヨリ木山・健宮ニ向
テ進撃ス、第二旅団・第三旅団ハ部場山・御舟村ニ向
テ進撃、予等午前第五時隈ノ庄ヨリ軍旗ヲ護シ上益城
郡犬塚山ニ至リ、我第一大隊ヲ率ヒ、上島村ノ堤ヨリ
御舟川ノ堤ヲ進ミ、小阪村八龍川堤ヨリ麦畑ニ撤布シ、

甘木・下高野・上高野・木ノ倉・片志和等各村ノ賊ニ当ル、午前八時頃戦ヒヲ開キ、僅カニ二時間余ニシテ賊大敗シテ西木ノ倉ニ向テ遁逃ス、時午前十時四十分ナリ、此ノ戦ヒ、我隊傷ヲ負フ者兵卒三名ナリ、外ニ人夫壱名負傷、

一今朝部場山・御舟村ニ当ル戦ヒ、一時大小銃ノ声甚盛ナリ、

一今朝熊本ヨリ本道ニ当リ、大小銃ノ声一時甚盛ナリ、

一午前十一時四十分、御舟村第三旅団本陣ニ至、高嶋・川路両少将ニ面会、夫ヨリ小阪村ニテ午飯ヲ喫ス、時正午十二時過ナリ、夫ヨリ上島村ニ至リ、郷士石阪眞九郎方ヲ我聠隊ノ仮本部トス、

一午後第四時頃我第一大隊モ小阪村ヲ引揚、上島村ニ来リ宿陣ス、尤第一中隊ハ家ノ都合ニ依テ西上田村ニ宿陣ス、

一茨木中佐ニ属スル第一聠隊ノ内二中隊、今朝健宮ニ向ヒ賊ニ当ル、然ルニ午後劇戦ナルヲ以、同聠隊ニ援兵ヲ乞フ、依テ直ニ一中隊ヲ差遣ス、此戦日没マテ甚盛ナリ、夜ニ入止戦、

一明二十一日ヨリ一週間、暗号別紙之通被定候ニ付、此旨相達候事、

明治十年四月二十日　　高嶋少将

別紙

来ル二十一日ヨリ一週間、暗号別紙之通相定候条、此旨相達候也、

十年四月十八日　　総督本営

別働隊各旅団

追テ、写取之上早速順達可致候事、

別紙

四月二十一日ヨリ同二十七日ニ至ル暗号、

	問	答
廿一日	熾仁(タルヒト)	滴水(タルミヅ)
廿二日	有朋(アリトモ)	有馬(アリマ)
廿三日	清隆(キヨズミ)	木山(キヤマ)
廿四日	純義(スミヨシ)	墨陀(スミダ)
廿五日	鎮雄(シズヲ)	賤ケ岳(ノヅガダケ)
廿六日	巌(イワヲ)	伊倉(イクラ)
廿七日	梧楼(ゴロウ)	五島(ゴシマ)
預備	顕義(アキヨシ)	秋月(アキヅキ)

一本日戦争中賊ヲ捕獲スル三名、皆肥後ノ人ナリ、内一

名熊本向ヒ町小島屋卯平ト云者アリ、糺問スルニ、桐野利秋ハ川尻敗走後木山(上益城郡)ニヲル、西郷隆盛ハ矢部(上益城郡)へ向ケ惣軍三分ノ二ヲ引率シ去ル、当時惣軍一万五六千アリ、木山ヨリ部場・御舟ニ至ル人員四千余アリ、肥後人賊ニ加ハル者多分アリ、何レ敗軍ニ付薩摩ニ惣軍引ト云、

一捕獲人川上某云、賊軍三分ニシ、一ツヲ隆盛率ヒテ矢部ニ陣ス、一ツハ桐野率ヒテ木山并健宮(たけみや)ニ拠ル、一ツハ熊本人某指揮シテ部場・御舟・甘木等ニ拠ルト云、然レトモ右両人ノ云処実否不詳、

四月二十一日　晴

一午前第六時二十分、芝大尉ヲ御舟村第二旅団本陣ニ遣シ、我哨隊進退ヲ伺フニ、山田少将哨線巡察中ニ付、山川中佐(浩)ニ委細申置、午後第五時上島村本部ニカヘリ、右ノ次第ヲ予ニ報ス、

一午前第六時半、山田大尉・斎藤中尉・眞鍋本承等上島村ヲ発シ、健宮村近郷ニ至リ戦地ノ景況ヲ見ル、同村健軍社前八丁馬場ニテ熊城ノ兵ニ聞クニ、昨夜賊守地ヲ捨テ遁逃ス、本日午前官兵賊ノ守地ヲ取ル、然ルニ昨日ノ戦争甚劇戦ナリト云、健宮八丁馬場ノ北川堤ヨリ南廣木村ニ至ル迄ニ、賊ノ台場ヲ数処ヘアリ、実ニ堅固至極ノ地ナリト認メ、正午十二時本部ニカヘリ、各見聞ノ儘ヲ予ニ報ス、

一午後第五時二十分、岡澤中佐上島村本部ニ来リ、本日熊本ノ本道ヨリ進撃、木山ヲ乗取リ賊敗走ス、山縣参軍同地ニ来ルコトヲ予ニ報シ、直ニ上島村ヲ発シテ本陣ニカヘル、

一明廿二日午前第七時三十分、第一大隊ヲ隈ノ庄ニ引揚ケ、哨隊本部ヲ宇土ニ引揚ケノ命アリ、

一本日井上少佐上島村本部ニ来リ、松橋分遣ノ第二大隊ノ二中隊ヲ宇土ニ引揚クル旨ヲ予ニ報ス、

一別紙ノ通城門守則相定候旨、熊本鎮台ヨリ届出候ニ付、為心得此旨相達候事、

明治十年四月十九日　　　　総督本営

山田少将殿

追テ、其地方各旅団へモ可相達候事、

別紙

城門守則

第一条　各柵門ハ復(複)哨ヲ置キ、厳ニ通行ヲ改メ、海陸軍定規ノ徽章アル者并印鑑所持ノ者ヲ除クノ

外、通行ヲ禁ス、
第二条　無章無印鑑ノ輩通行セント欲スル者ハ、所用ノ属スル地ニ送付スベシ、
第三条　人力車ニテ入来ノ輩ハ、車夫ト共ニ入城ヲ禁ス、故ニ柵門外ニ於テ下乗或ハ車夫ヲ去リ、或ハ留置カシムベシ、
第四条　歩哨ノ外更ニ動哨ヲ放チ、夜間ハ殊ニ厳ヲ加フベシ、
第五条　哨所ノ近傍ニ当リ失火或ハ異状ノ件有之トキハ、其司令ハ勿論、速ニ参謀部ヘ報告スベシ、
第六条　夜間ハ厳密ニ問査ヲ行ヒ、若シ違フ者ハ法ノ如ク処置スベシ、
第七条　当今厳戒ノ日当リ、人馬数多出入雑踏ヲ極メ、此際敵ノ間諜等如何ナル手段ヲ以テ可入込モ又計ラレス、尤注意スベキノ要件トス、
第八条　其容貌言語等、怪異曖昧ノ者アルトキハ、反覆訊問シ、疑ハシキ者ハ参謀部ニ送付スベシ、若シ拒ム者ハ捕縛スルモ妨ケナシ、
第九条　前条ノ如キ厳戒ヲ加フルヲ以テ、諸哨一切敬礼ニ不及モノトス、

此守則ハ令官所持スル者ニシテ、参謀部ノ乞ニ依リ見聞ニ供スル者トス、
明治十年四月十九日
右守則高嶋少将ヨリ本日被達候事、
外ニ捕縛人口供・探偵人ノ申出等ノ書類之レヲ略ス、
然レトモ囚虜ノ口供大略ヲ左ニ書ス、
○肥後人ノ賊ニ与ミセシ者二千余人アリ、池部吉十郎・松崎宇平治手負、即今平癒、池部隊ト号ス、大略千人ナルヘシ、宮崎八郎・崎村常雄・手川嘉久次郎・有馬源内、右協同隊三百ニタラス、賊ノ総軍ハ今ニ一万モアルヘシト云、

四月廿二日　晴
一午前第七時過、第一大隊上島村ヲ引揚隈ノ庄ニ転移ス、
一右同刻上島村我第二聯隊ノ本部ヲ引揚ケ、午前第十時三十分宇土駅ニ転シ、同処石ノ瀬町木村又一郎方ヲ聯隊本部トス、
一宇土駅着直ニ第一旅団本陣ニ至リ、高嶋少将ニ面会ス、
一午前第十一時、前田大尉傷全癒ニ付、長崎病院ヨリカヘリ本部ニ来ル、暫時ニシテ隈ノ庄ニアル第一大隊本部ニ至ル、

一黒田参軍ヨリ諸将校ヘビール一瓶宛ヲ贈ル、本日夫〻分与ス、
一一昨二十日進撃ノ際捕縛スル賊三名、第一旅団本陣ヘ芝大尉ヲ以テ引渡ス、
一大尉山田積之、去月廿一日戦闘負傷ニ付、療治ヲ加全快シ、過ル十八日出務ノ旨高嶋少将ヘ届出ル、
四月二十三日　晴
一午前第八時過キ予本陣ニ至ル、同十時過キ本部ニカヘル、
一午前第十一時過キ、隈ノ庄ヨリ阪井少佐本部ニ来リ、公用ヲ談シ暫時ニシテ隈ノ庄ニ帰ル、此日下士昇進申立ノ書類ヲ差出ス、
一午後第四時三十分、岡澤中佐本部ニ来ル、
一午後第五時井上少佐来リ、下士昇進申立ノ書類ヲ差出ス、
一午後第六時過キ予本陣ニ至リ、高嶋少将ニ面会軍事ヲ議ス、同八時頃我本部ニカヘル、
一隈ノ庄ニ分遣ノ我第一大隊ヲ、明廿四日川尻町ニ転移スヘキ旨相達ス、
一松橋ニ分遣ノ第二大隊ノ第三中隊ヲ、宇土駅ヘ明廿四日転移致スヘキ旨相達ス、
一大尉前田隆禮、去月廿一日戦闘負傷療養ヲ加ヘ全快シ、昨二十二日ヨリ出務ノ旨、第一旅団長高嶋少将ヘ届出ル、
一少尉斎藤正貫、去月廿一日戦闘負傷療治ヲ加ヘ全快シ、本日ヨリ出務ノ旨、高嶋少将ヘ届出ル、
一第一大隊負傷者ノ内兵卒七名、全快出務ノ旨届出ル、
一別働隊第一旅団鹿児島ヘ出張申付候事、
明治十年四月廿二日　　征討総督本営
右之通本日高嶋少将ヨリ被達、
一明後廿五日鹿児島行ノ第一旅団乗船ノ内命アリ、川村参軍・大山少将鹿児島行被　仰付、海軍将卒モ参軍ニ随行ノ命ヲ拝ス、
一第四旅団ノ内近衛砲兵一小隊ト一分隊
一別働隊第五旅団ノ内、一大隊　上野大尉、一大隊　吉野大尉、教導団工兵　半大尉、
右鹿児島ヘ出張申付、出張中別働隊第一旅団ヘ編入申付候条、為心得此旨相達候事、
四月廿三日　　征討総督本営
高嶋少将殿

右之通可相心得旨、高嶋少将ヨリ午後九時頃達セラル、

四月二十四日　雨

一午前第七時過予本陣ニ至リ、高嶋少将ト軍事ヲ議シ、正午十二時過キ本部ニカヘル、

一下官本日征討参軍被免候旨、三条太政大臣ヨリ電報ヲ以テ被相達、総督府ヘハ御届致置候、右ハ総督府ヨリモ御達可相成候ヘ共、御承知ノ為メ申進候、尚今般御尽力速ニ平定ノ功ヲ奏シ候様祈念致候、且将校以下ヘモ御序ニ可然御致声有之度此段申進候也、

十年四月廿二日　黒田参議

高嶋少将殿

右之通高嶋少将ヨリ通知有之候事、

一我第二聯隊人員、昨二十三日取調、

惣員千五十五人、内訳

将校四十七　下士百廿九　兵卒七百九十三

喇叭四十九　看病人壱　従僕二十四

出仕壱　看病卒九　人夫二

聯隊付将校以下　十七　第一大隊付将校以下　十六

第一中隊将校以下　百三十　第二中隊将校以下　百三十六

第三中隊同　百四十九　第四中隊同　百三十四

第二大隊付将校以下　十九

第一中隊同　百五十五　第二中隊同　百四十七

第三中隊同　百五十五

計千五十五（ママ）

右本日人員表本陣ニ差出ス、

一午前第七時頃、第一大隊ヲ率ヒ隈ノ庄町ヲ出発、同第十時過キ川尻ニ転移ス、夫ヨリ阪井少佐川尻ヲ発シ、午後第一時三十分宇土駅本部ニ来リ、右ノ次第ヲ報ス、且又明廿五日乗船ノ都合ヲ尋問アリ、午後第三時過キ宇土ヲ発シ川尻ニ帰ル、

一午後三時頃松橋ヨリ明石軍医来リ、乗船ノ都合ヲ尋問アリ、直ニ松橋ニカヘル、

一本日畠山軍吏補再三来リ、諸荷物運輸ノ事談ス、

一今般鹿児島行ノ船名人員割左ノ通、

九州丸（松橋乗組）　乗込人員　第一聯隊千〇六十九人（武器弾薬官員二人　小計千〇七十一人）

玄海丸（小島乗組）　乗込人員　第二聯隊千〇〇二人　砲廠部（官員四人　銃工十六人　小使一人）　人夫二百人

会計部（官員十九人 人夫百人 小使四人）
軍医部（官員七人 看病卒廿九人）
小計千三百八十二人

高雄丸 小島乗組　乗込人員　本陣（官員十七人 小使四人）従者二人
会計部（官員六人 雇 一人 小使二人）
小計三十二人

惣計二千四百八十五人

来ル二十七日払暁、各艦一同鹿児島湾ヘ投錨之筈ニ付、即刻荷物之積込等ニ着手シ、兵隊ハ明廿五日夕方之潮ニ乗シ、九州丸ニテ松橋ヨリ、玄海丸ニテ小島ヨリ、潮時ヲ不誤乗組為致候様御達ニ付、則別紙之通部署相定候間、此旨為心得及廻達候也、

十年四月廿四日　第一旅団司令長官
高嶋少将

追テ小島ヨリ乗組之兵隊始メ、明日午前小島ニ打揃候様可致候事、

一　陸軍中尉斎藤太郎
任陸軍大尉

明治十年四月廿四日　征討総督本営

一　陸軍大尉斎藤太郎
出征別働隊第一旅団歩兵第二聯隊第一大隊第一中隊長
被仰付候事、

明治十年四月廿四日
征討総督本営

一任陸軍少尉　陸軍少尉試補沼田九八郎
一任陸軍少尉　同　粟津義夫
一任陸軍少尉　同　岡島均
一任陸軍少尉　同　桐山八郎

明治十年四月廿四日
右各通　征討総督本営

一　陸軍中尉　村井右京
第二聯隊第二中隊長心得被仰付候事、

一任陸軍中尉　陸軍少尉　安永脩
第二聯隊第二大隊副官吏ニ被仰付候事、
陸軍少尉試補伊藤伊萬太
同　越智通博
各通　同　三宅環

同　　十時虎雄
同　　福富孝元

右任陸軍少尉隊附如故、
前書之通本日御達相成、夫〻本人へ相達候条、為心得此旨相達候也、

十年四月廿四日　　陸軍少将高嶋鞆之助
別働隊第一旅団司令長官

一夜中第二大隊第一中隊兵卒長谷川平治変死ノ旨、該隊ヨリ届出候ニ付、芝大尉・荻野軍医副ニ命シ検屍為致候処、全ク自尽ニ相違無之、依テ埋葬執計方該隊へ申付候事、

但シ銃ヲ以テ自ラ咽喉ヲ打テ死ス、

四月二十五日　雨

一午前第四時、芝大尉宇土駅ヲ出発ス、午後第九時玄海丸ニ乗組ム、

一　　征討別働隊第二聠隊第二大隊兵卒
長谷川平治

右之者、今暁変死之旨該隊ヨリ届出候ニ付、検屍ヲ遂ケ候処、全ク自尽ニ相違無之、依テ埋葬執計方申付候、即チ別紙医官診断書相添此段御届申候也、四月廿五日

陸軍少将高嶋鞆之助殿

別紙略之

右届書午前六時三十分第一旅団本陣ニ出ス

一午前第七時本陣ニ至リ、夫ヨリ軍旗ヲ護シ宇土駅出発、緑川太郎兵衛渡ヲ渉リ、浜海道ヨリ午前十一時過小島(熊本市)村ニ至ル、第二大隊モ同シ、昨日ヨリノ雨降ニテ道路淤泥(おでい)通行ニ弁(マヽ)ナラス、

一午前第七時第一大隊ハ川尻ヲ出発、午前十時飽田郡小島村ニ至ル、此処ニテ諸隊暫時休息ス、此処人家百七十軒余リト云、

予等士族上村五藏方ニテ休息、午飯ヲ喫ス、

一是ヨリ前、佐土原ノ賊延岡ノ賊等五百名、小島村・百貫石等ヲ警備ス、然レトモ後チ木山・御舟・川尻ノ方ノ戦ヒニ出ルト云、

一小島村ヨリ百貫石へ三合、宇土町へ浜海道三リ、川尻町へ二リ、熊本へ二リト云、

一午後第三時半予小島村ヲ発シ百貫石ニ至リ、端船ニテ同六時十分玄海丸ニ乗船ス、続テ各中隊モ乗船、

四月二十六日　雨

一午前第七時、大島軍吏補乗船、

一午前第十時三十分、肥後国百貫石沖ヲ出帆、高雄丸ハ
前時出帆、

四月二十七日

一午前第六時三十分、鹿児島湾投錨、

一午前第六時四十五分、予ボートニテ高雄丸ニ至リ、高
嶋少将ニ面会、上陸ノ都合ヲ談ス、同七時過キ我船玄
海ニカヘリ、直ニ計官三名給養軍ニ命シ、宿処割并端
船都合執計ノ為上陸セシム、

一其船指揮有之迄、当鹿児島湾碇泊可有之旨、玄海丸ニ
相達ス、

一午前第十時過キヨリ第一大隊第一中隊ヨリ順次上陸セ
シム、然ルニ強風雨ニテ端船ノ自由ヲ得ス、仍テ漸ク
夜八時二十分第二大隊ハ上陸ス、

一正午十二時過キ予等上陸、直ニ本営ニ至リ川村参軍ニ
面会シ、川蒸気ヲ借用ス（但シ風雨ニテ端船不自由ナルカ故也）、

一当鹿児島ニ於テ各部宿処左之通、

○　第一旅団本陣・会計部共
右重久佐平方

○　歩兵第一聠隊第一大隊
右旧天文舘跡学校

○　同聠隊一大隊
右旧勘定所跡学校

○　歩兵第二聠隊
右県庁内小学校并同処蘭人教師スケブル室ヲ聠隊并両
大隊ノ本部トス、医官モ之レニヲル、

○　独立第一大隊上野率之
同　第二大隊吉村率之
右（英語学校 黒木屋敷）師範学校

○　砲兵隊・教導団工兵隊・近衛工兵隊
右鵜飼清太郎方

○　砲廠部
右塩見町長崎出張

○　征討本営
右長崎武八郎方

一今般第五旅団ヨリ当旅団ヘ編入相成候歩兵二大隊ノ義、
当地出張中ハ、出征別働隊第一旅団第一大隊第二大隊
ト名称候条、此旨為心得相達候事、

四月廿七日　高嶋少将

一為慰労酒肴下賜候条、会計部ヨリ可受取旨、高嶋少将
ヨリ被達、

一午後第二時頃串木野有馬孝太郎来リ、財部先ニ面会シテ云、賊ハ昨日串木野ヨリ十九名、蒲生郷ノ方ニ向ケ出発スト、又同郷ノ賊魁負傷帰国ノ者、池田正義・長谷場純孝・宮地貞明・吉武節太郎・大浦良太郎・石川良助ノ六名、入来郷ノ温泉ニテ養生中ナリト、又市中村々戸別ニ金四円宛、賊ヨリ軍用金トシテ賦金申付取立ルト云、此節ハ市中村々ノ者西郷・桐野両氏ヲウラムト云、

一是ヨリ前ヘ田畑大書記官(常秋)ハ屠腹スルト云、

一本日旧県官七等出仕右松十郎太ヲ捕縛ス、

一鹿島県新官員着、旧官員廃止、巡査モ同シ、賊ニ組スル者ハ縛ス、

一夜中何タル事故モナキニ諸隊狼狽三度、依テ将校ニ命シ厳戒セシム、

一明廿八日午前第八時ヨリ毎日会議開席候条、聯隊ニ在テハ聯隊長、独立大隊ニ在テハ該隊長出頭可致、此旨相達候事、

但シ、聯隊長事故之節ハ、其大隊長之内壱名、独立大隊長同様之節ハ副官出頭可致義ト可相心得事、

十年四月廿七日　　高嶋少将

一是ヨリ前ヘ、大久保参議・川路少将ノ家屋ヲ、同県士族婦女子打寄リ夜中毀損スト云、

四月二十八日　快晴

一本日ヨリ会議開席ニ付、午前第八時予本陣ニ至リ、会議済同九時過キ本部ニカヘル、

一午前第九時過キ哨兵配置ニ付、予大山少将・両大隊長并諸将校等ト城山ニ登リ、要地ヲ巡見シ哨兵ノ位地ヲ定ム、夫ヨリ我聯隊ニ命シ、左翼山下橋ヨリ岩崎ヲ経テ護摩所ニ至ル迄哨兵ヲ配布セシム、正午十二時本部ニカヘル、

一市街ト士族屋敷ノ境ヲ径界トシ、他隊之レニ哨兵ヲ配布ス、又市中ニモ哨兵ヲ配布ス、

一賊情探偵之景況、別紙来第二百二十八・九号之通、山縣参軍ヨリ通報有之趣ヲ以、只今川村参軍ヨリ通報相成候間、為心得此旨相達候也、

四月廿八日　　高嶋少将

別紙

賊ハ昨朝矢部ヲ引払候趣ニ付、今朝ヨリ探偵候処、一ツハ人吉ニ向ヒ、一ツハ日向路ニ走候由、委敷ハ後ヨリ可申進候得共、不取敢此段及御通知候也、

四月廿六日　　山縣参軍

川村参軍殿

別紙

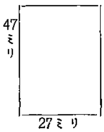
昨夜出先ヨリ報シテ曰ク、兼テ差出置タル探偵ノ者罷帰リ、申出ニ拠レハ、賊ハ廿五日金内(上益城郡)・矢部ヲ捨テ、馬見原(阿蘇郡)ニ引揚タル由、又一報ニ拠レハ、賊人吉街道「ナスノヲマヘ」ノ方ニ行キタリト云ヘリ、仍テ今暁ヨリ斥候隊ヲ出シ、賊情探偵申付置候、然ルニ右探偵ノ申出ニ拠リ相考候得ハ、賊ハ多分薩地ニ向ケ引揚可申哉ト存候、未タ確タル事ニハ無之候得共、不取敢此段及御通知置候也、

十年廿六日(ママ)　山縣参軍

川村参軍殿

一海陸軍人軍属ニ不限、別紙雛形之通木印鑑所持之者ハ、諸営内ハ勿論、哨兵線内外ヲ不問通行為致不苦段ヲ以テ、別紙参軍ヨリ廻達相成候間、則及頒布候条、各一枚ツヽ、引去リ、各隊受持之哨兵等ヘ無漏可相達候也、

四月廿八日　高嶋少将



(朱印)　(印文　征討参軍 川村純義)

一陸地ニ於テ非常之節ハ、合図トシテ野戦砲三発〻放、尚軍艦ニ於テモ同段答砲相放候条、此旨相心得ヘク候事、

四月廿八日　高嶋少将

一玄海丸御用之レアリ、当鹿児島湾出帆、

四月廿九日　晴

一午前第八時本陣ニ至リ、会議ニ出席ス、同十一時頃本部ニ帰ル、

一午前第十一時三十分、第一大隊第三中隊吉野村(鹿児島市)近傍ニ行軍、午後第四時十分宿処ニカヘル、

一午前第十一時三十分、第二大隊第三中隊後迫(ウシロサコ)ヲ越エ、鳥越シ辺ニ行軍、午後第二時三十分宿処ニカヘル、

一哨兵配布前日ノ如シ、

一哨兵線内ニ処〻胸壁小塁等ヲ築ク、市街ノ要地ニモ亦胸壁ヲ築ク、市人之レガ為メ家ニ鎖シテ各処ニ立去ル、

一来第二百三十号

県庁内ニ設置有之候新牢江、囚人入牢申付候者モ有之候間、右近辺猥リニ徘徊不致様、各隊ヘ厚ク諭告可致、尤非常之節ハ夫〻警備之為、警視官ヨリ番兵江臨時之処分方引合候義モ可有之候条、其旨兼テ一同相心得居

候様可被相達此段相達候也、
十年四月廿九日　川村参軍
高嶋少将殿
右之趣高嶋少将ヨリ被達候事、
一賊ノ負傷者都ノ城ニ二十名計リ居ルト云、又賊ハ悉ク飽託ニ向ケ走ルト土人ヨリ報ス、
四月三十日　晴午後七時ヨリ雨降
一哨兵配布スル前日ノ如シ、
一市人処々ニ立去リ、寂々寥々諸事不弁ナリ、
一午前第八時、本陣ニ至リ会議ニ列席、午後第一時本部ニカヘル、
一午前第六時過キヨリ第一大隊第一中隊・第二大隊第二中隊ニ命シ行軍セシム、
一午前第七時五十分、芝大尉ニ命シテ、山下橋ヨリ岩崎ヲ経テ城ケ谷ニ至ル哨兵線ヲ巡検セシム、正午十二時本部ニカヘル、
但シ哨兵配置図面ニ誤アリ、校正セシメンガ為ナリ、
一別紙之通申来候条、於各隊不都合無之様部下ヘ可達置候事、
四月三十日　高嶋陸軍少将
追テ、防禦線等ノ都合ニヨリ是非不入込テハ不都合之義有之候ハヽ、其段更ニ可申出候也、
別紙
嶋津久光殿御邸元二ノ丸内山下屋敷境内ヱ兵隊入込候由ニ付テハ、以来猥リニ不入込様番兵ヘ御達置有之度候也、
四月三十日　川村参軍
高嶋少将殿
一毎日午後第八時ヨリ翌朝迄、哨兵線通行可差止、尤印鑑所持ノ者ハ通行可差許、此旨相達候事、
追テ、大至急順達、周尾ヨリ返却可致候事、
四月三十日　高嶋陸軍少将
一来第二百三十号
昨二十九日発第二百六十八号ヲ以テ御問合有之候小銃発放時限之義、早速伊東(祐麿、海軍少将)司令長官ヘ問合候処、別紙之通回答有之候間、右ニテ御承知相成度、此段及御答候也、
四月三十日　有馬海軍中秘史
第一旅団参謀部御中
追テ、実側(マヽ)(測カ)上本日之日設(没カ)ハ六時三十七分二十一秒ニ

テ、明日ハ六時三十八分二秒ニ有之、払暁之義モ明日ハ三時四十六分三十秒ニ相成候得共、毎日幾分カ差異有之トノ事ニ候、此段為念申添候也、

別紙

小銃発放之義ニ付、参謀部ヨリ尋問之末御照会之旨致了承候、右ハ払暁日没及ヒ就眠トノ三度ニ候得共、刻限之義ハ実側(測カ)之上、日ノ長短ヨリ少々ツヽ差等相生シ候ニ付、判然御答難被申、且就眠之義ハ当分午後九時ニ候間、此旨及御答候也、

十年四月三十日　　伊東海軍少将

有馬海軍中秘史殿

追テ、本文施行之義ハ、至ル処何レノ地ニ候共発放候事則規則ニ有之、過日勅使参向之節モ同様致居候間、為念此段申添候也、

右海軍ヨリ答書高嶋少将ヨリ被達候事、

一昨廿九日、貴島清三小隊位ヲ率ヒ横川(給良郡)ヘ致止宿候、大口ノ者慥ニ見届居候報知アリ、亦桐野ノ家来帰リ兵数ハ分ラス、此度ハ抜刀ニテ官軍ヘ切込ムト云フ、右ハ或知人ヘ相噺、道具等ハ至急可片付旨申置候趣モアリ、是ハ下輩之申口ニテ慥トモ難申候得共、聞及候尓(マヽ)行、右ハ内々(マヽ)

四月三十日　　河村

高嶋様

右河村参軍ヨリ通知有之候間、別テ厳重注意可致旨、高嶋少将ヨリ被達候事、

○

(朱)「甲第五百四十五号」

戦地憲兵司令服務総領ヲ定メ、右総領ヲ比附酌量シテ軍中治罪法別紙之通相定候条、此旨相達候事、

但服務総領ハ追テ可頒布事、

明治十年四月廿三日　　総督本営

軍中仮治罪法

第一条　陸軍裁判所ニ送付スヘキ者、分ツテ四ト為ス、

第一　軍人軍属ノ犯罪者

第二　捕虜

第三　賊ノ間諜

第四　総テ疑フヘキ者及一切軍機ヲ害スル者

第二条　軍人軍属ノ犯罪ハ之ヲ鞠問シ、軍法会議ニ附シ、其罪将校閉門以下、下士黜等以下卒夫戒役以下ニ当ル者ハ、直ニ之ヲ判決シ、断案ヲ附シテ参謀部ニ

交付シ、戴罪服務ノ例ニ従フヘシ、其奪官及ヒ徒以上ニ当ル者ハ、地方警部ニ托シ之ヲ鎖錮シ、便宜ヲ以テ大阪ニ送リ、其刑ヲ行ハシム、若シ自役或ハ逃脱等ノ虞アル者ハ、反縛鎖錮スルヲ得、将校回藉・停官・降官ノ刑ニ当ル者モ、上文奪官云〻ノ例ニ従フト雖トモ、罪状ニヨリ裁判宣告ヲ為シ、参軍ノ意見ヲ以テ相当ノ軍役ニ服セシムルコトアリ、但其罪軽シト雖トモ、犯状ニヨリ戴罪服務ノ例ニ従ヒ難キ者ハ、仍ホ上文ノ例ニ依ル、

（本ノマヽ（殺カ））

第三条　捕虜・間諜ハ直ニ之ヲ鞫問シ、其軍機ニ関スル事項ハ、即時之ヲ参謀部ニ申報シ、該囚ハ地方警部ニ托シ之ヲ鎖錮ス、時宜ニヨリ反縛鎖錮スルモ妨ナシ、

第四条　総テ疑フヘキ者ハ、直ニ之ヲ鞫問シ、間諜ノ疑アレハ、前条ノ例ニ従ヒ之ヲ錮シ、事定マルヲ待チ事実ヲ審明シテ処分スヘシ、其疑ナキ者ト雖トモ、住居賊ノ戦線内ニ在ル者ハ、我軍情ヲ漏泄スルノ恐レアルヲ以テ之ヲ拘留シ、時ヲ待ツテ釈放ス、但事実明瞭ニシテ疑ヒノ容ルヘキナク、且其家我戦線内ニ在リ、軍機ニ害ナキ者ハ、裁判官直ニ之ヲ釈放スヘシ、

第五条　軍法会議ノ法、尉官以下ニ在テハ、参謀或ハ監督部将校一名、裁判官二名ノ会議ヲ以テ之ヲ決ス、其降官及ヒ下士卒夫ノ徒以上ニ当ル者ハ、会議ノ上断案ヲ附シ、征討参軍ノ決ヲ取リ、死刑ニ当ル者ハ征討総督ノ裁可ヲ乞テ決スヘシ、

但参謀部若シクハ監督部将校、本務繁劇ニシテ会議ニ参スル能ハサルトキハ、断案ヲ該部ニ移シ其意見ヲ問フヘシ、

第六条　佐官以上ノ犯罪ハ、臨時会議ヲ設ケテ其罪ヲ断決ス、

軍法会議官等人員略表

罪人	議員
尉官	参謀部若シクハ監督部佐官一名
同相当官	裁判佐尉官及ヒ同等官二名
下士卒	参謀部若シクハ監督部佐官或ハ尉官一名
	同相当軍属裁判佐尉官及ヒ同等官二名

右軍中仮治罪法高嶋少将ヨリ本日被達、

五月一日　雨

一午前第八時、予本陣ニ至リ会議ニ列席、同第十一時過

キ本部ニカヘル、
一海軍大佐仁禮景範、当分鹿児島県令ノ心得ヲ以事務取扱被仰付候事、

十年五月一日　　征討総督本営

右之趣、本日午後第三時高嶋少将ヨリ被達、
一哨兵配布前日ノ如シ、

五月二日　晴

一午前第八時、予不快ニ付阪井少佐ヲシテ本陣ニ至リ、会議ニ参座セシム、同第十一時過キ本部ニカヘル、
一本日午前玄海丸着港、
一午後加治木ニ千人、蒲生ニ弐百人計宛、両所ニ賊徒集合ノ報アリ、仍テ加治木ニハ軍艦ヲ差廻シタリ、若シ賊徒襲来スレハ、必ス哨兵線ヲ離レス固守スヘシ、又間諜市中ニ潜入スト云、若シ指火等ハカリ難シ、依テ兵卒二三名宛市街ヲ忍ヒ巡邏致サセ置クヘシト、吉田大尉ヲ以高嶋少将ヨリ伝令アリ、
一昨一日夜、賊徒乗馬ニテ島津家ニ至リ、早々立退可致旨来申スト云、
一巡査五百人着、上陸并榊原謙吉門人等二百人余来ル、人皆字シテ切込隊ト云、
一鹿児島県令岩村通俊以下属官并裁判所官員共、凡三百人扶桑丸ニテ入県、
一琉球館ノ向ヒノ商家ニ三十人計都城ヨリ来リ、昨日ヨリ忍ヒ居ルト、阿部熊次郎実兄ヨリ報知アリ、
一島津両屋敷内ニ五百人程ノ人数潜居スト、是亦阿部熊次郎実兄ヨリ報知アリ、時午後八時ナリ、
一午後八時過キ、城山ノ要地ニ工兵ヲ以、至急台場築造可相成御達ニ付、芝大尉ヲ遣シ実地見分セシム、同夜十二時後本部ニカヘル、
一城山防禦線哨兵配置ノ義、明三日ヨリ三中隊ヲ以相守リ、援隊ヲ一中隊ト相定メ候旨、各中隊へ相達ス、但防禦線各中隊分界ノ義ハ、及指揮候条、不取敢各大哨兵司令協(議脱カ)致之上、取定置可申旨添テ相達ス、

五月三日　晴夜十時頃ヨリ雨降

一哨兵線并諸営門通行印鑑、雛形ノ通改正相成候旨部下へ可相達候事、

(朱印)　(印文、征討総督本営之印)

一午前七時三十分、士官以上夏略服白リンネル相用候定規之処、戦闘中紺又ハ鼠色相用不苦候、此段相達候也、

十年五月
　　　　　　　　　　征討総督本営
右ノ趣高嶋少将ヨリ被達候事、
一午前八時頃従三位島津忠義櫻島ニ立退キノ由、財部氏ヨリ報知ス、
一午前八時過、旧知事(島津忠義)隠居所玉里邸ニ賊夜来集合スル由、財部氏実兄ヨリ報知アリ、
一午前八時、予本陣ニ至リ会議ニ列席ス、正午本部ニカヘル、
一午後十一時、大島・西澤両氏軍吏補ニ被任候事、
一鹿児島県官員哨兵線外ヘ出張為致候節ハ、別紙之通印鑑為持置候間、無差支通行相成候様致度旨、岩村県令ヨリ申出候間、此旨相心得、哨兵一般ヘ可被相達候也、
　　但印鑑五葉相廻候事、
　　　　　　　　　　川村参軍
　　高嶋少将殿
右ノ趣御達ニ付、印鑑相廻シ候条、駢隊ニ二葉宛、大隊ニ壱葉宛受取、至急夫〻順達可致候事、
　　五月三日
　　　　　　　　　　高嶋少将
一賊小山田(鹿児島市)ノ庄屋ノ宅ニ集合スル由、本陣ヘ報知アリ、
一哨兵線ニ夜中援隊二中隊ヲ増加スヘキ旨、第一大隊・第二大隊ヘ相達ス、
一其県下下町哨兵線内ニ住居スル官許宿屋職之者ハ勿論親類知己ニ至ル迄、客人ヲ止宿為致候義、当分之内一切差止候条、此旨相心得、至急管下ヘ無洩可相達候也、
　　十年五月三日
　　　　　　　　　　征討総督本営
　　鹿児島県
右高嶋少将ヨリ午後二時前被達候事、
一午後第二時前、予久宗(朝光、中尉)ヲ率ヒ哨兵線ヲ巡検シ、午後第七時本部ニカヘル、
一哨兵配布前日ノ如シ、然ルニ哨兵増加ノ処モアリ、処〻堅固ニ小塁ヲ築ク、
一夜ニ入井上少佐・安永副官等、哨兵所ニ至リ宿番ス、
五月四日　曇
一午前八時、予本陣ニ至リ会議ニ列席ス、午前第十一時五十分本部ニカヘル、
一我本営川路某・増山某ヲ探偵トシテ、一昨二日重富ニ差出スニ、賊同地ニ集合ス、増山某賊ノ為メニ殺害セラレシカ、未タ帰ラス、川路某辛クシテ吉野山ヲ経テ本営ニ帰リ、右ノ次第ヲ報ス、
一暴徒追〻襲来候哉ニ相聞ヘ候条、庁下哨兵線外ノ人民

立退候様、至急可相達候也、
　但シ哨兵線内之人民ハ立退ニ不及候事、
　五月四日　　征討総督本営
　　鹿児島県
右暴徒追〻襲来之模様ニ付、兵備之都合有之、陸地哨兵之往来ヲ相禁シ、且御用船ヲ除ク之外、大小船舶入港差止候条、此旨相心得、至急其向へ可相達候也、
　但シ出港之船舶ハ、検査之上不都合無之候得ハ、出帆差構無之候也、
　十年五月四日　　征討参軍川村純義
　　鹿児島県令岩村通俊殿
右来二百五十七号ヲ以御達ニ付、尚厳重注意候様各哨兵へ可相達旨、高嶋少将ヨリ被達候事、
一来第二百五十三号
　従二位島津久光家令伊集院九郎以下家扶・家従・家丁等十二名
　従三位島津忠義家扶東郷源四郎・新納時両名以下家従・家丁九名
右之者哨兵線内通行印鑑相渡置候ニ付テハ、非常之節ト雖トモ、下津畑舟着場ヨリ石燈爐(いずろ)通ヲ経テ島津久光邸江通行可差免候条、其筋へ予テ可相達置候也、
　五月三日　　川村参軍
右高嶋少将ヨリ被達候事、
一午後芝直照・眞鍋本承両人市街哨兵線ヲ巡見シ、同五時過本部ニカヘリ、異状ナキヲ予ニ報ス、
一哨兵配布昨日ノ如シ、
一阪井少佐・久宗中尉哨所ニ宿番ス、
一夜八時頃賊襲来ノ模様アリ、新上橋(しんかんばし)ニ山田正(大尉)ノ隊ヲ一小隊差出シ哨兵セシム、此処当夜ヨリ我隊ノ哨兵受持チトナル、後チ近傍ニ要地ヲ撰シ、小塁胸壁等ヲ築ク、
一夜八時過キ予新上橋ニ至リ、哨兵守地ヲ検ス、同十二時頃本部ニカヘル、
一夜七時過キ士族邸一軒焼失ス、

黒木為楨日記　九冊之内　六
(明治十年自五月五日至六月廿四日)

五月五日　風雨　此日朝賊将能勢弥九郎城山ニ於テ我第一大隊第二中隊ニテ討取ル
一午前第四時三十分、賊新照院ヨリ襲来ニ付、城山背後ノ我哨兵開戦、夫ヨリ南北ノ哨兵追〻ニ戦ヒ、予軍旗

ヲ護シ、我諸哨所ヲ巡検指揮ス、同七時頃賊敗走、我隊死傷四人死二人傷二人、賊ヲ斃ス十余名、

一此日未明ヨリ西田橋前後、其外南北士族邸并市街等焼失ス、

一本日城山ニアル士族邸ヲ仮本部トス、

一午前第十時過予本陣ニ至ル、午後第五時城山仮本部ニカヘル、

一哨兵配布前日ノ如シ、

「朱」第二百六十七号
一日没混雑之紛レニ無故人家へ立入、人民貯蔵之諸物品等盗取候者有之哉ニ相聞候処、名分ニモ相関シ、別テ不可然義ニ候条、以来右等之所業無之様、至急配下へ無洩可被相達候也但シ人夫等之者ヘハ、別テ厳重可申渡候也

十年五月五日　　川村参軍

高島少将殿

五月六日　曇午前第十時半頃晴

一午前第三時半頃、新上橋我哨兵所ニ賊来リ戦争、同五時頃戦ヒヲ止ム、此日モ処々人家兵火ニカヽリ焼失ス、

一午前第十時予本陣ニ至ル、同十一時五十分本部ニカヘル、

一哨兵線内外ヲ不論、人家ヘ指火不致様昨念達致置候得共、未タ右達貫徹不致候歟、尚諸所ニ放火相見へ甚不都合之至ニ候条、無指図指火不致様諸隊へ厳達可有之候也、

十年五月六日　　川村参軍

高島少将殿

一正午十二時、上野大尉(忠恕)・吉村大尉(守廉)ノ隊并大沼少佐(渉)ノ率ユル切込隊ヲ分配シテ、賊ヲ捜索トシテ冷水・竹ノ橋・高麗橋ノ方へ差出サレタリ、午後異状ナク帰ル、

一午後第一時過キ、予我哨兵所ヲ巡回シ、各中隊長ニ命シ哨兵ヲ増減セシム、夫ヨリ午後第五時三十分本陣ニ至ル、同八時頃仮本部ニカヘル、

五月七日　晴

一午前第三時過、西田川尻へ賊襲来ニ付戦争ス、一時劇戦、同第五時頃止戦、官兵死九人傷十一人、賊ノ斃ルヽ者二十余人、

一此日モ来第二百七十八号ヲ以、川村参軍ヨリ放火ノ義、硝兵線外ト雖トモ、一切厳禁タルヘク旨被相達候事、

一本日モ処々ニ放火アリ、夜ニ入西田橋通リ武ノ丘麓迄焼失ス、実ニ大火ナリ、〇哨兵所前日ノ如シ、

一午後予本陣ニ至ル、同七時城山本部ニカヘル、

五月八日　晴風

一午前第八時三十分予本陣ニ至ル、会議ニ列席ス、午後一時過キ城山本部ニ帰ル、

一午後八時予我哨兵所ヲ巡検ス、此夜遊撃別手組竹中某始十五名ヲ以、城ケ谷山上ノ台場ノ外面ニ来ル賊ニ備ヘシニ、同夜賊来ラス、九日朝引取ル、

一我哨兵所前日ノ如シ、

五月九日　晴風午後七時頃ヨリ雨降

一午前第三時賊新正院(照)ヨリ来ル、我兵之ヲ討ツ、賊僅カニ応シテ逃去ス、戦争十分間ニシテ止

一午前第十時予本陣ニ至ル、午後一時過我本部ニカヘル、

一我哨兵所前日ノ如シ、

一午後高崎(嶋)少将我哨兵所ヲ巡検セラル、

一午後第十一時、西田川尻ニ賊襲来、戦争僅カニ十分間ニシテ止、此時婦人子供ヲ背負テ川尻ニ来ル、夜賊ト誤認シ、親子トモ打殺ス、実ニ残念ナリ、

一城山我本部蚊多クシテ、人皆甚困却セリ、

五月十日　晴

一午前第一時三十分、賊又川尻ニ来リ戦争ス、凡三十分間ニシテ止戦、

一午前第九時四十分、予本陣ニ至ル、午後一時頃各哨兵所巡回シ、同五時過キ城山本部ニ帰ル、

一哨兵所前日ノ如シ、

五月十一日　晴

一今般兵火ニ罹リ、又ハ産業ヲ失ヒ目下飢餓ニ迫ル者救助相成候筈ニ付、右人民誘導ノ為メ哨兵線外タンタト(韃靼冬冬)ウ筋・谷山筋・西田筋ヘ明日ヨリ県官并巡査ヲ派出為致候ニ付、賊徒ト誤認不致様最寄之哨兵ヘ篤ク可被相達候也、

十年五月十日　　川村参軍

一本日各隊ヘ酒肴ヲ賜リ候事、

一午前第十時予本陣ニ至ル、正午十二時本部ニカヘル、

一午後我哨兵所ヲ巡回ス、○哨兵所前日ノ如シ、

五月十二日　曇午時ヨリ時々微雨至ル、夜中大雨雷鳴

一午前第八時、我哨兵線巡検ス、

一哨兵所前日ノ如シ、○此日冷水谷ノ山上ニ台場築ク、

一午前第十時、予本陣ニ至ル、午後三時城山ニカヘル、

一本日田上村ヨリ小野辺迄探偵ノ大略左之通、実否不詳、

○人吉ヨリ当県ヘ派出シタル兵ハ凡ソ五千人位ニテ、小野村ニ本営ヲ設ケ滞在ノ由、○涙橋ヨリ谷山禁(近)辺迄

兵士凡ソ七八百人程屯集シ、中ニモ銃器ヲ携ヘタルモノハ甚少シ、〇水上(みつかん)ト云処ニ台場ヲ築キ、兵士五百人余屯集シ居ル由、〇官兵ノ攻撃ヲ防禦ノ為メ台場ヲ処〻ニ築キ、兵備ヲ堅固ニスル由、〇各郷ニ非常急変ノ為メヲ名トシ、兼テ召募置候警部巡査并県下ノ元巡査モ挙テ賊兵ニ党与シ、各〻誓約シテ死生ヲ共ニシ、同心協力シテ是非官兵ヲ撃退スルノ形勢ニ候由、〇人吉ヨリ大砲四挺ヲ携持シテ小野村ニアリト云、〇今ニ賊ノ人気モマス〲奮励シテ人心一致シ、各決死シ、身命ヲ抛チ、本日処〻ヨリ大進撃ノ模様アリト云、

一桐野利秋変名シテ鹿児島近辺ニ帰リ、賊ニ指揮スト云、

一昨十一日大口ヨリ帰宅ノ人有之、細ニ承リ候処、官軍大勝利ノ由、別(働脱カ)第三旅団第一ノ二中隊長岩重(巌)中尉ヨリ本陣ヘ申越シタリ、

五月十三日　雨午前第十一時頃ヨリ雨止曇

一午前第九時四十分、予本陣ニ至ル、午後四時十分本部ニカヘル、

一野津(鎮雄)少将ノ引率隊、去ル十一日肥後小島(熊本市)出帆ノ報知アリ、

一本日我第一大隊第三中隊二等卒檜垣友八過テ銃発、同隊二等卒川崎豊吉ニ中ル、同人入院後死ス、

一第二大隊第一中隊二等卒畠中兼太郎過テ銃発、同隊卒松本留吉ニ中ル、同人軽傷ニシテ入院中ナリ、

右両条取計ノ義伺書高嶋少将ヘ差出候事、

一哨兵所前日ノ如シ、

五月十四日　雨時〻雨止曇蒸ス、夕方雷鳴夜ニ入大雨

一午前第九時三十分、本陣ニ至ル、午後三時本部ニ帰ル、

一哨兵所昨日ノ如シ、

五月十五日　雨雨時〻止

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後第四時四十五分城山ニカヘル、

一午前第十時頃、我第一大隊第四中隊二等卒曽我部常蔵盗罪処分伺書、別紙口状ヲ以本陣ヘ差出候事、

一川路少将ノ隊ヨリ一名志願ニテ、賊地探偵トシテ昨十四日当地ニ来リ報シテ云ク、大口ニテ川路隊ト賊ト戦争、一度官軍勝利、一度ハ賊軍勝利ナリト云、又賊ニハ銃器乏シク硝石ヲ以テ火薬ヲ製造スル由ナリ、〇熊本ノ方ヨリ道ヲ分チ野津少将・三浦(梧楼)少将・川路(利良)少将・黒川(通軌)大佐等ノ引率スル軍隊追〻進撃ノ由也、

一哨兵所昨日ノ如シ、

五月十六日　晴夕方ヨリ曇

一午前第十時本陣ニ至ル、午後第六時本部ニカヘル、

一午前東久世(通禧)侍従長慰問使トシテ鹿児島着港、直ニ上陸中町藤安方ヲ宿処トス、

一哨兵所前日ノ如シ、

五月十七日　雨 午前十時過ヨリ午後四時過迄大雨　杜宇(ほととぎす)ヲ聞ク

一第二大隊第一中隊兵卒木村吉次郎過テ発銃、同隊卒脇直之丞ニ負傷セシメ、入院後死スル旨届書隊長井上ヨリ差出ス、

一今般生捕タル薩摩人共ヲ取糺ス処、謀逆ノ初ヨリ一筋ニ御国ノ為メトノミ思ヒ込ミ、其朝敵タルヲ弁ヘズシテ、張本人ニ荷担イタシ候輩モ少カラス、或ハ此節ニイタリ降参イタストモ、官軍ニテハ其罪ヲ赦サレズ抔申触スニ付、詮カタナク戦死ト覚悟候者モ有之哉ニ相聞ヘ、不便之次第ニ候、右様ノ儀ハ決テ無之儀ニ付、タトヒ張本人ニ与シ、一旦ハ官軍ニ刃向ヒ候者タリトモ前非ヲ後悔シ、其趣ヲ訴ヘ降参ヲ願フニ於テハ、其罪ヲ被免候条、一刻モ早ク理非ヲ弁ヘ賊軍ノ汚名ヲ免レ申スベシ、此旨相諭候事、

十年五月十五日　官軍先鋒本営

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後六時過本部ニカヘル、

一我哨兵所前日ノ如シ、

五月十八日　曇

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後第三時城山本部ニ帰ル、

一積日之軍労ヲ慰セラレン為、今般慰問使トシテ侍従長東久世通禧御下向、軍隊一般ヘ酒肴料別紙之通下賜候旨被達候事、

一昨日第四旅団ヨリ二中隊軍艦ニテ福山ニ至リ、賊ヲ討ツ、賊大敗シテ走ル、其時敵ヲ斃ス十六名、囚虜七名并分捕モノアリト云、

一賊武ノ岡ヨリ西田橋ノ方ニ向ケ大砲ヲ放ツ、

一我哨兵所前日ノ如シ、

五月十九日　晴午後七時頃ヨリ曇

一午前第八時、畠山軍吏補(会計官)城山本部ニ来ル、

一同九時、大島軍吏補又来ル、

一同十時頃、本陣ニ至ル、午後一時過本部ニ帰ル、

一午後六時、川村参軍城山仮本部ニ来ル、

一哨兵所前日ノ如シ、〇本日酒肴料下賜、

五月二十日　晴

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後六時過本部ニカヘル、

一本日大山(巌)少将熊本大総督本営ニ向ケ鹿児島出帆ス、
一哨兵所前日ノ如シ、○哨兵所処〻ニ大砲ヲスエル、

五月二十一日　晴

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後三時城山本部ニカヘル、

五月二十二日　晴

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後一時我本部ニカヘル、
一本日第四旅団第三大隊第三中隊、大砲或ハ小銃ヲ以、多賀山ヨリ矢上ガ城ノ山ニヲル賊ヲ討ツ、賊亦大砲二門ヲ以之レニ応ス、勝敗決セス、龍驤艦ヨリモ砲撃ス、
一本日本陣ヲ伊勢建彦方ニ移ス、
一我哨兵所前日ノ如シ、

五月廿三日　晴午後七時頃ヨリ曇

一午前第九時、本陣ニ至ル、午後六時本部ニカヘル、
一田邉(良顕)中佐ヨリ届出左之通、
五月七日山野(大口市)ニ於テ開戦、勝敗決セス、官軍死傷合セテ三十名、官軍退テ久木野(熊本県水俣市)村ニ陣ス、○同八日同所ニヲイテ戦ヒ勝敗決セス、官軍傷者十七名アリ、○同九日賊徒間道ヲ迂回シ、江口隊ノ舎営ニ切込ミ官軍敗走、弾薬二千発計賊ニ奪ハレ、死傷詳ナラス、此時賊ニ捕ハレシ巡査四名ノ内二名遁レ帰ル、○同十日劇戦北野村(水俣ヨリ一里半位)ニ引揚ル、此時大砲八門賊ニ奪取ラル、○同十一日休戦、○同十二日戦争勝敗決セス、三間(正弘)少佐此処ニ於テ負傷、○同十三日右同断、○同十四日官軍勝利、賊二名ヲ擒ニス、又「スナイトル」銃及弾薬若干・大砲二門ヲ分捕ル、其一門ハ前日奪ヒトラレ候分ナリ、此時賊軍大ニ敗走、○同十五日賊亦敗走、○同十六日賊亦敗走、銃器四千丁計弾薬若干ヲ分捕ル、捕虜三名台場乗取ルコト四ケ所、○同十七日北野村奥ニテ(地名不詳)戦争、賊徒又敗走、○同十八日官軍大挙進撃ノ部署、○右ハ過ル十九日八代発程本日当地来着、旅団毛利雄蔵外壱名聞見之始末申出候条、為念及御届候也、

五月廿二日　別第三旅団

田邉中佐

川村参軍殿

一倍御壮剛御在陣奉察候、陳而ハ去ル十五日付ヲ以申進候後、豊後地之景況別紙甲印之通追〻報知有之、就テハ先便モ申進候通、浜町方面之兵隊豊後ニ出張申付候外、奥少佐へ二中隊引率為致、海路小倉営所へ為向、便宜中津街道ヨリ進軍為致候積ニ有之、両口共未タ開戦之報知無之候得共、浜町ヨリ出張候兵隊ハ、一昨夜竹田口ヲ距ル一里玉木ト申処へ止宿之趣ニ候間、何レ

昨朝ハ多分開戦ノ義ト存候、将又第三旅団佐敷口ノ戦闘并別働第二旅団、十七日以来度〻戦事頗ル勝利ノ由、則別紙乙印ノ通報知有之候間、不取敢御廻シ申候、其他先異状無之、御地其後ノ景況ハ何分ニ候哉、後便致承知度、時候折角御厭ヒ為国自重所祈候、草〻不備、

十年五月廿一日　　　　山縣参軍

川村参軍宛

一本日矢上ケ城上(やがみがじよう)ヨリ賊大砲ヲ発ス、我軍又大砲ヲ発ス、賊ノ砲丸我哨隊諸所ノ近辺ニ来ル、

一傭夫へ各隊ニ於テ読法読聞ケベク旨被達候事、

一哨兵所前日ノ如シ、

五月廿四日　晴午後六時過キヨリ曇ル

一午前第三時、第一哨隊ヨリ三中隊ヲ以、武村辺へ大斥候差出ス、此日我軍利アラスシテ永田少佐其外曹長一名・伍長一名・兵卒一名即死ス、傷ヲ受クル者二十八名、別手組之レニ属スト雖、進マスシテ北クルト云、午前引揚ケ帰ル、

一午前十時、本陣ニ至ル、正午十二時城山ニカヘル、

一今宵海軍楽隊上陸シテ演習ス、

一哨兵所前日ノ如シ、

五月廿五日　晴

一進軍并大斥候ノ節ハ勿論、防禦線ニ於テ一時ノ撃合ト雖トモ其顛末詳細取調、其都度可被届出此旨相達候也、

但シ当地廻着以来ノ分モ早〻取調可被差出候也、

五月廿三日　　　川村参軍

一午前第九時三十分、本陣ニ至ル、同十一時二十分城山ニ帰ル、

一午前四時頃「アメリカ」ノ軍艦鹿児島港ニ来リ投錨ス、

一重富住居士族某探偵書本月廿三日付ヲ以、川村参軍ヨリ御差回シニ相成ル、左之通、

本月十八日別府川橋脇ニ梟首アリ、之レハ火付ノ嫌疑ヲ受ケシ者ノ由、○右同日別府新助止宿スル小田倉川巳之助方ニ至リ候処、新助隊長ト思ヒシ人ニ向ヒ、銃器ハ何程アリト問フ、隊長答ニ火縄筒卅挺・ミニヘール銃七十挺ナリト云、隊長新助ニ向ヒ鉛ノ有無ヲ問フ、新助大ニ怒リ、我輩負傷ノ身ナレハ尽力ナリ難シ、其方ニテ周旋スヘシト云、○同十九日人吉船場製作場ヨリ、諸郷ノ鉛・錫等ヲ買求ノ義依頼セラル、又別紙弾薬局田原篤宗ヨリ、重富駅正副戸長宛ノ書状ヲ渡サレ持参シタリ、○同日人吉ニテ承ルニ、矢部口ヨリ攻入

タル官軍大勝利ナリ、賊ハ「イツキ(五木)」ト云処ニ引揚タリト云、○同廿日船場学校ニテ毛利薩雄ノ咄シニ、今度地雷火ヲ製造シ、大口・水俣ノ境ナル大野口セリ山ト云処ニ仕掛ケル積ナリト、其器械ヲ見セラレタリ、○右同処ニ於テ諏訪製作所ヨリ、船場製作所宛ノ書状ヲ得テ持参シタリ、○右同日賊二小隊「イツキ」ヘ応援トシテ出陣シタリ、○講堂横川・吉田辺ニ硝石樽数多之レアリ、人夫ニ相尋候処、蒲生(がもう)・山田ヨリ送リ来レリト云、○吉田郷ニテ大砲一門之レアリ、大口ヘ送ル由、二挺ハ去ル十六日大口ヘ送リタル由、○人吉病院数ケ所之レアリ、負傷者数千人ト相見ヘタリ、○帖佐(ちょうさ)ニ大砲弾丸千七百程アリ、内八百ハ廿一日ニ人吉ヘ送致ノ旨、別府ヨリ達ノ趣帖佐戸長ヨリ伝聞セリ、○人吉船場製作スルミニヘール弾薬二千宛、諏訪製作処モ同シク二千宛、新町製作所ハ四千余宛製作スル趣、且製作所ハ其他ニ六七ケ処之レアリ、日々盛ンニ製作スル由毛利薩雄ノ咄シ、○西郷ハ今人吉ニアリ、宿処ニ本病人ト下ケ札致居ル由、○桐野ハ鹿児島ニ三四日居リ、今ハ「エンロ」ト申処ニアリ、随兵五百人程ノ由、○邊見ハ当時大口ニ出陣イタシ、随兵千人ナル由、○其他所々出兵ノ数ヲ詳ニ聞ス、○桂四郎ハ横川町ノ学校ニ居ル、淵邊ハ「イツキ」ニヲル由、○延岡ニテ三千計ノ兵ヲ募リタル由、○賊地掲示場ニハ諸物品高価ニテ売ルコトヲ禁スル張紙アリ、

五月廿六日　晴午後三時頃ヨリ曇

一午前第十時、本陣ニ至ル、同十一時五十分城山ニカヘル、

一黄昏ヨリ旧練兵場ニ於テ花火発揚ノ旨被達、

一黄昏花火発揚シタリ、至極見事ナリ、

一我哨兵所前日ノ如シ、

五月廿七日　晴

一午前第十時、本陣ニ至リ、午後一時頃城山ニカヘル、

一午前第一聯隊竹入用アリ、哨兵線外ニ下士卒十余名ヲ遣シタルニ、賊窃ニ来リクミタテ置ク処ノ銃九挺ヲ奪ハレタリト云、

一我哨兵所前日ノ如シ、

五月廿八日　晴

一午前第十時、本陣ニ至リ、午後二時過キ城山ニ帰ル、

一我哨兵所前日ノ如シ、

五月廿九日　晴

一午前第四時卅分過ヨリ、曽我(祐準)少将ノ引率スル第四旅団第三大隊第一中隊・第三中隊、賊軍ト多賀山ヨリ花倉(けくら)ノ間ノ山谷ニ戦争、官軍一度賊ノ台場ヲ乗取ルト雖、賊再ヒ襲来劇戦、官軍利アラスシテ引揚、各我防禦線ヲ守ル、官軍死傷六十四名ナリ、賊ニモ死傷アリト、久宗中尉・眞鍋本承実地見ル処ヲ帰リテ予(ニ脱カ)報ス、

一午前第十時、本陣ニ至ル、正午十二時城山ヘカヘル、

一午前第八時、畠山軍吏補本部ニ来ル、

一午後七時頃ヨリ、竹ノ橋・高麗橋ノ川向ヒ南西ノ人家ニ放火ス、新上橋西向ヒノ人家ニ放火ス、

一我哨兵所前日ノ如シ、

五月三十日　晴

一本日会議無之、

一本日午前高島(鞆之助)少将・阪井(重季)少佐・井上(光)少佐等櫻島ニ至リ魚猟、魚若干得タリ、午後九時頃本部ニカヘル、

一午後八時頃・我哨兵線外西田橋・高麗橋ノ間ノ人家ニ放火ス、

一我哨兵所前日ノ如シ、

一雇夫西山英助・山田積之僕市五郎ノ両人願ニ依テ、国元ヘ帰ルコトヲ許ス、午後兵庫丸ニ乗組セタリ、

一此日蒲地某櫻島ヨリ来リ、警視隊ニ降伏スト云、

五月三十一日　晴午後ヨリ曇

一午前四時頃、兵庫丸鹿児島港ヲ出船ス、

一午前第九時四十五分、本陣ニ至ル、同十二時前城山ニカヘル、

一賊将桐野利秋此頃豊後辺ニ至リ、旧藩士ヲ募リタル由、之レヨリ先キ豊後・日向旧小藩士等賊徒来リ脅迫スルヲ憂ヒ、該県庁ニ上申スルト云報知アリ、

一午後六時頃ヨリ竹ノ橋外ニ放火アリ、

一我哨兵所前日ノ如シ、

六月一日　晴

一本日ヨリ財部羌城山本部ニ宿ス、

一午前第十時、本陣ニ至リ、午後六時過本部ニカヘル、

一本日我第二駢隊ヨリ本陣ヘ差出ス処ノ人員千百四十三人、○内上長官三名○士官三十八名○下士官百八十七(内伍長心得五十三名)名○会計官三名○卒七百九十壱名○小使壱名○従僕十九名○傭夫百名内一名丸亀ヨリ定人足

右

一本日下士以下夏服受取、夫々給与候旨畠山軍吏補ヨリ届出ル、

一我哨兵所前日ノ如シ、

六月二日　晴

一ブランデー其他ノ物品、今般在京将官以下下士以上并文官出仕輩及ヒ本省等ヨリ慰問トシテ、送致相成候ニ付テハ、当団糧食課ニ於テ夫々分配可致候条、受取人同課へ可差出、尤厚意之段ハ各部下へ可申諭旨、高島少将ヨリ被達候事、　六月一日

一本日大山少将ヨリ来翰アリ、心得ノタメ川村参軍ヨリ左之通被差回、○別紙　本日武田(大分県)攻撃ヲ行ヒ其部署左ノ如シ、

右翼ハ福原大尉(豊功)指揮シテ本街道及鬼ケ城(竹田市)ヘ、中軍小川(又次)少佐ハ平田村(竹田市)ヨリ古城ノ正面ヘ、左翼ハ青山少佐(朗)ハ古城ノ左側ニ各侵入ノ約ヲ定メ、午前第三時暁霧ニ乗シ攻撃ヲ始シム、賊各処ノ嶮ニ拠リ頗ル防戦ス、然リト雖トモ我兵猛烈ノ進撃ニシテ、終ニ保ツ能ハス、器械・弾薬・死体ヲ捨テ潰走ス、時ニ午前第七時ナリ、是ヨリ尾撃シテ竹田ニ入ル、賊ハ緒方街道ヲ取テ走ル者多キニ居ル故ニ、攻襲偵察ヲ進テ彼レカ蹤跡ヲ索メシム、将タ竹田ハ過半焼失、目今烟焰熾ンナリ、土人ニ命シテ消防ニ付カシム、尚賊ノ居処探知シテ進撃可致見込ニ候、本日ノ負傷未分明ト雖、至テ寡少ナリ、悉詳取調ノ上可申述候得共、先不取敢此段及御報知候也、

五月廿九日午後一時　大佐野津道貫

谷少将殿

追テ旧岡藩士降伏スル者数多アリ、右ハ大分県官吏当地へ出張セシニ付、夫々取調引渡置タリ、

右本日午前八時差回セラル、

一午前第十時、本陣ニ至ル、会議済同十一時過城山ニカヘル、

一我哨兵所前日ノ如シ、

六月三日　晴

一午前第七時頃、畠山軍吏補城山本部ニ来ル、

一同第九時過、本陣ニ至リ、会議済午後四時頃我本部ニ帰ル、

一同我哨兵線城ケ谷・冷水ノ山上ノ塁ニヲイテ、第一大隊第四中隊二等卒橋本藤一郎賊ノ流弾ニ中リ、負傷ノ旨届出タリ、但シ銃丸腹ヲ貫ト云、○午後第一時三十分死去ノ旨軍医届出ル、

一第二大隊第三中隊伍長福富浪次五月三十日城山ニ於テ銃創ヲ受ケ即日入院加療、其効ナク本日午後第一時死

去ノ旨、大軍医實吉安純ヨリ届出タリ、
一今朝大山少将熊本ヨリ帰ル、該地ノ景況左ノ通、
○山田少将ハ人吉ヨリ二十町計手前ニ責メ入リ陣スル由、左右翼ク未タ進マス少シヲクレタル由、○川路少将ハ出水ニ宿陣スルト云、
一在京西郷中将以下下士以上文官出仕官ヨリ、為慰問酒并ブランテー其外種々ノ品ヲクラレ、本日会計官受取諸隊ニ分配シタリ、
一伊集院屯集(本帥貴島清)ノ賊徒千六百人計伊敷ニ引揚タリト云、不日大進撃ノ由、本日ノ探偵人帰リ報ス、
一城ケ谷山上ニ野戦砲ヲ居ヘ一発スルヤ、砲破毀シタリ、
一木戸孝允逝去ノ事ヲ聞ク、
一賊徒等大久保利通・川路等両氏ノ親族悉ク殺害スル由ヲキク、又賊ニ組ストモ殺害スルト云、土人ノ説ナリ、
一哨兵所前日ノ如シ、
六月四日　晴(午後六時ヨリ曇、同十一時過ヨリ大雨)
一午前第十時、本陣ニ至ル、例ノ会議済同十一時四十五分城山ニ帰ル、
一午後七時、平部会計監督(朝依)我本部ニ来ル、
一川路少将(利良)ヨリ報知左ノ通、

小野田氏帰陣候テ、爰許ノ情状御聞取ノ事ト存候、其後五月廿五日出水(いずみ)矢筈山ヲ抜ク、「畑谷直英」手負タリ、
○二十六日午前第二時頃賊矢筈山ニ襲来シ、第三大隊長平野正行(大隊長心得、中尉)ノ本陣ニ迫マル、我カ軍奮戦、賊将鳥居數江外八名ヲ斃ス、一人ヲ生捕忽ニシテ追払タリ、賊ハ皆肥後人也、分捕銃器二十挺・刀一本・弾薬数百発アリ、平野正行深手、宮内盛高(中警部)刀傷(命ニ気遣ナシ)、田中近憲(少尉)戦死、平野ハ二十八日ニ至リ死ス、二十七八日矢筈山ノ上ヨリエラゴ山(永良川)・岩屋山等ノ賊塁ニ対シテ互ニ打合タリ、二十九日払暁女岳山ノ下ニ丸田中尉ノ大砲ヲ備ヘテ、エラゴ山ニ打掛ケ、宇都中尉ト上田中尉(良貞)トノ手ヲ以テエラゴ山押登リ、賊塁数ケ所ヲ抜キ之レヲ占ム、第二丁卯艦ハ米ノ津沖ニ廻リ、野間原并櫓木山・米ノ津ニ向ツテ砲撃ス、賊驚走ル、エラゴ山ヲ落シテ後、又丸田ノ大砲ヲ男岳権現堂ノ迹ニ上ケ、岩屋ノ賊塁ヲ見下シテ之レヲ打、賊死体ヲ捨テ散々ニ潰走ス、賊小銃十三挺其余品々分捕アリ、賊ハ皆出水ノ者也、午後第四時頃騎西ノ中半小隊ニテ之レヲ占メタリ、矢筈山脈ノ地方此ニ至テ全ク平定ス、則野間原ニ哨兵線ヲ打卸シ、堅固ニ之レヲ保ツ、米ノ津ハ已ニ我有ナリ、御安心有

之度、右概略及御報知候也、

五月三十日　　　　川路少将

(良顕)
田邊中佐殿

一我哨兵所前日ノ如シ、

六月五日　雨夜中大雨

一午前十時、本陣ニ至ル、午後一時城山ニカヘル、

一本月二日、官兵肥後人吉ヲ乗取ル、賊ハ多ク豊後路ニ入ルト云本陣ニテ聞ク、

一哨兵所前日ノ如シ、

六月六日　雨

一午前第十時、本陣ニ至リ、正午十二時城山ニカヘル、

一我哨兵所前日ノ如シ、

六月七日　晴

一午前六時頃ヨリ、賊徒我哨兵所ニ向ツテ大砲ヲ武ノ丘ノ山上ヨリ放ツ、砲丸我仮本部ノ近傍ニ破烈ス、又市街処々ニ破烈ス、又第四旅団炊事所ニテ破烈、人夫二人即死ス、

一慰労トシテ酒肴下賜ノ旨、高嶋少将ヨリ被達候事、

一第一大隊第三中隊兵卒瀬尾伊ノ吉、賊ノ流弾ニアタリ負傷ノ旨届出アリ、

一本日本陣ニイタラス、

一哨兵所前日ノ如シ、

六月八日　雨

一午前十時、本陣ニ至ル、同十一時城山ニカヘル、

一本日熊本本営ヨリ鹿児島本営ニ報知左ノ通、

○人吉士族新宮嘉善以下三百人、賊徒ニ組セシ者過ル二日悉ク降伏ス、賊徒ノ景況、降伏人口状ニ詳ナリト雖トモ略之、

一賊武ノ丘ヨリ鹿児島市街ニ向ケ大砲ヲ発ス、多ク市中ニ破烈ス、

一予テ長崎ヘ本陣ヨリ汁文ノ士官・文官夏服送リ来リ、夫々分配ノ事、

一哨兵所前日ノ如シ、

六月九日　雨午前第九時過キヨリ晴

一午前第十時、本陣ニ至ル、正午十二時城山ニカヘル、

一賊大砲ヲ発ス前日ノ如シ、

一議官佐野常民・同大給恒等今般願ノ上、博愛社ヲ設ケタル旨御達シアリ、別紙アレトモ略之

一我哨兵所前日ノ如シ、

六月十日　曇午後第三時頃ヨリ雨降風吹

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後第三時過城山ニカヘル、
一賊徒大砲ヲ発スル昨日ノ如シ、
一豊後路ニ於テ、薩人郷田源助降伏ス、賊ノ本営ヨリ令シテ最早是迄ナリ、官軍ニ降ルモ殺ス事必セリ、仍テ必死ヲ以テ戦フ可シト云トイヘリ、〇又土州ニ蜂起云ミノ説モアリト熊本ヨリ本日報知アリト云（本陣ニテ聞ク）、
一午前第九時過、大島軍吏補城山本部ニ来ル、
一午後第三時頃、畠山軍吏補城山本部ニ来ル、
一我哨兵所昨日ノ如シ、

六月十一日　大風雨入梅前六時四分五七秒

一本日本陣ニ至ラス、
一第一大隊第四中隊二等卒曽我部常蔵、昨十日賊ノ流弾ニ中リ、負傷ノ旨該隊ヨリ届出タリ、
一哨兵所前日ノ如シ、

六月十二日　晴風

一午前第九時三十分、本陣ニ至ル、正午十二時城山ニ帰ル、
一賊大砲ヲ発、昨日ノ如シ、
一本日岡澤（精）中佐本部ニ来リ、旗手山口少尉ト囲碁、各勝敗アリ、但土屋大尉外二名同行ナリ
一我哨兵所処ミ壁塁破損アリ、之レニ繕ヒヲ加ヘタリ、
一哨兵所ハ前日ノ如シ、

六月十三日　晴午後曇同七時頃ヨリ雨

一午前第十時、本陣ニ至ル、正午十二時城山ニカヘル、
一賊大砲ヲ発スル昨日ノ如シ、石燈爐（いずろ）通リニテ傭夫数名負傷シタリ、
一芝・眞鍋両氏市街ニ至リ、賊ノ発スル砲丸破烈スル処ヲ検シ帰テ予ニ報ス、
一曹長渡邊渉我城山本部ニ来リ、眞鍋木承妻丸亀ニ於テ去月死去スル旨報シタリ、
一旗号・喇叭号本日左之通改正ノ旨、旅団長高嶋少将ヨリ被達、

旗号

丁日　赤
半日従前之通　白
問　十文字　十
答　半円　⌒

喇叭号

問　右向ケノ譜後チ半分
タター　テー

タター　テー
　ターターター
答　三声譜
右
一哨兵所前日ノ如シ、
六月十四日　晴風
一午前第八時頃、畠山軍吏補我本部ニ来ル、
一同十時、本陣ニ至ル、正午十二時城山ニ帰ル、
一本日本陣ニテ伝聞スル左ノ通、
去ル五月三十日西郷隆盛人吉ヲ立去ル由、〇本月二日人吉戦争賊大敗、官軍勝利、此日官軍人吉ニ放火シ賊ヲ囲ム、賊北クル処ヲ知ラス数百人降伏ス、分捕銃三百挺金弐万円余ナリト云、〇又賊処々敗北ク、官軍尾撃追々日・薩両国ニ進入スル由ナリ、
一賊武ノ山ヨリ大砲ヲ発スル前日ノ如シ、
一我哨兵所前日ノ如シ、
六月十五日　曇
一午前第四時三十分、第四旅団多賀山并冷水谷間ヨリ賊ヲ討ツ、勝敗決セス、暫時ニシテ戦ヲ止タリ（官兵負傷二名砲兵中尉一名即死）、
一午後本陣ニ至ル、少将高島君ト同船、近海ニ漁猟ス、同八時城山ニ帰ル、
一午前十一時、我哨兵所新上橋外ニ田原三省ナル者来リ降伏シタリ、直ニ本陣ニ引渡ス、即日戦地ノ探偵ヲ命ス、
一我哨兵所前日ノ如シ、
一賊大砲ヲ発スル前日ノ如シ、市中ニ砲丸破烈、負傷人アリタリ、
六月十六日　曇
一午前第十一時、本陣ニ至ル、午後一時城山ニカヘル、
一午前第一時過キ、降伏人田原三省賊地探偵出来ガタキ旨帰リ報ス、
一午後芝・眞鍋、杉本軍医補ノ処ニ至リ帰リテ、予ニ告クル左ノ如シ、〇五月廿四日東京鎮台第三聯隊第二大隊ノ内、第一・第二中隊丸亀営所ニ出張相成、又同廿七日士官三名・同生徒十名・下士三十名出張、之レハ新徴兵仕込ノ為ナル由、〇六月一日ヨリ十日迄ニ新兵入営ノ由、〇右ハ丸亀在勤看護人松田國五郎ヨリ来翰ナリト云、
一哨兵所前日ノ如シ、
一賊大砲ヲ発スル前日ノ如シ、此日人夫砲丸ニ中リ即死

二名アリ、

六月十七日　曇

一午前第八時、第四旅団ヨリ三ツ巻(弘義)大尉我本部ニ来ル、

一午前第十時、本陣ニ至ル、正午十二時カヘル、

一午後第四時、我隊大石(篤実)大尉来ル、

一本日城山「ニーケ(肉桂カ)」ヲ堀リ取、「ランビキ(蘭引)」ニテ「ニーケ」酒ヲ取リタリ、

一賊大砲ヲ夜ニ入リ市街ニ向ケ放ツ数発、

一本月十三日三浦少将大口ヲ取ル、山田少将加久藤(かくとう)・小林・吉田等ヲ取ル、川路少将出水(いずみ)ヲ取ル、追々攻撃ノ手筈ナリト本陣ニテ聞ク処ヲシルス、

六月十八日　曇

一午前第十一時、本陣ニ至ル、午後第四時頃城山ニカヘル、

一賊大砲ヲ発スル前日ノ如シ、

一哨兵所前日ノ如シ、

六月十九日　雨午前十一時頃ヨリ雨止、シカレトモ晴ニイタラス、

一午後第二時過、本陣ニ至ル、同十一時頃城山ニカヘル、

一午後第二時頃高麗橋ヨリ官兵ヲ出シ、賊ヲ脅威セシムルニ、賊勢凡三百人計ヲ出シテ散兵ニ配布シ、官兵ヲ討ツ、官兵之レニ僅カニ応シテ引揚タリ、

一我哨兵所前日ノ如シ、

六月二十日　雨日薄雨止ム、晴レニ至ラス、

一午前第十時、本陣ニ至ル、午後五時城山ニカヘル、

一明廿一日周囲ノ賊徒我防禦線ノ右方ニアル処ノ者ヲ攻撃スル為メ、我隊始メ左之通今夜十二時乗船、重富へ廻リ上陸、賊ヲ討ツヘキ命アリ、依テ諸隊乗船スト雖、彼是淹滞終ニ出帆ヲ見合ス、〇重富廻リ兵隊左之通、

〇第四旅団ヨリ二大隊〇別働第一旅団ヨリ一大隊即チ我第二大隊ナリ〇外遊撃別手組切込隊ナリ、〇重富廻リノ船左之通、

軍艦　二艘但シ我第二大隊ハシヤ竜丸ニ乗組ム　商船　四艘

一賊大砲ヲ発、前日ノ如シ、

一哨兵所ハ第二大隊ノ持場ヲ此日第一大隊ノ援隊ヲ以勤タリ、

六月廿一日　晴

一重富へ向ケ出艦セサルニヨリ、午前本陣ニ至リ会議、午後第八時決議シ、昨日命ノ如ク我隊乗船ス、

一城山哨兵所ハ我第一大隊ニテ勤ム、

六月廿二日　曇午前第十一時ヨリ晴天、午後九時三十分ヨリ同十二時迄大雨

一喇叭暗号・記号共別紙之通被相定候旨、御達ニ付テハ

来ル廿六日ヨリ施行可致候条、此旨予テ相達候事、
但シ手旗ノ義ハ各隊ニ於テ調製可致事、

十年六月廿一日　少将高嶋鞆之助

各隊宛

別紙

喇叭暗号・記号共別紙之通、更ニ相定候事、

六月十七日　総督本営

別働第一旅団

別紙

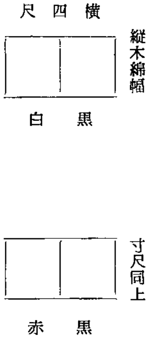
記号

問　射的当リ四点ヲ顕サハ　答　五点ヲ以テス

問　横一文字ヲ顕サハ　答　輪形ヲ以テス

丁ノ日　白黒

半ノ日　赤黒



喇叭暗号

問　第一聯隊　答　第二聯隊

一午後二時前来翰左之通、

重富ヨリ唯今罷帰リ候、彼ノ地六時直ニ上陸、六時五十五分白金ヲ取ル、我軍死傷四名、賊数百名皆散乱ス、仍テ押兵モ九時頃迄ニ皆坂(白金坂)ニ登ル、散兵尾撃ノ模様ナシ、然ルニ多賀山ノ開戦余リ早過キ候故、唯今ニ至リ少々不都合相成候故、御場モ盛ニ虚撃ナシ被下奉頼、最早今ヨリ二時間ニハ必ス連絡可相付ト奉存候也、

六月廿二日　曽我少将

高島少将殿

一午前第四時、我隊并総軍重富ヘ着船、兵隊漸ク上陸スルヤ否、脇本ニ僅カノ賊アリ、即六時四十分開戦、討ツテ之レヲ退ク、同処農家四五十軒アリ、我兵之レニ放火ス、

右着船ノ場ヨリ右ニ見ユル村落ヲ松原ト云フ、賊ハ我軍加治木ヨリ上陸ト思ヒシヤ、松原ト脇本トノ中間ニ在ル川堤ニ僅カニ兵ヲ以守備セリ、第五時三十分予上陸、芝大尉随行本道ヲ進ム、第二大隊第一中隊ハ左傍ノ道ヲ進ム、其他ハ本道及ヒ右傍ノ道ヨリ進ム、而シテ本道(即白金道ナリ)ハ甚嶮岨ニシテ、山間樹木粗薄ニシテ恰モ箱根山ノ如シ、山ヲ登ル八合ニシテ予阪本少佐(純照、第四旅団参謀)・伊勢(好成)

治大尉等ト一旦駐止ス、此処迄異情ナキヲ岡澤中佐ニ報ス、夫ヨリ山嶺ニ登リ左方ニ寄リ、海岸迄散兵セシメ、此ニ於テ戦闘、賊ヲ追払ヒ漸〻進取、午後二時三十分七久保ニテ、第二大隊第一中隊・同第二中隊ノ左小隊賊ト戦ヒ之レヲ抜ク、是ヨリ第一聯隊第三中隊ヲ先頭トシ即交代ス、午後六時三十分第四旅団ヨリ更ニ出ス処ノ戦隊兵ニ出会、連絡ヲ取リ賊ヲ討ツ、賊敗走ス、シカレトモ雀ガ宮(すずめがみや)ニ登リ二本松ノ方ヲ望ムニ、薄暮ニ至ルモ戦ヲ止メス、頗ル戦闘盛ナリ、本日我軍ノ死傷五六十名賊生捕数名アリ、第一聯隊伊勢治大尉ノ隊ニ臼砲三門ヲ分捕ス、前文ノ如ク本日戦争大勝利ナルヲ以、第四旅団ハ哨兵線ヲ進メテ、本日有トスル地ヲ以防禦線トス、

午後第十二時予城山本部ニ帰ル、

一本日午前第四時三十分、第一大隊第四中隊ヲ線外ニ出シ、凡五百米突ノ地ニ進ム、此時他ノ大隊ヨリ一中隊(上野大尉ノ隊ナリ)ヲ出シ、之レト合シテ散兵ヲ布キ、北方ナル賊ノ守塁ニ攻撃シテ、重富ヨリ進撃ノ助力ヲナス、賊之レニ応ス、又同日午前第六時三十分第二中隊ヨリ半隊ヲ其線外ニ出シ、西ノ山手ノ賊ヲ撃ツ、賊モ亦僅カニ之レニ応ス、午後第一時引揚タリ、第四中隊ハ午後第六時引揚タリ、戦闘負傷者四名アリ、此日高嶋少将第四中隊ノ哨兵所ニ出張アリ、○午前第四時半高麗橋線外ヨリ山ノ手ノ賊ヲ討ツ、賊亦之レニ応ス、同六時過キ引揚タリ、○又午後五時頃西田橋線外ヨリ武村ノ賊ヲ討ツ、是亦暫時ニシテ引揚タリ、

一本日多賀山ヨリ進撃スル四旅団ノ兵ニ死傷数多アリト云、

一本日戦争ニ死傷総人員八十余名ナリ、後ニ聞ク処ヲシルス、

「木」来第六百三十一号 (日記七の重複部分より補う)

哨兵線通行印鑑　壱葉

但シ第六十五号

左端ニ鹿児島出張三菱支社藤本信顕トアリ、

右印鑑昨廿一日紛失ノ旨届出候条、所持ノ者見当リ候節ハ直ニ取上ケ、当営へ差出候様、各部哨兵一般へ至急可被相達候也、

六月廿二日　参軍本営

右高嶋少将ヨリ被達

六月廿三日　曇

一昨日進撃シテ乗取ル処ノ二本松其他ノ諸塁、本日賊襲来シテ第四旅団兵（即大沼少佐ノ隊）狼狽敗走、再ヒ賊ノ有トナル、此日我軍団（四旅）死傷数多アリト云、

一豊後路野津（道貫）大佐ノ隊、近日重岡ヘ進入ノ部署定マリシト本営ヘ本道ヨリ報知アリト云、藤田少尉ヨリ聞儘ヲシルス、

六月廿四日　曇（午後微雨南風同七時頃ヨリ暴風雨）

一未明ヨリ別働第一旅団第一聯隊ノ兵・同独立第一大隊兵・巡査隊・別手隊等谷山海岸ヨリ進撃、暫時シテ谷山ヲ乗取リ、賊敗北、夫ヨリ此方ニ向ヒ進撃ス、賊敗走ス、シカリト雖、武ノ丘ニ賊固守シテ去ラス、山嶺ニ数時間官賊大劇戦、夜ニ入十時頃賊敗走ス、官兵山上ノ台場ヲ取ル、是ヨリ前キ処々ニ放火ス、夫ヨリ武村（西郷ノ家）等尽ク烏有トナル、夜十二時頃処々要地ニ哨兵ヲ配布ス、此日第二聯隊第二大隊ノ内ヨリモ出兵、哨兵（以下廿四日末マデ日記七ノ重複部分ヨリ補ウ）ヲ張ル、

一此日軍艦二艘谷山ノ沖ニ来リ官兵ヲ援助ス、

一本日死傷弐百名余ト云、

分捕大砲其他諸品アリ、

賊ノ死傷四百名余ト云、

一午後二時頃、本陣ニ至リ、同五時過キ城山ニカヘル、

一去ル廿日大口ニ向ヒ進撃、一時頗ル苦戦ナレトモ遂ニ同処ヲ陥レ、尚進撃シテ一里程前面ニ進テ防禦線ヲ定ム、其地名ヲ詳ニセス、追テ申進スヘキ旨三浦少将ヨリ電報アリト、山縣参軍ヨリ川村参軍ヘ申シ越ス、

一出水ノ賊六小隊其隊長始メ人員六百名、脅迫ニヨリ不得止賊ニ組シタル旨ヲ以テ、我軍ニ帰順降伏ス、依テ指令ヲ川路少将ヨリ伺ヒ出ル旨、山縣ヨリ川村ニ申シ越ス、○此指令戸長預ケ、尤深ク注意ナスヘシトアリ、

一土佐ハタ（幡多）郡士族五百名余沸騰シ、スクモ（宿毛）ニ出テ、日向路ニ渡海モ難計、依テ孟春艦笠間少佐ヨリ伊豫ヘ回艦ノ伺アリ、指令伺之通右山縣ヨリ川村ニ申越ス、

黒木為楨日記（明治十年自六月二十二日至八月十五日）七

九冊之内

鹿屋（かのや）ヨリ串良（くしら）ヘ三リ、○串良ヨリ志布志ヘ五リ、大崎ヘ二リ程、○串良ヨリ草野ヘ三リ弱、○草野ヨリ月野ヘ三リ、○月野ヨリ荒佐ニ二リ半、土人ハ三リト云、○荒佐ヨリ高隈ヘ二リ、○高隈ヨリ市成（いちなり）ヘ四リ、百引（もびき）ヘ一リ

余、○市成ヨリ恒吉ヘ二リ強、○恒吉ヨリ岩川ヘ二リ余、○岩川ヨリ末吉ヘ二リ、○末吉ヨリ都城(みやこのじょう)ヘ二リ、○末吉ヨリ岩川本道ヲ井崎田(いさきだ)村ニ至ル、里程四リ三合ト云(末吉ヨリ松山間道ヲ経テ井崎、田ニ至ル、行程三リ余ト云)

井崎田ヨリ志布志ヘ二リ三合、志布志ヨリ福島ヘ三リ、福島ヨリ外浦(とのうら)ヘ五リ、外浦ヨリ飫肥(おび)ヘ四リ(飫肥ヨリ油ノ津ヘ二リ)、油ノ津ノ山道ヨリ吹毛井三リ、五十丁一リ、此処鵜戸神社アリ、吹毛井ヨリ内海(うちうみ)ヘ四リ、内海ヨリ折生迫(おりゅうざこ)ヨリ平坦ノ道城ケ崎(じょうがさき)ヘ四リ半、城ケ崎ヨリ佐土原ヘ四リ、佐土原ヨリ高鍋ヘ三リ、以上五十丁一リ、高鍋ヨリ都(つの)濃ヘ四リ余、

(六月二十二日より同二十四日までは日記六と重複につき省略)

旧五月十五日

六月廿五日　曇(午後八時半頃ヨリ雨降)　月曜

一午後四時過、本陣ニ至リ、同十時過城山ニカヘル、

一本日別働第三旅団ノ兵一大隊(川路少将ノ隊)、宮ノ城ヨリ催馬楽(せばる)ニ進入スルニ、賊徒戦ハスシテ遁逃ス、依テ無難ニ鹿児島城下ニ着ス、

一午後川路少将ノ隊催馬楽ニ進入ニ付、我第一大隊第一・第三・第四中隊ヨリ近傍ニ斥候ヲ差出スニ賊アリ、之レヲ撃ツ、僅カニ応シテ去ル、依テ玉江橋ノ西ニアル水車場ニ放火、続テ賊ノ守塁ヲ毀チ哨兵所ヲ焼キタリ、

一本日西田橋ノ西正面ニ当ル山(即昨日劇戦シテ乗取処)ニ我軍(第一聯隊並独立第一大隊)胸壁ヲ築ク、

一本日我第二大隊ノ内ヨリ、新上橋ノ東山ノ端ヨリ西田橋迄哨兵ノ命アリ、直ニ命ノ通リ之レヲ行フ、

但シ第二大隊本部ヲ新上橋ノ近辺ニ置キ、井上(光)少佐・同副官等之レニ移ル、

旧五月十六日

六月二十六日　雨(午前十時過ヨリ雨止午後二時過ヨリ大雨夜ニ入雷鳴二三声)　火曜

一本日第四旅団ヨリ吉野ノ方ニ斥候ヲ出ス、

一本日別働第一旅団第一聯隊ヨリ伊集院(いじゅういん)道ノ横井辺ヘ向ケ斥候ヲ出ス、

一午前九時頃、出水(いずみ)道ヨリ川路少将四大隊ヲ引率シ、鹿児島城下ニ進入ス、

一午前十時過、本陣ニ至リ、会議ニ列座、午後八時過城山ニカヘル、

「木」発第六百十号

一別紙ノ通御達相成候ニ付テハ、明廿七日午前第九時其隊之内一中隊、谷山麓(ふもと)辺ヘ巡邏トシテ可差出、尤随行県官之義ハ、直ニ其隊ニ引合可致旨相達置候間、此旨